

授業科目名：英文法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤 豊美 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
英語を専攻する学生として、英文法に関する専門的な知見を持ち、よりよい発話行為や英文解釈及び英作文の手助けとなるような実践的能力を養うことができる。						
<b>授業の概要</b>						
英文法に関して、より高度な内容を解説し、練習問題を通して学習する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：英文法を学ぶ意義						
第2回：文とは何か						
第3回：基本5文型とその発展						
第4回：名詞句の構造						
第5回：動詞句の構造（動詞型）						
第6回：冠詞（定・不定）						
第7回：文構造（中間試験）						
第8回：修飾I（形容詞的修飾）						
第9回：修飾II（副詞的修飾）						
第10回：新しい英文法のとらえ方（ハートで感じる英文法）						
第11回：前置詞と前置詞句						
第12回：時制と相						
第13回：洋画から学ぶ英文法						
第14回：法の概念						
第15回：法助動詞と仮定法定期試験						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
新大学英文法（石黒昭博他著、金星堂）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
英文法総覧（安井稔著、開拓社）						
<b>学生に対する評価</b>						
講義への取り組み度 20%、中間試験 40%、期末試験 40%						

授業科目名：英文法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小橋雅彦 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
英語を専攻する学生として、英文法に関する専門的な知見を持ち、よりよい英文解釈や英作文の手助けになるような能力を養う。						
<b>授業の概要</b>						
「英文法Ⅱ」では、「情報構造と文法」について学習する。文と文を効果的につなぐために、英語にはどのようなメカニズムが備わっているのかに注目し、話し手や書き手が聞き手や読み手に対して、意味内容をどのように効果的に伝える工夫をしているかについて学習する。授業では教科書を用いて、新しい視点から英文法に光をあて、練習問題を通して学習を進めていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：情報構造（新情報と旧情報、情報構造の諸相）						
第2回：情報構造（情報構造と「文末焦点」原則）						
第3回：語順（主題となる要素の文頭への移動、重要な情報の文末への移動）						
第4回：語順（主題となる要素の文頭への移動と重要な情報の文末への移動の混淆）						
第5回：前提と焦点（音調による方法、語順による方法、強調の語句を用いる方法）						
第6回：前提と焦点（特別の構文を用いる方法、焦点と否定）						
第7回：代用と省略（復元可能性、代用）						
第8回：代用と省略（省略、中間試験）						
第9回：文の連結（従位と等位、情報構造と従位・等位、注意すべき主従関係）						
第10回：文の連結（関係節と文の連結、分詞構文）						
第11回：話法（時制の一致、話法の転換、描出話法）						
第12回：文体と丁寧表現（書き言葉と話し言葉、形式ばった言い方と形式ばらない言い方、丁寧な言い方と打ち解けた言い方）						
第13回：さまざまな発話の機能（命令、依頼、許可、提案、忠告）						
第14回：英語特有の構文（名詞的な構文、無生物主語の構文）						
第15回：意味と文法（選択制限、曖昧性）						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
新大学英文法（石黒昭博他著、金星堂）						
参考書・参考資料等						
Practical English Usage Fourth Edition (Swan Michael, Oxford University Press)						
<b>学生に対する評価</b>						
講義への取り組み度 20%， 中間試験 40%， 期末試験 40%						

授業科目名： 英語学概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：末弘 美樹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 言語学・英語学の基本的な専門用語の説明と例示ができる 2. 英語学の文法事項や現象について十分に理解する						
<b>授業の概要</b>						
「英語」の輪郭をつかむためのコースである。英語という言語が持つ様々な言語現象について探求し、基礎的な知識を身につけることが目的である。そのため、音声学・音韻論、語用論統語論、形態論、意味論、英語史、英語コーパスに関する専門用語など幅広く取り扱う。幅広い角度から言語現象を理解するためには、英語や日本語以外の言語に触れることが理想的であるが、本コースでは、必要に応じて英語と対立的な面を多くもつ日本語を対照言語として扱う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：英語学とは何か						
第2回：音声学・音韻論（母音と母音体系、子音と子音体系、形態音素交替、音節とモーラ）						
第3回：音声学・音韻論（アクセント、文アクセントとイントネーション、リズム）						
第4回：形態論（形態論とは、派生形態論の主な仕組み、派生形態論のその他の仕組み）						
第5回：形態論（派生と複合に課される一般的な条件、複合名詞の意味について）						
第6回：統語論・生成文法（句構造、名詞句）						
第7回：統語論・生成文法（移動、生成文法の企て）						
第8回：統語論・機能的構文論（文の情報構造、視点）						
第9回：語彙意味論（語の意味、意味関係、多義）						
第10回：語彙意味論（名詞の意味、動詞の意味）						
第11回：認知意味論（認知言語学、カテゴリー化とプロトタイプ、メトニミー）						
第12回：認知意味論（語の意味、抽象概念とメタファー、事態の解釈、概念融合）						
第13回：語用論（語用論という領域、発話の論理形式、表意、推意）						
第14回：語用論（概念的情報を持つ表現、手続き的情報を持つ表現、記述的しようと帰属的使用、日英比較）						
第15回：これまでのまとめ、英語史と日本語史、世界の英語						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
英語学の基礎（三原健一・高見健一編、くろしお出版）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しないが、必要に応じて授業内に参考資料を配布もしくは提示する						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 学習した内容に対するミニッツペーパーの提出 30% 2. 授業内確認テスト 20% 3. 学期末試験 50%						

授業科目名： 英國文学史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松井かや			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>イギリス文学における代表的な作家や作品に関する知識を身につける。</p> <p>各々の作品について、それらが生まれた時代背景を理解し、説明できる。</p> <p>時代と結びついた多様な文学の特質について説明できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
イギリスの黎明期から17世紀までの文学の流れを概説する。個々の作家や作品について知ると同時に、それらが生まれた背景を理解し、時代風潮や社会状況と文学が非常に密接に結びついていることを実感してもらえばと思う。主要な作品については原文の抜粋を読み、文学ならではの多彩な英語表現に触れる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：文学史を学ぶということ、古英語の文学						
第2回：中英語の文学						
第3回：ルネサンスの散文						
第4回：ルネサンスの詩（1）スペンサー						
第5回：ルネサンスの詩（2）ソネット						
第6回：演劇の発生と劇場						
第7回：シェイクスピア（1）『ロミオとジュリエット』						
第8回：シェイクスピア（2）4大悲劇						
第9回：シェイクスピア（3）ロマンス劇						
第10回：清教徒革命まで（1）ジェイムズ王聖書						
第11回：清教徒革命まで（2）ベン・ジョンソン						
第12回：清教徒革命まで（3）形而上派詩人たち						
第13回：王政回復期（1）ミルトン						
第14回：王政回復期（2）バニヤン						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
イギリス文学史（川崎寿彦著、成美堂）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に指示する						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への取り組み 20%、小テスト 10%、最終試験 70%						

授業科目名： 英國文学史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井かや 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>イギリス文学における代表的な作家や作品に関する知識を身につける。</p> <p>各々の作品について、それらが生まれた時代背景を理解し、説明できる。</p> <p>時代と結びついた多様な文学の特質について説明できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
18世紀から現代に至るまでの時代と文学の流れを概説する。個々の作家や作品について知ると同時に、それらが生まれた背景を理解し、時代風潮や社会状況と文学が非常に密接に結びついていることを実感してもらえばと思う。主要な作品については原文の抜粋を読み、文学ならではの多彩な英語表現に触れる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：18世紀の散文：スウィフトとデフォー 第2回：小説の誕生と成長（1）リチャードソンとフィールディング 第3回：小説の誕生と成長（2）スターントン 第4回：小説の誕生と成長（3）ゴシック小説 第5回：小説の誕生と成長（4）オースティン 第6回：ロマン主義時代（1）ワーズワースとコールリッジ 第7回：ロマン主義時代（2）シェリーとキーツ 第8回：ヴィクトリア朝の小説（1）ディケンズ 第9回：ヴィクトリア朝の小説（2）サッカレー 第10回：ヴィクトリア朝の小説（3）ハーディ 第11回：世纪末文学：ワイルド 第12回：第二次大戦までの小説（1）ジョイスとウルフ 第13回：第二次大戦までの小説（2）フォスター 第14回：第二次大戦までの詩と劇イエイツとエリオット 第15回：戦後の文学：グリーン、これからの英語文学・世界文学						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
イギリス文学史（川崎寿彦、成美堂）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に指示する						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への取り組み 20%、課題・小テスト 10%、最終試験 70%						

授業科目名： 日英比較文学史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：富田 裕子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 日英の女流文学を理解する。 2. 日英の女流文学作品を時代、社会的、文化的背景と関連づけることができるようになる。 3. 日英の女流文学の類似点、相違点が理解できるようになる。						
<b>授業の概要</b> この講義では18世紀から20世紀における英国と日本の女流文学や女性を主人公とした文学作品に焦点をあて、その起源と発展の過程を説明する。女性を主人公とした文学作品、あるいは女性によって書かれた小説、劇、エッセイ、詩などを取り上げ、各々の作品を時代、社会的、文化的背景とも関連づけ、その作品の文学的、歴史的重要性を述べる。映画化された作品については、映像を通して時代背景に対する理解を深めてもらう。更に日英の女流文学の国際比較を試み、類似点、相違点を受講生と共に考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス(講義の主要目的と意義、進め方、主要参考図書の紹介)						
第2回：英国の女流文学の起源と発展						
第3回：日本の女流文学の起源と発展						
第4回：英国の文芸サロン：ブルーストッキングソサエティと女流文学への影響						
第5回：日本の青鞆社と女流文学への影響						
第6回：英国の18世紀の女流文学 1：作品解釈と分析						
第7回：英国の18世紀の女流文学 2：映像による分析						
第8回：英国の19世紀の女流文学 1：作品解釈と分析						
第9回：英国の19世紀の女流文学 2：映像による分析						
第10回：英国における「新しい女」小説、劇の誕生と発展：作品解釈と分析						
第11回：英国の「新しい女」作品：映像による分析						
第12回：英国の「新しい女」作品が日本文学に及ぼした影響						
第13回：日本の明治期の女流文学						
第14回：日本の大正期の女流文学						
第15回：発表、総合討論、まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
授業中に適宜指示する。参考文献、資料などは必要に応じて紹介し、配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
欲ばりな女たち（伊藤航多・佐藤繭香他編著、溪流社出版）						
よくわかるイギリス文学史（浦野郁・奥村沙矢香編、ミネルヴァ書房出版）						
その他の参考文献、映像などについては、授業中に指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業への取り組み姿勢（質疑応答の積極性）：20%						
2. ディスカッション：20%						
3. 発表：30%						
4. 期末試験：30%						

授業科目名 : Intensive English	教員の免許状取得のための 必修科目（教科・66条の6）	単位数 : 2単位	担当教員名 : 末弘美樹、 Lukminaitė-Anand Simona、Anand Sanchit 担当形態 : クラス分け・単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語） 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション 外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 英語4技能（Listening, Speaking, Reading, Writing）を総合的に伸ばす 2. TOEIC・IELTS・TOEFLなどの検定試験でのスコアアップを目指す 3. 特に日本人学生が苦手とするSpeaking力をつける						
<b>授業の概要</b>						
総合的に英語の4技能を伸ばすための、英語集中強化コースです。留学に求められるTOEFL・IELTS・TOEICなどの英語能力試験のスコアアップを目指すとともに、特に日本人学生が苦手とするSpeaking力を伸ばすことを目標に置いています。そのため、上級・準上級・中級（Advanced, High Intermediate, Intermediate）という習熟度別クラスに分け、必修英語科目では十分カバーしきれない部分を補いながら、目的に見合ったスキルをさらに伸ばせるよう少人数定員編成で実施します。グローバル時代に必要とされる英語のスキルをそれぞれの目的に合わせて積み上げていけるようなプログラムになっているため、このプログラムを利用して十分な英語力を十分に身につけることができると考えています。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：推論問題・攻略法とサンプルスタディ／トピック：海外勤務						
第3回：内容一致問題とサンプルスタディ／トピック：職場文化						
第4回：推論問題とサンプルスタディ／トピック：記憶						
第5回：筆者の意図を問う問題とサンプルスタディ／トピック：ナルシシズム						
第6回：語彙問題とサンプルスタディ／トピック：健康食品						
第7回：指示語問題とサンプルスタディ／トピック：流暢なスピーキングのためのフィラー						
第8回：中間試験と評価および練習問題／トピック：育児休暇						
第9回：言い換え問題とサンプルスタディ／トピック：ミニマリズム						
第10回：文章挿入問題とサンプル学習／トピック：フェミニズム						
第11回：要約問題とサンプルスタディ／トピック：汚職						
第12回：表完成問題とサンプルスタディ／トピック：時間厳守						
第13回：ETS練習問題1／トピック：ネットワーク						
第14回：ETS練習問題2／トピック：成人式						
第15回：ETS練習問題3／トピック：高級食料品						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
・ETS The Official Guide to the TOEFL Test (Fifth Edition) McGraw-Hill Education (2017)						
・eigoPaathshala® textbook and audio (eigoPaathshala出版)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内の積極的な授業参加度30% 2. 課題への取り組み30% 3. 最終試験40%						

授業科目名 : Practical English	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数 : 2 単位	担当教員名 : Lukminaitė-Anand Simona 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>様々なジャンルや話題の英語を聞いて／読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p> <p>様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと【やり取り・発表】が能够すること。</p> <p>様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。</p> <p>複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。</p> <p>チームワークが能够すること。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>コミュニケーション能力の育成に重点を置きながら、4技能（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）を育成する授業である。学生は、様々な実用的なテーマを探求していきます。グループディスカッションやライティング課題を通して、多文化を比較し、自分自身の経験を分析します。各トピックの理解を深めるために、時事的なメディアソースを課題として扱います。事前にトピックを調べ、自分なりの考察や引用・画像などの補助資料を持参することが求められます。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回 : オリエンテーション						
第2回 : Unit 1: "Parenting." Activities to learn new vocabulary and gain confidence in listening and reading. (ユニット1: 「子育て」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします)						
第3回 : Quiz on Unit 1. Unit 2: "Sports." Writing assignments. Group discussion. (ユニット 1: クイズ。ユニット 2: 「スポーツ」。ライティング課題とグループディスカッションをします)						
第4回 : Quiz on Unit 2. Unit 3: "Exams." Activities to learn new vocabulary and gain confidence in listening and reading. (ユニット 2: クイズ。ユニット3: 「受験」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします)						
第5回 : Quiz on Unit 3. Unit 4: "Music." Writing assignments. Group discussion. (ユニット 3: クイズ。ユニット 4: 「音楽」。ライティング課題とグループディスカッションをします)						
第6回 : Quiz on Unit 4. Unit 5: "Restaurants." Activities to learn new vocabulary and gain confidence in listening and reading. (ユニット 4: クイズ。ユニット5: 「レストラン」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします)						
第7回 : Quiz on Unit 5. Unit 6: "School." Writing assignments. Group discussion. (ユニット 5: クイズ。ユニット 6: 「学校」。ライティング課題とグループディスカッションをします)						
第8回 : Quiz on Unit 6. Unit 7: "Exercise." Activities to learn new vocabulary and gain confidence in listening and reading. (ユニット 6: クイズ。ユニット7: 「運動」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします)						
第9回 : Quiz on Unit 7. Unit 8: "Traveling." Writing assignments. Group discussion. (ユニット 7: クイズ。ユニット 8: 「旅行」。ライティング課題とグループディスカッションをします)						
第10回 : Quiz on Unit 8. Unit 9: "Shopping." Activities to learn new vocabulary and gain confidence in listening and reading. (ユニット 8: クイズ。ユニット9: 「ショッピング」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします)						

第11回 : Quiz on Unit 9. Unit 10: "Breakfast." Writing assignments. Group discussion. (ユニット 7: クイズ。ユニット 8: 「朝食」。ライティング課題とグループディスカッションをします)
第12回 : Quiz on Unit 10. Unit 11: "Conversation." Activities to learn new vocabulary and gain confidence in listening and reading. (ユニット 10: クイズ。ユニット11: 「会話」。新しい語彙を学び、リスニングとリーディングアクティビティをします)
第13回 : Quiz on Unit 11. Unit 12: "Internships." Writing assignments. Group discussion. (ユニット 11: クイズ。ユニット 12: 「インターンシップ」。ライティング課題とグループディスカッションをします)
第14回 : Quiz on Unit 12. Group presentations. (ユニット 12: クイズ。グループ発表。)
第15回 Revision for the test. Help with the essay assignment and individual counselling. (最終テストに向けた復習。レポート課題の手伝い、個別カウンセリング)
定期試験
テキスト <i>Tsubomi 2</i> , (Anand, S.著, eP 出版)
参考書・参考資料等 <i>English Grammar in Use</i> (Murphy R.著, Cambridge University Press 出版).
学生に対する評価 クワイズ : 24% (12回x2) 発表 : 16% 最終テスト : 40% レポート課題 : 20% (400単語以上のレポート提出)

授業科目名 : English Presentation	教員の免許状取得のための必修科目	単位数 :	担当教員名 : Anand Sanchit 担当形態 : 単独		
		2単位			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)				
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション				
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <p>この授業のテーマは、英語で効果的なプレゼンテーションの準備と実施に必要な自信、知識、スキルの基礎を構築することです。</p> <p><b>到達目標は</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 人前で話すことの概念を理解し、適切に構成されたスピーチを行うことができる。</li> <li>(2) 様々なタイプの視覚的なサポートを用いて、よくまとまったスピーチ(フォーマルおよびインフォーマル)を行えること。</li> <li>(3) 短いディスカッションをリードし、積極的に参加できること。</li> <li>(4) 様々な場面で効果的なコミュニケーション（非言語を含む）をとることができること。</li> </ul>					
<p><b>授業の概要</b></p> <p>様々な場面に合ったプレゼンテーションを行うために必要なコミュニケーションスキルを紹介します。特に英語での発表の進め方と主流の方法を説明します。学生は、教科書のトピックについて短いプレゼンテーションを準備し、実施します。内容と伝え方に注意が払われます。</p> <p>また、学生たちはグループディスカッションに参加し、自分の意見を述べたり、支持したり、質問したり、答えたりすることが期待されます。相互フィードバックを生かしながらコミュニケーションがスムーズに進むために必要な自信を身につけていきます。</p>					
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：オリエンテーション、英語での自己紹介の特徴に関して、その実施</p> <p>第2回：トピック1「Memory」（記憶力） 記憶力というテーマのリーディング課題の後にディスカッションします。 プレゼンテーション作成の基礎に関して学びます。</p> <p>第3回：トピック2「Minimalism」（ミニマリズム） ミニマリズムというテーマの聴解課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。</p> <p>第4回：トピック3「Feminism」（フェミニズム） フェミニズムというテーマのリーディング課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。</p> <p>第5回：トピック4「Corruption」（腐敗） 腐敗というテーマの聴解課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。</p> <p>第6回：トピック5「The military」（軍事） 軍事いうテーマのリーディング課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。</p> <p>第7回：トピック6「Social media」（ソーシャルメディア） ソーシャルメディアというテーマの聴解課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。</p> <p>第8回：トピック7「Globalization」（グローバル化） グローバル化というテーマでのリーディング課題の後にディスカッションします。</p>					

スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。
第9回：トピック8 「Food waste」 （食品ロス） 食品ロスというテーマでの聴解課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。
第10回：トピック9 「Character」 （人格） 人格というテーマでのリーディング課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。
第11回：トピック10 「Education」 （教育） 教育というテーマでの聴解課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。
第12回：トピック11 「Stress」 （ストレス） ストレスというテーマでのリーディング課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。
第13回：トピック12 「Disasters」 （災害） 災害教育というテーマでの聴解課題の後にディスカッションします。 スライドを作成し、グループでプレゼンテーションを実施します。
第14回：クラスメンバーの前で行われる最終発表の準備
第15回：最終発表 定期試験を実施しない
テキスト
<i>English Presentation: 12 Engaging Topics to Master English</i> (Lukminaitė-Anand, S.著, eP出版)
参考書・参考資料等
<i>Presentation Skills for Students</i> (Joan van Emden, Lucinda Becker著, Palgrave Macmillan出版)
学生に対する評価
プレゼンテーションのスライド提出とプレゼンテーション評価（3回×20%、計60%） 最終発表（40%）

授業科目名 : Project Based English	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 2単位	担当教員名 : Anand Sanchit 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>自分の興味あるプロジェクトについて自主的に調査し、関係者と連絡を取り、その結果を基にグループでプレゼンテーションを行うことができるようになります。</p> <p>また、様々なメディアを利用して、プレゼンテーションを洗練されたものにすることが期待されます。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>この授業では、学生のロールモデルとなるような実在の社会人に出会います。文化や世代を超えた理解を深めるために、英語でのコミュニケーションや問題の背景をリサーチすることが必要です。</p> <p>いくつかのプロジェクトを通して自分の興味を発見し、それを掘り下げていくことで、実際に存在する問題に対して自分なりの視点を持ち、解決策を提案することができるようになります。</p> <p>チームワーク力を高め、交代で主役を務めます。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回 : オリエンテーション</p> <p>第2回 : プロジェクト 1 : 課題設定 (「グローバル企業が抱える課題」)</p> <p>第3回 : プロジェクト 1 : 発表のための調査 (企業を訪問し、個別にインタビューを行う)</p> <p>第4回 : プロジェクト 1 : 学生発表</p> <p>第5回 : プロジェクト 2 : 課題設定 (「留学生が抱える課題」)</p> <p>第6回 : プロジェクト 2 : 発表のための調査 (留学生との交流)</p> <p>第7回 : プロジェクト 2 : 学生発表</p> <p>第8回 : プロジェクト 3 : 課題設定 (「AMDA岡山が認識する問題」)</p> <p>第9回 : プロジェクト 3 : 発表のための調査 (AMDA訪問)</p> <p>第10回 : プロジェクト 3 : 学生発表</p> <p>第11回 : プロジェクト 4 : 課題設定 (「マイノリティーグループが認識する問題」)</p> <p>第12回 : プロジェクト 4 : 発表のための調査 (講師招請)</p> <p>第13回 : プロジェクト 4 : 学生発表</p> <p>第14回 : 最終発表のための準備 (学生がグループで選んだテーマを基に調査する)</p> <p>第15回 : 最終発表とまとめ</p> <p>定期試験を実施しない</p>						
<b>テキスト</b>						
なし (配布資料のみ)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<i>Project-Based Learning: How to Approach, Report, Present, and Learn from Course-Long Projects</i> (Harm-Jan Steenhuis, Lawrence Rowland著, Business Expert Press出版)						
<b>学生に対する評価</b>						
発表 : 80% (4 x 20%)						
レポート (英語での最終発表のまとめ) : 20%						

授業科目名： グローバル社会論基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：八尾祥平、岩瀬真 央美、土佐弘之、森川まいか 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. グローバルな視点で社会を捉るために必要な基本的な概念や理論を説明できる。</p> <p>2. グローバル社会を分析するための基礎的な概念や枠組みを自分自身で文章にまとめることができる。</p> <p>3. 学問分野ごとのグローバル社会の捉え方・分析方法の違いを挙げることができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>グローバルという言葉を日常的に見聞きするくらい、社会の中のさまざまな分野にグローバル化の影響が及んでいます。グローバル化によって社会が大きく変わっているだけでなく、学問の分野では「社会の捉え方」そのものが大きく変わろうとしています。実際の社会でも、学問の世界でも、近年、新興国と呼ばれる旧植民地の視点でグローバル社会を理解することはますます重要になっています。こうした社会の大きな転換を背景に、この講義では、①グローバル化による社会の変化を社会学・政治学・法学・歴史学という多様な視点から明らかにすると同時に、②グローバルな視座を取り入れることで学問の世界での「社会の捉え方」がこれまでとどのように変化してきたのかも解説します。講義では、社会をグローバルな視点から理解するために必要になる、それぞれの分野における基本的な概念や枠組みを解説することからはじめ、世界の格差や国家間の紛争問題など、重なるテーマも取り上げて、それぞれの学問分野が問題にどのようにアプローチして考えるのかという違いも含めて理解できるようになります。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：グローバル化と社会（八尾）</p> <p>第2回：近代化を二つの視点から比較する（八尾）</p> <p>第3回：メロンパンと「植民地からの近代化」（八尾）</p> <p>第4回：「国際社会」とは？（土佐）</p> <p>第5回：「国際社会」のダークサイド（土佐）</p> <p>第6回：「国際社会」の限界：惑星の想像力へ（土佐）</p> <p>第7回：21世紀の国際社会と法（1）：国際社会の現状と課題（岩瀬）</p> <p>第8回：21世紀の国際社会と法（2）：国際経済活動に関する国際社会の取り組み（岩瀬）</p> <p>第9回：21世紀の国際社会と法（3）：国際経済活動に関する紛争処理制度（岩瀬）</p> <p>第10回：中華世界の解体（森川）</p> <p>第11回：アジアに展開する日本帝国（森川）</p> <p>第12回：「租界」—共存の模索（森川）</p> <p>第13回：フォローアップとディスカッションⅠ（八尾）</p> <p>第14回：フォローアップとディスカッションⅡ（土佐）</p> <p>第15回：フォローアップとディスカッションⅢ（岩瀬）</p>						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
使用しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<p>世界史と繋げて学ぶ中国全史（岡本隆司著、東洋経済新報社出版）</p> <p>海賊の世界史—古代ギリシアから大航海時代、現代ソマリアまで（桃井治郎著、中公新書出版）</p> <p>国際秩序—18世紀ヨーロッパから21世紀アジアへ（細谷雄一著、中公新書出版）</p> <p>教養としての世界史の学び方（山下範久編、東洋経済新報社出版）</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 授業への取り組み姿勢（質疑応答・ディスカッション時の積極性・リアクションペーパーの提出）：30%</p> <p>2. 講師ごとのレポート（全4回）：70%</p>						

授業科目名： 多文化共生論基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：末弘美樹、工藤 裕子、長村裕佳子、陳來幸  担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 言語や文化背景の異なる人間の理解および協働する力の獲得</p> <p>2. グローバル社会を分析するための基礎的な概念・知識の習得および枠組み・多角的視座の獲得</p> <p>3. 国内外のグローバル社会における具体例の理解</p> <p>4. 国内外のグローバル社会が抱える課題を自ら探し出す力および解決する能力を養う</p>						
<b>授業の概要</b>						
グローバル化が進み、言語や文化背景の異なる人間との交流の機会が増えてきた。総務省によると、多文化共生は、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義されている。本コースでは、国内外の多文化共生をめぐる様々な事例を取り上げ、多様性に基づいた支え合う社会を目指すために必要な基本的な概念、基礎的知識、多角的視座、異文化理解のための方法などを幅広く学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：多文化共生とは何か（末弘・工藤・長村・陳）</p> <p>第2回：日本における外国人労働者とその背景—外国人看護・介護人材受け入れの例—（末弘）</p> <p>第3回：日本における外国人労働者の現状—EPA看護師による現場の声—（末弘）</p> <p>第4回：日本における外国人労働者の課題と支援（末弘）</p> <p>第5回：持続可能な外国人とのワークシェア（末弘）</p> <p>第6回：多民族社会としての東南アジア（工藤）</p> <p>第7回：東南アジアの宗教と基層文化としての精霊信仰（工藤）</p> <p>第8回：東南アジアにおけるマイノリティ問題（工藤）</p> <p>第9回：在日ブラジル人の現状（長村）</p> <p>第10回：日本人の海外移住から日系ブラジル人の帰還（長村）</p> <p>第11回：日系ブラジル人の将来（帰国と定着）（長村）</p> <p>第12回：多民族国家中国（陳）</p> <p>第13回：移民社会台湾（陳）</p> <p>第14回：日本におけるオールドカマーの現状と課題（陳）</p> <p>第15回：エスニックバイタリティを考える（陳）</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
<b>テキスト</b>						
特にテキストは指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは必要に応じて紹介し、配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 講義への積極的な参加およびパフォーマンス（30%）</p> <p>2. オムニバスによるリレー講義のため、各教員が最後に課す課題レポート（70%）</p>						

授業科目名： 表象文化論基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：貴志俊彦、松岡智子、富田裕子、松平勇二 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 多様な表象文化を比較し、それぞれの特徴や意味を表現する。</p> <p>2. 表象文化の成り立ちについて説明するとともに、世界各地の政治的、社会的、文化的背景と関係づける。</p> <p>3. 表象文化の概念と理論を説明できるようになる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>表象文化とは何でしょうか？このオムニバス講義では、世界各地の絵画、デザイン、写真、映像、マンガなどのビジュアルメディアをはじめ、音楽、文学、神話、祭や儀礼、通過儀礼、ファッション、芝居、建築、ミュージアム、さらには女性、階級制度などを含めた幅広い表象文化を比較し、その表現のありかたと意味を解釈するとともに、歴史、政治、宗教などの社会・文化的背景とも関係づけます。こうした視覚化された／されない事例を取り上げつつ、表象文化の概念と理論を説明していきます。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス（講義の目的と意義、進め方）、プチ・ディスカッション「表象文化」とは？（貴志）						
第2回：「表象文化論」の理論と研究動向（貴志）						
第3回：印刷の表象分析：中華圏の年画とポスター（貴志）						
第4回：音楽の表象分析：韓国の祭祀とサムルノリ（貴志）						
第5回：絵画の表象分析：越境する画家たちを中心として（松岡）						
第6回：写真の表象分析：絵画と写真の「パラダイム」について（松岡）						
第7回：ミュージアムの表象分析：フランスを事例として（ルーヴルからホロコースト記念館まで）（松岡）						
第8回：フェスティバルの表象分析：英国メディアからの考察（富田）						
第9回：階級制度の表象分析：英国メディアによる比較論（富田）						
第10回：女性の表象分析：英国女性の活動をめぐるメディア論的考察（富田）						
第11回：「新しい女」の表象分析：西洋の「新しい女」の考察（富田）						
第12回：儀礼の表象分析：通過儀礼の過程（松平）						
第13回：さまざまなメタファーから：アニメ、映像、音楽、神話（松平）						
第14回：ワーカーショップ：アフリカ音文化の実践（松平）						
第15回：ディスカッション：日常生活における表象文化（松平）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中に適宜指示します。</li> <li>必要に応じて、授業中に資料を配布します。</li> </ul>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
・参照してほしい文献、映像・音楽資料などについては、授業中にお知らせします。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 授業への取り組み姿勢（質疑応答の積極性）：20%</p> <p>2. 最終ディスカッション：20%</p> <p>3. 期末レポート：60%</p>						

授業科目名： 国際社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：八尾 祥平 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 世界システム論やポストコロニアリズム・ポスト開発の基礎的な概念を言葉として挙げることができる。</p> <p>2. 世界システム論やポストコロニアリズム・ポスト開発の概要や理論を文章にして説明することができる。</p> <p>3. 世界システムやポストコロニアリズム・ポスト開発の理論を用いて、グローバル化する社会の現状を、自分自身で分析し、文章で説明できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>国際社会やグローバル化をより専門的・理論的に理解するために必要な考え方を学びます。まず、中級以上の国際関係論の教科書で「もうひとつの国際関係論」として取り上げられる世界システム論を講義の骨格として解説します。その上で、歴史学の最新の知見も交え、世界システム論の視座から近代史を捉えなおします。さらに、旧植民地の視点から社会を捉えなおすポストコロニアリズムの潮流や、従来の経済開発を刷新することを目指すポスト開発についての基本的な考え方を解説したうえで、人権・民主主義・都市・人種といった具体的なトピックに即して、近代のアジア太平洋地域を中心に事例を紹介しつつ、国際社会の現実をより立体的かつ包括的に捉え、より公正な国際社会のあり方を展望します。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：グローバル化と国際社会についての現状と展望</p> <p>第2回：理論I 世界システム論とは何か</p> <p>第3回：理論II 世界システム論への批判</p> <p>第4回：理論III ポストコロニアリズムとは何か</p> <p>第5回：理論IV ポストコロニアリズムで文学作品を読む</p> <p>第6回：貧困I ポスト開発とは何か</p> <p>第7回：貧困II インフォーマル経済をめぐる論争</p> <p>第8回：人権I グローバル化と人権</p> <p>第9回：人権II グローバル化と人権の裏面にあるもの</p> <p>第10回：民主主義I ヨーロッパから見た民主主義の歴史</p> <p>第11回：民主主義II オルタナティブな民主主義の歴史</p> <p>第12回：都市I グローバル化と都市</p> <p>第13回：都市II 東アジアにおけるグローバル化と空間の変容</p> <p>第14回：人種I 「人種」とは何か</p> <p>第15回：人種II 「人種」を超えて</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
使用しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
世界史の考え方（小川幸司・成田龍一編、岩波新書出版）						
世界システム論講義—ヨーロッパと近代世界（川北稔著、ちくま学芸文庫出版）						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 授業への取り組み姿勢（質疑応答の積極性・リアクションペーパーの提出）：20%</p> <p>2. 中間レポート：40%</p> <p>3. 期末試験：40%</p>						

授業科目名： 言語文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：末弘 美樹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 言語と文化に関する基本的な理論や概念を理解すること</p> <p>2. 複言語・複文化主義の重要性を理解すること</p> <p>3. 言語と文化が持つ力を理解すること</p> <p>4. ディスカッション、グループワークなど、主体的に学習を進めること</p> <p>5. 自らの意見を発言することができること</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本コースの目的は、言語と文化がいかに経済や企業に大きな影響を与えるか、言語と文化がいかに世界中の歴史や人々の生活を変える力を持っているかについて、様々な社会的事象を通して理解を深めると共に、グローバル時代におけるリーダーあるいは地球市民となるための基本的な知識と概念およびその方法を言語と文化の観点から学習します。本コースは、毎回の授業のために課題文を読み、クラスで行われるディスカッションのために準備してくることが求められます。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：1. イントロダクション</p> <p>第2回：2. コミュニケーションと考え方の文化的差異 (1) E. T. ホールの文化的文脈</p> <p>第3回： (2) R. カプランの文化的思考パターン</p> <p>第4回： (3) E. メイヤーのカルチャーマップ</p> <p>第5回：3. 文化的変容のメカニズムとそのプロセス (1) J. W. ベリーの文化変容</p> <p>第6回： (2) ビールズとハンフリーのカルチャーショック</p> <p>第7回： (3) スエヒロの言語とアイデンティティ</p> <p>第8回： (4) R. E. ヴァンレケンの第三文化の子供</p> <p>第9回：4. 異文化への認識・受容を経て (1) F. M. ライマーズの国際対話能力</p> <p>第10回： (2) アジア諸国における英語の多様性と役割</p> <p>第11回： (3) B. カチュルの多様な英語</p> <p>第12回： (4) ハーバード大学が採用するギャップイヤー</p> <p>第13回：5. 言語とグローバリゼーション (1) ツェーダル・ニーリーの英語の公用語化</p> <p>第14回： (2) アマルティア・センのアイデンティティと暴力</p> <p>第15回： (3) 言語と文化が持つパワー</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特に指定しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 毎週のリーディング課題に対するレポートの提出 30%</p> <p>2. 授業における積極的な発言を含むパフォーマンスおよび課題の取り組み 30%</p> <p>3. 最終レポート 40%</p>						

授業科目名： 多文化共生政策	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金山勉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		

#### 授業のテーマ及び到達目標

この講義では、多文化共生政策の基本的な枠組みの理解を確実なものとし、その上で国際協力や国際貢献、留学生支援など、国内外の多様なレベルの第一線において多文化共生政策の実践的な取り組みをしてきた関係者の知見を受け止め、考え、検討します。その際、NGO、NPO諸団体の関係者、多文化共生社会の実現のため活動している人々、さらに多文化共生政策の立案・施行を専門とする研究者の体験から学びとてゆきます。また英語がコミュニケーション言語として使われている国や地域で発生する異文化交流を軸とする学習環境を実体験することで、多文化・多元化を教育実践や社会のさまざまな場でどのように結び付ければよいかについて、自分なりの見方・考え方を身に着けることを目標とします。

本講義の学びを通じて、身の回りで発生している事象が他人ごとではないことが意識化されることを目指します。さらにその認識をもとに、多文化・多元化にかかわる社会的諸課題の解決に向けて、どのような政策や市民の実践的な対応が必要かについて受講者間で議論し、自分なりの課題解決に向けた試案を発表します。講義担当教員と受講生からのフィードバックを得ることで、多文化共生政策への学びの視座を深めることができます。

#### 授業の概要

グローバル化された社会では多様な価値観が交差し、その中で国家間、民族間の相互理解や融和が生まれることがあります。他方、人々の価値観が大きく異なることで政治的・経済的な対立が顕在化した結果、国同士、民族同士の紛争が発生し、多くの難民が生まれ、貧困状態に陥る事例が国内外において引き続きみられます。現代の日本社会に生きる私たちにとって、それは決して他人事ではなく、むしろそのことを自分事として意識しなければ、これから社会を担う次世代を教育し、導き、育む役割を十分に果たすことはできません。本講義では、英語コミュニケーションの学びを交えて多文化共生政策を理解し、実践的な体験や事例学習をすることで、多文化共生政策を自分に引き寄せて理解できるようになります。加えて海外の多文化共生政策を比較の視点で学ぶことにより、受講生は日本の状況を相対的に理解できるようになります。

「多文化共生政策」は1970年代以来、世界の諸国で多様に取り組まれてきました。カナダ、オーストラリアなどでは、多文化共生政策・多文化主義を積極的に推し進めましたが、世界的にみても、それぞれの国の特性に根差した独自政策の策定・施行がみられます。日本では2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）との関連で、多文化共生の取り組みが意識されるようになりましたが、これを深化させ、多文化共生政策を深く考え、社会実装と関連付けて理解するには、日本社会を構成する、より多くの人々のエンゲージメントが必要です。授業の最終段階では、受講者全員が国際比較の視点から多文化共生政策を自分事として考えることを前提としたプレゼンテーションとディスカッションを経験し、英語コミュニケーションを主とする多文化・多元化の観点からのフィードバックを得て、「多文化・多元化」と「政策」との結びつきを、より現実的に考えることができるようになります。

#### 授業計画

第1回：イントロダクション：「政策」の理解、「多文化・多元化」の理解

第2回：多文化・多元化政策の理解と世界の取り組み事例（カナダ・オーストラリア）

第3回：多文化共生政策の実践から学ぶ 医療ボランティアの視点 AMDA理事による「国際医療ボランティアAMDAの活動」（1）特別講義
第4回：多文化共生政策の実践から学ぶ 医療ボランティアの視点 AMDA理事による「国際医療ボランティアAMDAの活動」（2）特別講義の振り返り とグループディスカッション
第5回：多文化共生政策の実践から学ぶ 国際協力の視点 元JICA専門家による「多文化共生と国際協力の出会い」（1）特別講義
第6回：多文化共生政策の実践から学ぶ 国際協力の視点 元JICA専門家による「多文化共生と国際協力の出会い」（2）特別講義の振り返り とグループディスカッション
第7回：異文化コミュニケーションの体験的な学びと実践事例から多文化・多元化を考える 本学附属小学校国際コース教員との体験交流会 —英語圏からの教員を交えて学ぶ—
第8回：異文化コミュニケーションの体験的な学びと実践事例から多文化・多元化を考える 本学附属小学校国際コース教員との体験交流会 —多様な背景を持つ教員から実践的に学ぶ—
第9回：異文化コミュニケーションの体験的な学びと実践事例から多文化・多元化を考える 欧米での勤務体験・留学支援の実践者による「日本企業の海外進出と多文化共生」
第10回：異文化コミュニケーションの体験的な学びと実践事例から多文化・多元化を考える 欧米での勤務体験・留学支援の実践者による「在住外国人への支援と多文化共生」
第11回：世界の多文化共生政策を学ぶ「北東アジア諸国の多文化共生政策」（1）特別講義
第12回：世界の多文化共生政策を学ぶ「北東アジア諸国の多文化共生政策」（2）特別講義の振り 返りとグループディスカッション
第13回：世界の多文化共生政策を学ぶ 「台湾の多文化共生政策」
第14回：多文化共生政策の受講者プレゼンテーションとディスカッション（第1グループ） テーマ：私が考えた多文化共生政策
第15回：多文化共生政策の受講者プレゼンテーションとディスカッション（第2グループ） テーマ：私が考えた多文化共生政策 講義全体のまとめと総括
定期試験は実施しない
<b>テキスト</b> 授業ごとにハンドアウトを配布する。必要に応じて事前課題として日本語または英語の参考文献を示すことがある。
<b>参考書・参考資料等</b> 『改訂版 多文化共生キーワード事典』（2011年、明石出版） 『ネット時代のパブリックアクセス』（2011年、世界思想社） 『メディア用語基本事典 第2版』（2019年、世界思想社）
<b>学生に対する評価</b> 授業の取り組み度（15%），授業理解度（30%），レポート1（10%），レポート2（10%），ファイナルペーパー（20%），プレゼンテーション（10%），ディスカッション（5%）

授業科目名： 国際地域情報 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：富田 裕子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 英国社会と文化の特徴を理解する。 2. 英国社会が現在抱えている問題を理解し、問題に対する解決策を述べることができる。 3. 現在の日本社会と英国社会の問題を国際比較することができるようになる。						
<b>授業の概要</b> この講義では英国社会と現代の英國事情について詳しく説明する。英國の学校並びに大学教育、スポーツ、メディア、文学、食文化、階級制度、王室、年金、医療制度、政治、経済、移民の歴史など幅広いテーマを取り上げる。また英國について書かれた本、新聞・雑誌の記事や映像を使って、英國社会が現在抱えている家族、女性（特に働く女性）、移民、人種差別、宗教、社会福祉制度に関する様々な問題についても述べ、その解決策を受講生と共に考察していく。更に日本社会が現在抱えている問題との国際比較も試みるつもりだ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス(講義の主要目的と意義、進め方、主要参考図書の紹介)						
第2回：英國の教育制度：現状と問題点						
第3回：英國の大学とグローバル化：現状と問題点						
第4回：英國の食事と肥満問題						
第5回：英國の階級制度とその問題点						
第6回：英國王室：現状と問題点						
第7回：英國における家族、結婚、離婚問題						
第8回：英國の働く女性とその問題点（出産、子育て、仕事と子育てとの両立など）						
第9回：英國の移民の歴史と人種問題						
第10回：多文化社会の英國：現状と問題点						
第11回：英國の政治とその問題点						
第12回：英國経済とBrexit（ブレグジット）						
第13回：英國の年金、医療制度：現状と問題点						
第14回：発表						
第15回：総合討論、まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
授業中に適宜指示する。参考文献・資料などは必要に応じて紹介し、配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
愛と戦いのイギリス文化史—1951-2010年（川端康雄・大貫隆史他編、慶應義塾大学出版会）						
Realise Britain (Colin Joyce著、金聖堂出版)						
その他の参考文献、映像などについては、授業中に指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業への取り組み姿勢（質疑応答の積極性）：20% 2. ディスカッション：20% 3. 発表：30% 4. 発表原稿の提出：30%						

授業科目名 : Studies of Globalization	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 2単位	担当教員名 : 八尾洋平、岩瀬真央美、土佐弘之、森川まいか 担当形態 : オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. グローバルな視点で社会を捉えるために必要な基本的な概念や理論を説明できる。</p> <p>2. グローバル社会を分析するための基礎的な概念や枠組みを自分自身で文章にまとめることができる。</p> <p>3. 学問分野ごとのグローバル社会の捉え方・分析方法の違いを挙げることができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>経済のグローバル化は世界に大きな変化をもたらしています。グローバル化によって社会が大きく変容するだけでなく、学問の分野でも「社会の捉え方」そのものが大きく変わろうとしています。実際の社会でも、こうした社会の大きな転換を背景に、この講義では、①グローバル化による社会の変化を社会学・政治学・法学・歴史学という多様な視点から明らかにすると同時に、②グローバルな視座を取り入れることで学問の世界での「社会の捉え方」がこれまでとどのように変化してきたのかも解説します。</p> <p>講義では、講義内容についての理解を深めるために図像や映像を用いたり、自分の考えを英語で人に伝えられるようディスカッションの練習をしたりすることもあります。講義を通じて、学問分野ごとに異なるグローバル化へのアプローチの仕方を学ぶだけでなく、日本のローカルなものごとをグローバルな視点で考える力、そして、考えたことを発信する基礎力を養うことを目指します。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回 : 講義の概要説明 (八尾)</p> <p>第2回 : 近代社会とは何か (八尾)</p> <p>第3回 : ローカルなことをグローバルな目線で考える (八尾)</p> <p>第4回 : アナーキカル・ソサイエティ (土佐)</p> <p>第5回 : ブラック・アトランティック (土佐)</p> <p>第6回 : プラネタリー・イマジネーション (土佐)</p> <p>第7回 : 国際法とは何か (岩瀬)</p> <p>第8回 : 国際経済法とは何か (岩瀬)</p> <p>第9回 : 国際経済活動と紛争処理制度 (岩瀬)</p> <p>第10回 : 東アジアの危機 (森川)</p> <p>第11回 : 日本の台頭とその影響 (森川)</p> <p>第12回 : 租界を中心とする対抗と協力の歴史 (森川)</p> <p>第13回 : フォローアップとディスカッション I (八尾)</p> <p>第14回 : フォローアップとディスカッション II (土佐)</p> <p>第15回 : フォローアップとディスカッション III (岩瀬)</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
使用しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは必要に応じて紹介し、配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 授業への取り組み姿勢 (ディスカッションでの積極性・リアクションペーパーの提出) : 30%</p> <p>2. 講師ごとに出題されるレポート (全4回) : 70%</p>						

授業科目名 : Studies of Multiculturalism	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 2単位	担当教員名 : 末弘美樹、工藤裕子、長村裕佳子、陳來幸 担当形態 : オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 言語や文化背景の異なる人間の理解および協働する力の獲得</p> <p>2. グローバル社会を分析するための基礎的な概念・知識の習得および枠組み・多角的視座の獲得</p> <p>3. 国内外のグローバル社会における具体例の理解</p> <p>4. 国内外のグローバル社会が抱える課題を自ら探し出す力および解決する能力を養う</p>						
<b>授業の概要</b>						
グローバル化が進み、多様な価値観の共存が求められる時代に入った。異文化理解のみならず協働が求められる社会になった。本コースでは、国内外の多文化共生をめぐる様々な事例に、日本、東南アジア諸国、ブラジル、中国、台湾などを取り上げ、多様性に基づいた支え合う社会を目指すために必要な基本的な概念、基礎的知識、多角的視座、異文化理解のための方法などを幅広く学ぶ。そして日本社会における多文化共生の今後の在り方について一緒に考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回 : Multiculturalismとは何か 授業の概要説明 (末弘・工藤・長村・陳)						
第2回 : アメリカの多文化共生の歴史背景 (末弘)						
第3回 : アメリカの多文化共生の現状 (末弘)						
第4回 : アメリカの多文化共生の課題としての言語政策 (末弘)						
第5回 : 持続可能な多文化共生を考える (末弘)						
第6回 : 東南アジアにおける多文化共生と国民統合 (工藤)						
第7回 : 東南アジアの宗教からみる文化の多層性 (工藤)						
第8回 : 同化か統合か? 東南アジアの少数民族と外来系住民の問題について (工藤)						
第9回 : 在日ブラジル人とエスニック・コミュニティ (長村)						
第10回 : 南米の日系人と入管法改正 (長村)						
第11回 : 日系ブラジル人のアイデンティティと文化 (長村)						
第12回 : 文明による統合と中国の少数民族政策 (陳)						
第13回 : 被災地交流から日台の国際結婚を考える (陳)						
第14回 : 日本における民族・文化の融合 (陳)						
第15回 : 日米におけるマイノリティビジネスの展開 (陳)						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特にテキストは指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献、資料などは必要に応じて紹介し、配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 講義への積極的な参加およびパフォーマンス (30%)</p> <p>2. オムニバスによるリレー講義のため、各教員が最後に課す課題レポート (70%)</p>						

授業科目名 : Cultural Representation Studies	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 2単位	担当教員名 : 富田 裕子、松平 勇二 担当形態 : オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 表象文化についての英語による講義を十分理解し、表象文化の概念と理論を英語で説明できる。</p> <p>2. 日英の表象文化の特徴や意味を理解したうえで、世界各地の表象文化と比較し、類似点、相違点を英語で説明できる。</p> <p>3. 日英の表象文化の成り立ちを理解し、英語で説明するとともに、政治的、社会的、文化的背景と関係づけることができる。</p> <p>4. 日本における表象文化について自ら課題意識をもって調査、学習することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
表象文化とは何でしょうか？この英語によるリレー講義の前半では、絵画、デザイン、写真、映像などのビジュアルメディアをはじめ、年中行事、祭、慶弔の儀式、建築、装いなどを含む幅広い英國の表象文化を取り上げ、その表現のありかたと意味を解釈するとともに、歴史、政治、宗教などの社会・文化的背景と関係づけて説明する。リレー講義の後半では、他者や自己は誰によってどのように表象されるのか。異文化を経験した者による他者の表象を分析し、その表現のありかたと歴史、政治、宗教などの社会・文化的背景の関係性を理解する。表象文化論の基礎知識を身につけたうえで、自ら課題意識をもって表象文化について調査、学習し、発表する能力を身につける。講義の1コマは休日等を利用して博物館でフィールドワークを実施する(第13回講義終了後の週末に予定。詳細は授業内で連絡する)。						
<b>授業計画</b>						
第1回：導入ー「表象文化」とは何か。日本の表象文化の特徴と成り立ち（松平）						
第2回：日本と英國における女性史研究と表象：方法論について（富田）						
第3回：表象を用いた女性史研究の事例：英國の女性参政権運動1（ポスター・絵画・写真などによる分析）と日本の女性参政権運動との国際比較（富田）						
第4回：表象を用いた女性史研究の事例：英國の女性参政権運動2（映像による分析）（富田）						
第5回：英國の装いと表象（写真・映像による分析）：日本の装いとの国際比較（富田）						
第6回：英國の年中行事・慶弔の儀式と表象（写真・映像による分析）：日本の年中行事との国際比較（富田）						
第7回：英國貴族の文化遺産と表象（写真・映像による分析）：日本の文化遺産との国際比較（富田）						
第8回：英國の美術館・博物館における文化表象（絵画・美術品・工芸品・映像による分析）（富田）						
第9回：異文化理解と表象の手段としての文化人類学—『菊と刀』における日本人の表象（松平）						
第10回：他者表象の事例ー宣教師、探検家によるアフリカの表象（松平）						
第11回：文化の分析と記述ー日本神話の表象を分析し記述する（松平）						
第12回：文化の映像記録ー記述への批判としての民族誌映画（松平）						
第13回：展示と異文化表象ー日本における博物館、美術館の取り組み（松平）						
第14回：表象文化のデータ収集と分析ー岡山市内の博物館でのフィールドワーク（松平）						
第15回：発表、日本と海外の表象文化の類似点並びに相違点についての総合討論、まとめ（松平）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
授業中に適宜指示する。参考文献・資料などは必要に応じて紹介し、配布する。						

**参考書・参考資料等**

参照してほしい文献、映像などについては、授業中に指示する。

**学生に対する評価**

1. 授業への取り組み姿勢（質疑応答の積極性）：20%
2. 英語によるディスカッション：30%
3. 英語によるプレゼンテーション：30%
4. プrezentationの英語原稿の提出：20%

授業科目名 : Language and Culture Studies	教員の免許状取得のための選択科目	単位数 : 2単位	担当教員名 : 末弘 美樹 担当形態 : 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 言語と文化に関する基本的な理論や概念を理解すること</p> <p>2. 複言語・複文化主義の重要性を理解すること</p> <p>3. 言語と文化が持つ力を理解すること</p> <p>4. ディスカッション、グループワークなど、主体的に学習を進めること</p> <p>5. 英語で学ぶ科目的履修により英語実践力を身につけること</p>						
<b>授業の概要</b>						
このコースの目的は、グローバル化時代における多様な価値観、文化、考え方を認識し、それらを受け入れ、共存できるように、グローバル時代における言語と文化の捉え方と言語と文化がもつパワーについて具体例を取り上げながら、言語と文化に関わる基本的な学術理論、概念を学びます。また、英語で授業を受講することにより、英語の専門知識を獲得し、英語で学術的内容を理解し、実践的英語コミュニケーション力を向上させることが期待される。						
<b>授業計画</b>						
第1回 : イントロダクション						
第2回 : 高コンテクスト文化と低コンテクスト文化						
第3回 : 文化的思考パターン						
第4回 : 文化変容の心理学						
第5回 : カルチャーショックと文化適応のプロセス						
第6回 : 名前とアイデンティティ						
第7回 : サードカルチャーキッズ						
第8回 : グローバルコンピテンシー						
第9回 : アジア諸国における英語の多様性と役割						
第10回 : 標準英語と世界英語						
第11回 : イギリスのグローバルキャリアとギャップイヤー						
第12回 : グローバル時代と楽天の "英語化"						
第13回 : アイデンティティと暴力						
第14回 : 言語と文化が持つ威力						
第15回 : 地球市民になるために						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特に指定しない。						
必要に応じて授業中に資料を配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特に指定しない。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 毎週のリーディング課題に対するレポートの提出 30%</p> <p>2. 授業における積極的な発言を含むパフォーマンスおよび課題の取り組み 30%</p> <p>3. 最終レポート 40%</p>						

授業科目名： 英語科教育法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬本 勉 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>						
中学校及び高等学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解するとともに、英語学習・指導・評価に関する理論・知識と、授業実践のための技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b>						
小・中・高等学校の学習指導要領、本授業のテキスト及び英語の検定教科書を含む各種資料の講読を踏まえ、ディスカッションやプレゼンテーションを中心としたアクティブ・ラーニング型の授業を行う。授業を通じて中学校及び高等学校における英語の学習・指導に関する諸理論の理解を深めるとともに、授業実践に必要となる言語の諸要素や文化的側面、生徒理解に基づく指導・評価の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：日本における英語の変遷と必要性を理解し、グローバル社会の中での位置づけを考える。 第2回：英語科教育における小・中・高等学校の連携について理解する。 第3回：育成すべきコミュニケーション能力と異文化間コミュニケーションのあり方を理解する。 第4回：育成すべき英語力とは何かを把握し、学力の三要素との関係を整理する。 第5回：CEFRとCAN-DOの重要性を理解し、どのような英語を学び教えるかを考察する。 第6回：第二言語習得のプロセスを踏まえた教室でのアプローチを理解する。 第7回：英語学習の多様性に影響を与える認知要因として、言語適性を理解する。 第8回：英語学習の多様性に影響を与える情意要因として、動機付けを理解する。 第9回：英語学習の多様性に影響を与える行動要因として、学習方略を理解する。 第10回：目標に基づく指導と学習評価のあり方・進め方を理解する。 第11回：小学校の指導と評価方法について、学習指導要領と教科書に即して考察する。 第12回：中学校の指導と評価方法について、学習指導要領と教科書に即して考察する。 第13回：高等学校の指導と評価について、学習指導要領と教科書に即して考察する。 第14回：教室英語を用いたインラクションの実践方法を理解する。 第15回：他の教員やALTとの協働やICTの活用による授業改善を考える。						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』（酒井英樹・廣森友人・吉田達弘（編著），大修館書店）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（2017，文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2017，文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（2018，文部科学省） 『小学校学習指導要領』（2017，文部科学省） 『中学校学習指導要領』（2017，文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（2018，文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験および期末レポート40%， 提出課題やプレゼンテーションを含む授業への参加度60%。						

授業科目名： 英語科教育法B	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：馬本 勉 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 中学校及び高等学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解するとともに、第二言語習得理論にもとづく英語学習を促進するための知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 小・中・高等学校の学習指導要領、本授業のテキスト及び音声や電子媒体を含む英語教材の事前学習を踏まえ、ディスカッションやプレゼンテーションを中心としたアクティブ・ラーニング型の授業を行う。授業を通じて中学校及び高等学校における英語の学習と第二言語習得理論との関連について理解を深めるとともに、授業内・授業外において英語習得を促進するための指導法・評価法の技術など、英語教員に必要とされる知識と技能の獲得を目指す。						
<b>授業計画</b> 第1回：第二言語習得研究における英語学習の捉え方を理解する。 第2回：母語習得に関する理論を理解する。 第3回：母語が第二言語の習得に与える影響を理解する。 第4回：第二言語習得研究における4技能の学習の捉え方を理解する。 第5回：第二言語学習におけるコミュニケーション能力について理解する。 第6回：タスク中心のアプローチによる第二言語の習得を理解する。 第7回：第二言語学習への適性について理解する。 第8回：第二言語学習への動機付けについて理解する。 第9回：第二言語学習の開始時期をめぐる議論について理解する。 第10回：生徒の特性や習熟度に応じた指導法を理解する。 第11回：教室内における第二言語習得の重要性を理解する。 第12回：小学校の指導と教室内第二言語習得の関係を考察する。 第13回：中学校の指導と教室内第二言語習得の関係を考察する。 第14回：高等学校の指導と教室内第二言語習得の関係を考察する。 第15回：第二言語習得過程を踏まえた英語指導の工夫を考察する。 <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 『はじめての第二言語習得論講義』（馬場今日子・新多 了、大修館書店）						
<b>参考書・参考資料等</b> 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（2017、文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2017、文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（2018、文部科学省） 『小学校学習指導要領』（2017、文部科学省） 『中学校学習指導要領』（2017、文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（2018、文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験および期末レポート40%， 提出課題やプレゼンテーションを含む授業への参加度60%。						

授業科目名： 英語科指導法演習A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬本 勉 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 中学校及び高等学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解するとともに、英語の授業づくり、指導方法、評価方法に関する知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b> 小・中・高等学校の学習指導要領、本授業のテキスト及び検定英語教科書、音声や電子媒体を含む英語教材の事前学習を踏まえ、ディスカッションやプレゼンテーションを中心としたアクティブ・ラーニング型の授業を行う。授業を通じて中学校及び高等学校における授業内・授業外の英語指導法について理解を深めるとともに、授業者として生徒の英語のコミュニケーション能力を高める工夫や授業運営のアイディアを実践に活かす技能を身につける。						
<b>授業計画</b> 第1回：小・中・高等学校学習指導要領と教科書について理解する。 第2回：英語教授法の歴史と現状を理解する。 第3回：リスニングの学習・指導法を理解する。 第4回：スピーキングの学習・指導法を理解する。 第5回：リーディングの学習・指導法を理解する。 第6回：ライティングの学習・指導法を理解する。 第7回：音声の学習・指導法を理解する。 第8回：文字の学習・指導法を理解する。 第9回：語彙の学習・指導法を理解する。 第10回：文法の学習・指導法を理解する。 第11回：コミュニケーションの学習・指導法を理解する。 第12回：ICTを活用した学習・指導法を理解する。 第13回：ティームティーチングによる指導法を理解する。 第14回：評価方法と学習指導案について理解する。 第15回：教育実習の心構え、留意点を理解する。						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』（望月昭彦（編著）久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司、大修館書店）						
<b>参考書・参考資料等</b> 『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（2017、文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2017、文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（2018、文部科学省） 『小学校学習指導要領』（2017、文部科学省） 『中学校学習指導要領』（2017、文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（2018、文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b> 定期試験および期末レポート40%， 提出課題やプレゼンテーションを含む授業への参加度60%。						

授業科目名： 英語科指導法演習B	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：馬本 勉 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 英語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>						
中学校及び高等学校における英語科教育の目標、内容等について十分理解するとともに、英語の授業づくり、指導方法、評価方法に関する知識とともに、授業を実践する技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b>						
小・中・高等学校の学習指導要領、本授業のテキスト及び検定英語教科書、音声や電子媒体を含む英語教材の事前学習を踏まえ、ディスカッションやプレゼンテーション、模擬授業を中心としたアクティブ・ラーニング型の授業を行う。授業を通じて中学校及び高等学校における英語指導法について理解を深めるとともに、学習指導案を準備し、生徒を動機付け、英語のコミュニケーション能力を高める工夫やアイディアを盛り込んだ授業実践の技能を身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：小・中・高等学校学習指導要領と教科書について理解し、授業実践の工夫を考察する。						
第2回：英語教授法の歴史と現状を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第3回：リスニングの学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第4回：スピーキングの学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第5回：リーディングの学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第6回：ライティングの学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第7回：音声の学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第8回：文字の学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第9回：語彙の学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第10回：文法の学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第11回：コミュニケーションの学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第12回：ICTを活用した学習・指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第13回：ティームティーチングによる指導法を理解し、授業での実践方法を考察する。						
第14回：評価方法を含む学習指導案を教材に沿って作成する。						
第15回：教育実習の心構え、留意点を理解し、模擬授業を行う。						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版』（望月昭彦（編著）久保田章・磐崎弘貞・卯城祐司、大修館書店）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』（2017、文部科学省）						
『中学校学習指導要領解説 外国語編』（2017、文部科学省）						
『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（2018、文部科学省）						
『小学校学習指導要領』（2017、文部科学省）						
『中学校学習指導要領』（2017、文部科学省）						
『高等学校学習指導要領』（2018、文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験および期末レポート40%， 提出課題や模擬授業を含む授業への参加度60%。						

授業科目名 : ICTリテラシ	教員の免許状取得のための必修科目（教科・66条の6）	単位数 : 2単位	担当教員名 : 小松 文子、柳生 光義、魯 希琴 担当形態 : 複数			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報） 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 英語・情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. デジタル社会の状況を説明できる 2. PC（パーソナルコンピューター）の基本的な操作ができ、簡単な文書作成、表計算、プレゼンテーション資料を作成できる 3. コンピュータとネットワーク、インターネットの基本的な構成要素と仕組みを説明できる 4. 電子メールやSNS（Twitter、Facebook、WhatsAppなど）を、社会的な影響を考慮しつつ活用することができる						
<b>授業の概要</b>						
現代の情報通信技術（ICT）を活用したデジタル社会の一員として、また情報技術やデータ分析技術の専門家に求められる入門レベルのツールの使用方法を学ぶ。具体的には、コンピュータとネットワークの基礎的な知識を学び、電子メール、インターネットの検索、SNS利用などの情報行動を主体的に責任をもって実施すること。さらに、文書等を作成するために必要なワープロや表計算ソフトと簡単なデータ処理について、演習を通して修得する。						
<b>授業計画</b>						
第1回 : 講義の目的、ICTを活用したデジタル社会の状況 第2回 : コンピュータの基本的な構造、ファイルの構造、操作 第3回 : ネットの利用（ブラウザ、メールの利用、マナー、メールソフトの設定、ネット会議の使用方法） 第4回 : 文書作成（MS Word、Googleドキュメント） 第5回 : 表計算ソフト（MS Excel、Googleスプレッドシート） 第6回 : プrezentation（MS PowerPoint、Googleスライド） 第7回 : 課題文書を作成（4-6回までに修得した手法を利用して課題の文書を作成する） 第8回 : Webによる情報発信（Webの歴史、Webページ作成の基本的な知識） 第9回 : 情報検索、調査（サーチエンジンの活用法、ネット上の情報の探し方、図書館活用法） 第10回 : コンピュータとネットワーク（コンピュータと画像、文字、ネットワークの仕組み） 第11回 : 情報セキュリティ（PCのセキュリティ対策、スマホのセキュリティ対策、パスワード管理、無線LANのセキュリティ対策） 第12回 : 情報倫理とプライバシー 第13回 : Pythonによるデータ処理1（グラフの描画） 第14回 : Pythonによるデータ処理2（データファイルの読み方、データのグラフ化） 第15回 : 情報と法律（著作権法、個人情報保護法、不正アクセス禁止法）						
定期試験は実施しない。						
テキスト 『基礎からわかる情報リテラシー』改訂第4版、奥村晴彦、森本尚之著、技術評論社						
参考書・参考資料等 特になし						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 受講態度・課題（30%） 2. 毎回の演習課題（70%）						

授業科目名：デジタル社会と倫理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：小松 文子、宮内 宏 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. デジタル社会の特長を説明することができる</p> <p>2. 情報セキュリティの基本的な概念と構成要素を説明できる</p> <p>3. デジタル社会の倫理として社会的規範や法制度を説明できる</p> <p>4. 自らの行動を倫理や法制度の観点からその是非を説明することができる</p>						
<b>授業の概要</b>						
デジタル社会で活躍するための、情報倫理と、社会規範となる法律について学びます。データ・情報を扱う場合やインターネットを利用する場合には、プライバシーや著作権などの情報倫理・規範を考慮しなければならない。また法制度は正しく理解する必要がある。本講義では、デジタル社会の特徴を知ったうえで、必要な倫理行動ができる目的に、事例法、係争例を交えながら理解を深める。						
<b>授業計画</b>						
第1回 講義の目的、情報倫理、情報市場を学ぶ理由（小松文子）						
第2回 情報と工学倫理1（情報社会における個人・企業・社会の倫理）（小松文子）						
第3回 情報と工学倫理2（事故とヒューマンエラー、製品事故と製造物責任）（小松文子）						
第4回 情報と工学倫理3（企業不祥事と技術者の行動）（小松文子）						
第5回 情報と工学倫理4（情報セキュリティの脅威と対策）（小松文子）						
第6回 情報社会1（デジタルエコノミー、シェアリングエコノミー、Web3.0）（小松文子）						
第7回 デジタル情報と法律（インターネットの特徴、匿名性、表現の自由）（小松文子）						
第8回 法律と倫理（刑法を中心に、倫理と対比して法律の考え方を示す。名誉毀損等にも触れる）（宮内宏）						
第9回 通信と法律（通信の秘密、通信と放送の融合、プロバイダ責任制限法等）（宮内宏）						
第10回 プラットフォーム事業者（Yahoo、Googleなど）と独占禁止法、媒介者責任（総務省で議論している、偽情報対策、権利侵害対策にも触れたい）（宮内宏）						
第11回 プライバシーと個人情報保護1（プライバシーの法的位置付け、個人情報保護法1）（宮内宏）						
第12回 プライバシーと個人情報保護2（個人情報保護法2、マイナンバー制度）（宮内宏）						
第13回 情報漏えいと係争例、情報発信と法的責任、迷惑メール規制（宮内宏）						
第14回 知的財産保護1（知的財産権の概要、著作権1）（宮内宏）						
第15回 知的財産保護2（著作権2、不正競争防止法）（宮内宏）						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
毎回資料を配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『情報法入門』、NTT出版、小向太郎著 判例六法、有斐閣、佐伯仁志他（令和6年版）						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・課題・小テスト（80%）</p> <p>2. 課題発表（20%）</p>						

授業科目名： プログラミング入門 I	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 英太郎、魯 希琴 担当形態：複数			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラミングの基本的な考え方を説明できる</li> <li>2. プログラミングを用いて簡単な処理を実行できる</li> <li>3. ツールとしてのプログラミングの可能性を説明できる</li> </ol>						
<b>授業の概要</b>						
<p>道具としてコンピュータを使いこなすためにはプログラミングは必要不可欠であり、プログラミングの修得はデジタル社会で活躍するための重要な基本技術となる。文字のみで構成されるプログラミング言語を用いた場合、プログラミング未経験者にとって、エラーを生じやすくさせるため、理解を妨げるもとになりやすい。本授業では、プログラミング未経験者でも容易に扱える一種の図形プログラミング言語を使ってプログラミングの構成方法を学ぶ。具体的には、プログラムの各処理が順次処理、分岐処理、反復処理で構成されること、また処理の途中結果を保存する変数の使い方を学ぶ。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：Scratchの使い方 第2回：順次処理とは 第3回：順次処理の実践 第4回：順次処理の課題 第5回：分岐処理とは 第6回：分岐処理の実践 第7回：分岐処理の課題 第8回：反復処理とは 第9回：反復処理の実践 第10回：反復処理の課題 第11回：ファイル処理 第12回：四則演算 第13回：最終課題設計 第14回：最終課題制作 第15回：最終課題レビュー 定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
『Scratch 3.0入門』、梅原 嘉介、工学社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小レポート（演習）（20%）</li> <li>2. 小課題（30%）</li> <li>3. 最終課題（50%）</li> </ol>						

授業科目名：プログラミング入門Ⅱ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木優 魯希琴 担当形態：複数			
科：目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. プログラミングの基本的な考え方を説明できる</p> <p>2. プログラミングを用いて簡単なCGを制作できる</p> <p>3. ツールとしてのプログラミングの可能性を説明できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
道具としてコンピュータを使いこなすためにはプログラミングは必要不可欠であり、プログラミングの修得はデジタル社会で活躍するための重要な基礎となる。本授業では、プログラミング初学者でも容易に扱えるビジュアルデザインのためのプログラミング言語を使用したコンピュータグラフィックス(CG)の制作を通じて、プログラミングの基本的な考え方や文法などの基礎的な内容を学ぶ。この学びを通じてデザイン分野やデータ分析分野等における道具としてのプログラミングの可能性を正しく理解することを目指す。						
<b>授業計画</b>						
第1回：コンピュータとプログラミング						
第2回：順次処理とは						
第3回：順次処理の実践						
第4回：順次処理の課題						
第5回：分岐処理とは						
第6回：分岐処理の実践						
第7回：分岐処理の課題						
第8回：反復処理とは						
第9回：反復処理の実践						
第10回：反復処理の課題						
第11回：表現の拡張						
第12回：インターラクションの導入						
第13回：最終課題設計						
第14回：最終課題制作						
第15回：最終課題レビュー						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
講義資料はLMS等を通じて毎回配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
講義資料はLMS等を通じて毎回配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 小レポート (20%)</p> <p>2. 小課題 (30%)</p> <p>3. 最終課題 (50%)</p>						

授業科目名：プログラミング演習	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：河野 英太郎、鈴木 優、魯 希琴 担当形態：クラス分け・複数			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. プログラミング言語Pythonの文法に関して概要を説明できる。</p> <p>2. プログラミング言語Pythonの基本的な制御構造、データ構造の利用方法などに関する技術を説明できる。</p> <p>3. プログラミング言語Pythonのライブラリを用いて簡単なプログラムを実装できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
アプリケーションプログラムやデータ解析などで、現在利用が広まっているプログラミング言語であるPythonの初步を演習する。範囲は変数とデータ型、if文、while文などの制御構造とそのもとになる条件判定の仕方、配列、リスト、タプル、辞書などPythonで多用されるデータ構造、関数の作成方法と関数呼出しまでのある。目標として基本情報処理技術者Pythonプログラミングのうちオブジェクト指向を除く範囲をカバーする。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、プログラミング環境のインストール、簡単なプログラムの実行						
第2回：変数、数値と四則演算						
第3回：データ型、文字列型						
第4回：制御構造とは、流れを変えるきっかけ(if文)、条件判断						
第5回：繰り返し制御(for、 while文)						
第6回：演習1(制御構造)						
第7回：文字列、文字列の操作						
第8回：リストとその扱い方						
第9回：二次元のリストとリストの操作						
第10回：タプル						
第11回：辞書						
第12回：集合						
第13回：演習2(データ構造)						
第14回：関数の定義						
第15回：演習3(総合演習)						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
『試してわかる Python[基礎]入門』、谷尻 かおり、技術評論社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『実践力を身につけるPythonの教科書』、クジラ飛行机、マイナビ出版						
『基本情報技術者 らくらく突破 Python』、矢沢 久雄、技術評論社						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 講義後課題 (70%)</p> <p>2. 3回の演習課題(30%)</p>						

授業科目名：実践プログラミング	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：天野 憲樹、魯 希琴 担当形態：複数			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. プログラミング言語Pythonの文法に関する深い理解を得る。</p> <p>2. プログラミング言語Pythonの関数・例外処理・モジュール・パッケージ・オブジェクト指向・ファイル操作・グラフィックスなどに関する技術を習得する。</p> <p>3. プログラミング言語Pythonのライブラリを用いて実用的なプログラムを実装できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、プログラミング言語Pythonを用いたプログラミングの演習を通じてプログラムの実装に関する実践的な知識と技術の習得を目的とする。授業では、Pythonの基本文法を復習したのち、データ構造・関数・例外処理・モジュール・パッケージ・オブジェクト指向・ファイル操作・グラフィックスなどプログラミングに関する重要な技術要素について詳しく学ぶ。総合課題としては、Webスクレイピングおよびデータ解析のプログラム設計と実装に取り組む。						
<b>授業計画</b>						
第1回：Pythonの基本文法						
第2回：データ構造						
第3回：関数						
第4回：例外処理						
第5回：モジュール・パッケージ						
第6回：オブジェクト指向						
第7回：ファイル操作						
第8回：グラフィックス						
第9回：総合演習①：Webスクレイピングの設計						
第10回：総合演習①：Webスクレイピングの実装						
第11回：総合演習①：発表とまとめ						
第12回：データ解析						
第13回：総合演習②：データ解析プログラムの設計						
第14回：総合演習②：データ解析プログラムの実装						
第15回：総合演習②：発表とまとめ						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
なし。必要な講義資料は事前にネットで配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度（質疑応答など授業への積極的な参加） 45%</p> <p>2. 総合課題（Webスクレイピングとデータ解析のプログラム設計・実装） 55%</p>						

授業科目名：データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：増澤 利光 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 基本的なデータ構造とアルゴリズムを説明することができる</p> <p>2. 基本的なデータ構造とアルゴリズムをコンピュータプログラムとして実装できる</p> <p>3. 簡単な課題に対し、適切なデータ構造とアルゴリズムを設計できる</p> <p>4. 計算処理効率を考慮して適切なアルゴリズムを選択できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>アルゴリズムとデータ構造は、プログラム作成に必要不可欠であり、さまざまな分野の計算機システムで、多くのデータ構造とアルゴリズムが考案・利用されている。本授業では、探索問題、ソーティング問題、グラフ問題などを対象に、基本的なデータ構造とアルゴリズムを学ぶことで、計算機を用いて効率的な処理を実現する手法を理解し、データ構造とアルゴリズムをデザイン／性能評価するための基礎力を修得することを目的とする。授業では演習を行い、すぐれたデータ構造とアルゴリズムが計算機処理の効率化に及ぼす影響を体感する機会を持つ。</p> <p>授業時間外でも manaba folio で課題を提示し自主学習を行う。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：アルゴリズムと計算量						
第2回：基本的データ構造						
第3回：探索アルゴリズム：2分探索、2分探索木						
第4回：探索アルゴリズム：平衡2分探索木、ハッシュ法						
第5回：ソーティングアルゴリズム：選択法、挿入法、シェルソート						
第6回：ソーティングアルゴリズム：クイックソート、サンプルソート						
第7回：ソーティングアルゴリズム：ヒープソート、マージソート						
第8回：計算時間の下界						
第9回：中間テストと解説						
第10回：グラフアルゴリズム：グラフ探索、連結性判定						
第11回：グラフアルゴリズム：最短経路						
第12回：グラフアルゴリズム：最大フロー						
第13回：文字列アルゴリズム：文字列照合						
第14回：アルゴリズムの設計手法：分割統治法、グリーディ法、バックトラック法						
第15回：アルゴリズムの設計手法：分枝限定法、動的計画法						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
「アルゴリズム論」2003年、ISBN 978-427413278、浅野、和田、増澤、オーム社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中適宜指示する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・授業時間内レポート（15%）</p> <p>2. 授業時間外レポート（25%）</p> <p>3. 中間テスト（30%）</p> <p>4. 期末テスト（30%）</p>						

授業科目名：コンピューターアーキテクチャ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：吉川 隆士 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. コンピュータシステムの基盤技術の用語と概要を説明できる</p> <p>2. コンピュータシステムのアーキテクチャとそれが生まれた概念を説明できる</p> <p>3. スマートフォンやパソコン、サーバなどのカタログの仕様表を理解し説明できる</p> <p>4. AI、DX、VRなどの先進のコンピュータシステムの特徴と今後の展開を説明できる</p> <p>5. 基本情報技術者試験のコンピュータアーキテクチャに関する項目を説明できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>社会インフラから手元のスマホまで日常生活にコンピュータが浸透している。本授業はその中でも実用化が進むAI、自動運転やDX、VR、メタバースなどの先進システムを構成するコンピュータシステムのコア技術を学ぶ。その際に、それらの技術が生まれた背景や作り手の立場を考えることで、新しいシステムを見た時にその有用性や危険性などの特徴を自分で判断し、さらにはそのシステムがどう変わっていくのかという今後の発展や展開を予測できるようになることを目的とする。また基本情報技術者試験のコンピュータ、システムに関する項目をカバーする。授業ではそれらの助けとなる課題を提示する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：システムアーキテクチャとは：いろいろなコンピュータシステム、アーキテクチャ						
第2回：コンピュータの構成：CPU、メモリ、ストレージ、バス、I/Oデバイス						
第3回：OS、仮想化、ミドルウェア、OSS：コンピュータを動かすための基盤ソフトウェア						
第4回：I/Oデバイス：USB、Bluetooth、ディスプレイ、プリンタ						
第5回：高性能計算機：スペコン、GPU、高性能デバイス、インターネット						
第6回：信頼性、可用性：システムを止めない、データを失わない仕組み						
第7回：サーバとインターネット：いろいろなサーバで繋がるインターネット						
第8回：データセンター・クラウド：データセンターで実施されるクラウドサービス						
第9回：Webシステム：UI、API、フロント/バックエンド、DB						
第10回：AIシステム：機械学習、深層学習、認識、合成						
第11回：仮想空間システム：マシンビジョン、VR/AR、メタバース、						
第12回：DX、社会インフラシステム：IoT、DX、自動運転、デジタルツイン						
第13回：ビデオ通信システム：ネット配信、Web会議、監視カメラ						
第14回：コンピュータの基礎知識：計算機の仕様比較、数値演算、論理演算						
第15回：体系的な整理とシステム提案						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『はじめて学ぶコンピュータ概論－ハードウェア・ソフトウェアの基本』寺嶋廣克、朴鍾杰、安岡広志、平野正則 著 コロナ社						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・課題（25%）</p> <p>2. 課題発表（25%）</p> <p>3. 期末試験（50%）</p>						

授業科目名：システムソフトウェア	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中本 幸一 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. オペレーティングシステムの主な概念を説明できる</p> <p>2. Linuxの主なコマンドを利用ることができ、その役割を説明できる</p> <p>3. ソフトウェア開発華憲技術（バージョン管理、ファイル依存関係、パッケージ管理）を説明でき、実際の場面で利用できる</p> <p>4. 仮想マシン、コンテナなどの先進のソフトウェアシステムの特徴と今後の展開を説明できる</p> <p>5. 基本情報技術者試験のソフトウェアに関する項目を説明できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
本講義を通じて、オペレーティングシステム（コンピュータのハードウェアを有効活用し、ユーザーが使いやすい環境を提供するための基本ソフト）の諸機能であるファイル、ディレクトリ、プロセス、入出力機器などの機能を説明できるようになる。コンパイル、アセンブル、ライブラリ、バージョン管理、普段プログラム開発や普段利用しているアプリケーションプログラムの実行の仕組みを説明できるようになり、利用できるようになる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ファイルとディレクトリ：親ディレクトリ、カレントディレクトリ、名前規則						
第2回：ファイルシステムとパス						
第3回：ファイルのパーミッション						
第4回：プログラム実行：コンパイル、リンク、ライブラリの種類、静的・動的ライブラリ						
第5回：プロセスとスレッド						
第6回：スケジューリング						
第7回：プロセスの同期、排他制御						
第8回：仮想メモリと共有メモリ						
第9回：中間試験と解説						
第10回：入出力制御						
第11回：特殊ファイルとマウント						
第12回：Linux関連技術（主なコマンド、標準入出力、パイプ）						
第13回：ソフトウェア関連技術：オープンソースソフトウェア、パッケージ管理、バージョン管理、ファイルの依存関係						
第14回：仮想マシン						
第15回：コンテナ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『オペレーティングシステム』、安部広多 他、オーム社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考：『はじめて学ぶコンピュータ概論—ハードウェア・ソフトウェアの基本』、寺嶋 廣克 他、コロナ社						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・授業時間内レポート（15%）</p> <p>2. 授業時間外レポート（25%）</p> <p>3. 中間試験（30%）</p> <p>4. 期末試験（30%）</p>						

授業科目名：データ 解析入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中本 幸一、上林 篤幸、左近 透、陳 光輝、吉川 隆士、前 川 浩基 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. データ分析の各種手法の概要を説明できる。 2. 社会や企業でのデータの利用、経済学・経営学等の周辺領域を説明できる						
<b>授業の概要</b>						
データ解析の全体像を俯瞰する。データの収集や扱い方、統計学から始まり、回帰分析、多変量解析、重回帰分析、時系列分析、因果推論など各種データ分析手法がどういう手法で何ができるかを学ぶ。また、データ解析は対象データ毎に特徴があることから、いくつかのマーケティングデータ、企業データ、画像データ、地図情報データなどで典型的に利用されている場面や利用方法を紹介する。さらに、これらの社会での利用を理解するための経済学、経営学の入門を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション（データ分析の科目の概要）（中本幸一）						
第2回：統計の役割（確率、データ収集、統計的推定・検定の具体的な方法）（左近透）						
第3回：統計的役割（統計的推定、検定、回帰モデル）（左近透）						
第4回：データハンドリング（陳光輝）						
第5回：データマイニング（左近透）						
第6回：多変量解析（上林篤幸）						
第7回：時系列データ解析（前川浩基）						
第8回：計量経済分析（陳光輝）						
第9回：機械学習（吉川隆士）						
第10回：統計的因果推論（陳光輝）						
第11回：社会データの利用（上林篤幸）						
第12回：企業データの利用（前川浩基）						
第13回：ミクロ経済（上林篤幸）						
第14回：マーケティング論（前川浩基）						
第15回：地図情報システム（陳光輝）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
使用しない。プリントを配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
使用しない。プリントを配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業時間レポート（70%） 2. 期末レポート（30%）						

授業科目名：多変量解析	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：上林 篤幸 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 順位相関・相関係数を理解し利用できる。</p> <p>2. 直線による単回帰分析、重回帰分析を理解し利用できる。</p> <p>3. 因子分析及び主成分分析を理解し利用できる。</p> <p>4. クラスター分析及び判別分析を理解し利用できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>多変量解析は統計学の理解とコンピュータの使用を前提として、多くの要因が複雑にからみあつた現象を科学的に解明し、本質的な骨組みを描き出す解法群である。本講座では入手したデータを元に現状分析や将来に対する見通しを適切に実施できるようになる事を目的とする。</p> <p>具体的には、（1）利用可能なデータの形式や分析の目的に応じ分析の前段階の処理として必要になる、統計学に基づくデータの標準化、（2）変数間の関係の度合いを定量的に評価する相関の理論と実践、（3）因果関係を評価する回帰分析といった基本的な理論と手法を学んだ後、（4）因子分析、主成分分析、クラスター分析、判別分析及び数量化分析など、より進んだ多変量解析のトピックに関する理論と手法について学ぶ。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業ガイダンス、授業の内容・進め方						
第2回：多変量解析の目的、相関（Excelによる演習）						
第3回：正規化（Excelによる演習）						
第4回：相関係数と順位相関、相関係数の信頼性、相関と因果（Excelによる演習）						
第5回：尺度及び関連指數（Excelによる演習）						
第6回：直線による回帰（1）単回帰（Excelによる演習）						
第7回：直線による回帰（2）重回帰（Excelによる演習）						
第8回：中間テスト						
第9回：因子分析（Excelによる演習）						
第10回：主成分分析（Excelによる演習）						
第11回：クラスター分析（Excelによる演習）						
第12回：判別分析（Excelによる演習）						
第13回：数量化分析（1）（概念と数量化I類）						
第14回：数量化分析（2）（数量化II、III類）						
第15回：進んだトピック：概念と手法（構造方程式モデリングによる統合、Pythonの利用等）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『改訂版 多変量解析のはなしー複雑さから本質を探る』、大村平 著、日科技連出版社、2021年、ISBN:978-4-817-180-278						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『多変量解析法入門』、永田靖・棟近雅彦、サイエンス社： ISBN:4-7819-0980-9						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・課題・発表（40%）</p> <p>2. 中間試験（30%）</p> <p>3. 期末試験（30%）</p>						

授業科目名：データマイニング	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：左近透 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. データマイニングの代表的な手法とその適用対象と適用目的について概要を理解する。</p> <p>2. データマイニングの各手法をツールとして利用できる。</p> <p>3. 与えられたデータおよび目的に応じて適切な手法を選択し、正しい解釈が行える。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>現代社会においてはさまざまな履歴(webアクセス、投稿、購買、移動など)が逐一、データとして蓄積されるようになった。多種多様でリアルタイム性の高い大規模データを分析し、ビジネスにおける意思決定や問題解決に活用しようという動きはますます盛んになっている。こうした背景のもと、データ分析を行い未来を予測することができるスキルを持つ人材はデータサイエンティストとして重要視されている。本科目では、データサイエンティストにとって必要とされる知識やスキルのうち、データマイニングに使用される手法を概観する。すなわち、機械学習の学習に先立ち、データマイニング概論として、各手法の仕組みおよび適用事例を通して特徴や適用方について俯瞰的し、各手法の位置付けや特性を整理された形で理解することを主目的とする。</p> <p>なお、高機能な統計解析フリーソフトウェアの「R」を用いたデータ分析を行う。また、基本的なデータの取り扱いを習得することを前提とするため、本講義の履修に際して、授業「データハンドリング」を履修していることが望ましい。ただし、Rの使用に際しては、本格的なプログラム作成を求めるものではなく、用意されているツールやサンプルプログラムの利用やその修正が中心とする。なお本講義では、中間テストは行わず、学習課題を通じてのレポートのウェイトを重視する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：オリエンテーション 目的. データマイニングの全体像と基本的な考え方について俯瞰する。</p>						
<p>第2回：ニューラルネット(1) ニューラルネットの基本的な動作を理解する。</p>						
<p>第3回：ニューラルネット(2) ニューラルネットを用いた分析事例を通して利用法を理解する。</p>						
<p>第4回：決定木(1) 決定木についての基本的な考え方を理解する。</p>						
<p>第5回：決定木(2) 事例を通じて利用法を理解する。</p>						
<p>第6回：自己組織化マップ(1) 多くの特微量からなるデータを二次元での位置関係で表す自己組織化マップの原理とその利用について理解する。</p>						
<p>第7回：自己組織化マップ(2) 自己組織化マップについて事例を通じて利用法を理解する。</p>						
<p>第8回：連関規則 データ間の関係性を発見するための手法である連関規則について理解する。</p>						
<p>第9回：連関規則 連関規則について事例を通じて利用法について理解する。</p>						
<p>第10回：クラスター解析 データの類似性を抽出する分析法の一つであるクラスター分析について階層的、非階層的手法について理解し、事例を通して利用法を理解する。</p>						
<p>第11回：ベイジアンネットワーク(1) ベイジアンネットワークについて、ベイズ統計学からその考え方を理解する。</p>						
<p>第12回：ベイジアンネットワーク(2)</p>						

事例を通じてペインジアンネットワークの利用について理解する。 第13回・第14回：潜在意味解析(1) (2) 潜在意味解析の基本的な考え方を理解し、事例を通じてそれを理解する。 第15回：テキストマイニング 身近に利用されるテキストマイニングについてその概要および得られる結果について事例を通して理解する。
定期試験
テキスト 参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。
参考書・参考資料等 参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。
学生に対する評価 1. 受講態度・授業時間内レポート (15%) 2. 授業時間外レポート (45%) 3. 期末テスト (40%)

授業科目名：地理情報システム	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：陳光輝 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. GISの基本的な仕組みを説明することができる</p> <p>2. ベクタデータを取り扱うことができる</p> <p>3. ラスタデータを取り扱うことができる</p> <p>4. 実際に情報作成や解析を行うことができる</p>						
<b>授業の概要</b>						
グーグルマップや各種ハザードマップのような、様々な情報を地理空間上の位置や形の情報と結びつけて可視化する地理情報システム（GIS）の原理と技術を習得する。地球上の位置を示すための測地系と座標系、位置や形を表現するためのデータモデル、位置や形と各種情報を結びつけるためのデータフォーマットといった基礎の知識を理解し、各種オープンデータとアプリケーションを用いて実際に可視化、解析等を行う能力を身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：GISとは						
第2回：GISの仕組み：測地系と座標系						
第3回：GISの仕組み：ベクタデータとラスタデータ						
第4回：ベクタデータの取り扱い：ポリゴンデータ						
第5回：ベクタデータの取り扱い：ポイントデータ						
第6回：ベクタデータの取り扱い：ラインデータ						
第7回：ラスタデータの取り扱い						
第8回：中間テストと解説						
第9回：GISによるデータ分析						
第10回：オープンデータの利用：XYZタイル						
第11回：オープンデータの利用：基盤地図情報						
第12回：オープンデータの利用：国土数値情報						
第13回：オープンデータの利用：e-Stat						
第14回：オープンデータの利用：データカタログサイト						
第15回：オープンデータの利用：GADM (Global Administrative Areas)						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 課題 (25%)</p> <p>2. 中間テスト (25%)</p> <p>3. 期末レポート (50%)</p>						

授業科目名：時系列データ解析論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：前川 浩基 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 時系列データの種類と、時系列データ解析の目的について説明できる。</p> <p>2. プログラム言語（Python）を用いて、時系列データの加工・解析ができる。</p> <p>3. 伝統的な時系列データ解析や、実践的な時系列データ解析を行うことができる。</p> <p>4. ファイナンスデータやセンサーデータなど、さまざまな時系列データを解析することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
国内総生産や消費者物価指数といった各種の経済指標、株価や為替といったマーケット情報、さまざまな分野で利用されているセンサー類による測定値など、私たちのまわりには多種多様な時系列データがある。それらの時系列データを題材として、伝統的に用いられてきた時系列データ解析手法から、最新かつ実践的な時系列データ解析手法までを学ぶ。データ解析にはプログラミング言語（Python）を用い、実際にプログラムを作成しながらデータ解析を進めていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：時系列データ解析の目的、時系列データの種類						
第2回：時系列データの可視化						
第3回：トレンドおよび季節変動の抽出						
第4回：時系列データによる予測、移動平均法・指數平滑法						
第5回：時系列データの自己相関						
第6回：ARモデル、MAモデル						
第7回：ARMAモデル、ARIMAモデル						
第8回：ファイナンスデータ解析（概要）						
第9回：ファイナンスデータ解析（テクニカル分析）						
第10回：ファイナンスデータ解析（銘柄間の関係分析）						
第11回：センサーデータ解析（概要）						
第12回：センサーデータ解析（特微量抽出）						
第13回：センサーデータ解析（機械学習を用いた分析）						
第14回：データ解析課題発表（経済データ、ファイナンスデータ）						
第15回：データ解析課題発表（センサーデータ）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『時系列解析 自己回帰型モデル・状態空間モデル・異常検知』島田直希著、共立出版						
『現場ですぐ使える時系列データ分析 データサイエンティストのための基礎知識』横内大介・青木義充著、技術評論社						
『入門はじめての時系列分析』石村貞夫・石村友二郎著、東京図書						
『実践時系列解析 統計と機械学習による予測』Aileen Nielsen著、山崎邦子・山崎康宏訳、オンライン出版						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度、授業への参画（20%）</p> <p>2. 授業中の発表および小テスト（30%）</p> <p>3. 課題発表および最終レポート（50%）</p>						

授業科目名：データ分析演習 I	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：前川浩基 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. データの特性や、プレゼンテーションの目的に応じたデータの可視化ができる</p> <p>2. データに対して、さまざまな記述統計量を求めることができる</p> <p>3. 回帰分析などの多変量解析をおこない、その結果を解釈することができる</p> <p>4. 分類問題を解き、その結果を解釈することができる</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>「統計学1」 「統計学2」 や「多変量解析」で学んだ統計手法・データ分析手法について、実際にツールやプログラム言語を用いて演習する授業である。表計算ソフト、BIツール、プログラム言語（Python）などを実際に使いながら、これまで学んできたさまざまな手法を体験・実装することで知識の定着を図るとともに、実践的なデータ分析スキルを身につけることを目標とする。データ分析手法の理解度・定着度を測るために、小テストおよび期末テストを実施する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：データ分析の目的</p> <p>第2回：データの可視化</p> <p>第3回：データの集計と記述統計</p> <p>第4回：統計的仮説検定</p> <p>第5回：相関分析</p> <p>第6回：機械学習の基礎（教師あり学習、教師なし学習）</p> <p>第7回：回帰分析1（回帰分析の基礎、単回帰分析）</p> <p>第8回：回帰分析2（重回帰分析）</p> <p>第9回：回帰分析3（ロジスティック回帰分析）</p> <p>第10回：主成分分析、因子分析</p> <p>第11回：分類問題1（線形判別）</p> <p>第12回：分類問題2（k-NN法）</p> <p>第13回：分類問題3（決定木）</p> <p>第14回：分類問題4（ニューラルネットワーク）</p> <p>第15回：クラスタリング</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
<p><b>【必携書】</b></p> <p>「東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ～Pythonで手を動かして学ぶデータ分析～」 塙本邦尊・山田典一・大澤文孝著、中山浩太郎監修、マイナビ出版</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<p><b>【参考書】</b></p> <p>参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度、授業への参画（20%）</p> <p>2. 小テスト（30%）</p> <p>3. 期末テスト（50%）</p>						

授業科目名：コンピュータネットワーク	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：河野 英太郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. コンピュータネットワークが発展してきた技術的な背景と概要、さらにそこで扱われるデジタル情報について説明できること。</p> <p>2. コンピュータネットワークの代表的な基本技術と階層モデルと各階層の役割について説明できること。</p> <p>3. コンピュータネットワークを支える技術とその発展について説明できること。</p> <p>4. 課題演習を通して、情報機器のネットワーク状態や通信等を適切に実施できること。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>スマートフォンやパーソナルコンピュータなどを含むデジタル機器同士から構成されるコンピュータネットワークは、現代社会を支える重要な技術であり、我々の生活に必須のものとなっている。また、コンピュータネットワークパケットと呼ばれるデジタルデータのやり取りによって成り立っており、新しい技術などを導入する際、通信技術を階層に分けて考えるという役割のモデル化により成り立っている。本講義では、個々の技術的な内容と共に、各技術が構成される際の基本的な考え方を理解する。そのために、まずコンピュータネットワークにおけるデジタル化が果たす役割と基礎的な技術の背景を理解する。次に階層モデルとそれぞれの階層における役割ならびにその例を理解する。また、我々の生活に不可欠となっているWeb にまつわるコンピュータネットワーク技術について、一部演習などを用いて具体的に理解する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：概要（コンピュータとネットワークの技術的な背景と概要、様々な情報のデジタル化）						
第2回：パケット通信とネットワーク同士をつなげる技術、階層モデル						
第3回：物理層						
第4回：データリンク層						
第5回：ネットワーク層						
第6回：トранスポート層						
第7回：アプリケーション層						
第8回：中間まとめ						
第9回：インターネットを支える技術1: DNS、 経路制御						
第10回：Webやメール等を支えるアプリケーション層技術						
第11回：コンピュータネットワークを支える技術の発展1: 無線ネットワーク技術						
第12回：コンピュータネットワークを支える技術の発展2: ネットワークセキュリティの基礎						
第13回：ネットワーク技術とその実際1: ネットワーク管理コマンド演習						
第14回：ネットワーク技術とその実際2: ネットワークセキュリティ基礎演習						
第15回：まとめ						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 課題レポートならびに各回の演習課題を課す。課題レポート(80%)</p> <p>2. 各回の演習課題(20%)の割合で成績を総合的に評価する。</p> <p>3. 課題レポートについては、完成されたものを指定された期限までに提出し、受理される必要がある。</p>						

授業科目名：インターネットシステム	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：河野英太郎			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. インターネットシステムを動作させるオペレーティングシステムやアプリケーションの操作ができ、コマンド等の操作を身につけること。</p> <p>2. インターネットシステムを構築するための代表的な言語やプログラムなどの記述法を理解し、自分なりのシステムを設計できること。</p> <p>3. インターネットシステムの動作検証と正常動作やトラブル発生時の動作について説明し、分析できること。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>インターネットは通信を行う社会的な基盤の重要な機能を担っている。現在の社会的な基盤技術はインターネットを活用したシステムを用い、離れた場所にいる送信者や受信者が相互に情報を交換することが不可欠になってきている。本講義では、その中でも重要度が非常に高いWebページを用いたシステムを作成するために用いるコンピュータ言語であるHypertext Markup Language (HTML) と Cascading Style Sheet (CSS)によるWebページをもとに、Javascriptなどを用いた動的なページを構築する方法を習得し、通信により交換されている情報を確認する方法について理解する。また自分なりのWebページを設計して実装し、評価を行うことでシステム全体の挙動を把握し、理解する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：概要（本講義の最終目標の説明と利用機器等に関する基本説明）						
第2回：オペレーティングシステムのインストール						
第3回：オペレーティングシステムと管理コマンド						
第4回：Webサーバのインストールと基本動作確認						
第5回：Webサーバとの通信状況確認						
第6回：簡単なWebページを作ってみよう						
第7回：Webページを構成する要素を知ろう（HTMLとCSS）						
第8回：中間まとめ						
第9回：JavaScriptとその概要						
第10回：JavaScriptを用いて動的なWebページを作ってみよう						
第11回：Webページとセキュリティ						
第12回：通信データを解析してみよう						
第13回：総合課題1（Webページの設計）						
第14回：総合課題2（Webページの作成と評価）						
第15回：まとめ						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 総合課題ならびに各回の演習課題を課し、総合課題(80%)、各回の演習課題(20%)の割合で成績を総合的に評価する。</p> <p>2. 課題レポートについては、完成されたものを指定された期限までに提出し、受理される必要がある。</p>						

授業科目名：情報セキュリティ	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：小松 文子 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 情報セキュリティの概念と用語を説明できる。</p> <p>2. 近年の脅威の状況とその対策方法を説明できる。</p> <p>3. セキュリティ技術の概要を説明できる。</p> <p>4. セキュリティリスク分析のプロセスを説明し、単純なシステムに対するリスク分析ができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
デジタル社会において、情報セキュリティは、個人にとっては安全に利用するうえで企業や組織にとって健全な社会活動のために必要である。本授業は、近年の情報セキュリティの脅威の状況を理解し、情報セキュリティの必要性、技術、組織のセキュリティ管理手法を修得することを目的とする。具体的には、暗号技術、認証技術やネットワークセキュリティなどの技術と、組織におけるセキュリティ対策やリスク分析の概要を修得する。授業では、学んだ内容について確認するための課題を提示する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：講義の目的、情報セキュリティの概念と基礎、脅威、リスク、インシデント等用語の理解						
第2回：近年の脅威の状況とその対策						
第3回：組織における情報セキュリティ対策（未然防止）						
第4回：組織における情報セキュリティ対策（インシデント対応）						
第5回：情報セキュリティリスク分析						
第6回：情報セキュリティリスク分析（演習）						
第7回：情報セキュリティ技術—暗号技術1（共通鍵暗号方式）						
第8回：情報セキュリティ技術—暗号技術2（公開鍵暗号方式、ハッシュ関数）						
第9回：情報セキュリティ技術—認証技術、公開鍵暗号基盤（PKI）						
第10回：情報セキュリティ技術—ネットワークセキュリティ（マルウェア等）						
第11回：情報セキュリティ技術—ネットワークセキュリティ（不正アクセス、ファイアウォール、VPN等）						
第12回：データセキュリティープライバシー保護、著作権管理						
第13回：ブロックチェーンを支える技術						
第14回：情報セキュリティに関連した制度（電子署名法、個人情報保護、コンピュータウイルス作成罪など）						
第15回：情報セキュリティと社会経済						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・課題（30%）</p> <p>2. 課題発表（20%）</p> <p>3. 期末試験（50%）</p>						

授業科目名：情報システム入門	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中本 幸一、天野 憲樹、河野 英太郎、小松 文子、吉川 隆士、神田 哲也、鈴木 優、大西 洋、増澤 利光 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 情報システムの全体像と要素技術の概要を説明できる。 2. システム構築に必要な技術を説明できる。 3. 利用者視点で情報システムを効率的・効果的に利用するための諸技術を説明できる。						
<b>授業の概要</b> 情報システムの全体像を俯瞰する。大きく3つの分野に分かれる。1) 情報システムを構成要素であるソフトウェア、コンピューターアーキテクチャ、インターネット、セキュリティ、データベース、クラウドの機能と役割、2) システム構築に必要なアルゴリズム、ソフトウェア工学、3) 利用者視点で情報システムを効率的・効果的に利用するための教育支援システム、エンターテインメントコンピューティング、インターフェイクションデザインなどの諸技術の概要を学ぶ。						
<b>授業計画</b> 情報システムに関連する講義の概要を紹介し、全体像を俯瞰する。 第1回：全体像（中本幸一） 第2回：システムソフトウェア（中本幸一） 第3回：コンピュータネットワーク（河野英太郎） 第4回：インターネットシステム（河野） 第5回：コンピュータアーキテクチャ、クラウド（吉川） 第6回：情報セキュリティ（小松） 第7回：データベース（大西） 第8回：情報検索（大西） 第9回：アルゴリズム（増澤） 第10回：ソフトウェア工学（神田） 第11回：ソフトウェアデザイン（神田） 第12回：教育支援システム論（天野） 第13回：エンターテインメント・コンピューティング（天野） 第14回：ジェネラティブデザイン、フィジカルデザイン（鈴木） 第15回：インターフェイクションデザイン（鈴木） <b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b> 参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b> 参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業時間レポート（70%） 2. 期末レポート（30%）						

授業科目名： ソフトウェアデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 哲也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. ソフトウェア開発のプロセスについて理解し、ソフトウェア設計の概念について説明できる。</p> <p>2. 構造化分析・設計およびUMLを用いてソフトウェアの設計を実施することができる。</p> <p>3. 他人の設計文書を読んで、それを説明できる。また問題点を指摘することができる。</p> <p>4. ソフトウェアの設計からそれに基づいたプログラムの実装への流れを説明できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、高品質なソフトウェアを効率的に開発するための、分析・設計技法について学ぶ。ソフトウェア開発のためのモデルを表現する手段として、UMLをとりあげる。これまでのプログラミングの授業は「指示された設計のプログラムを記述する」ものであったが、本授業を通して「与えられた問題に対してどのような構造のソフトウェアを開発すればよいか設計できる」状態にステップアップする。講義内ではグループワークを導入し、他人が書いた設計文書を読み解く練習を行う。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：ソフトウェアの設計とは</p> <p>第2回：構造化分析・設計手法 - コンテキストダイアグラム、データフローダイアグラム</p> <p>第3回：構造化分析・設計手法 - 構造図、ダイアグラムのチェック</p> <p>第4回：構造化分析・設計演習</p> <p>第5回：構造化分析・設計演習のふりかえり</p> <p>第6回：オブジェクト指向設計とUML</p> <p>第7回：UML - クラス図1 クラスとオブジェクト</p> <p>第8回：UML - クラス図2 況化、集約</p> <p>第9回：UML - ユースケース図</p> <p>第10回：UML - シーケンス図、コラボレーション図</p> <p>第11回：UML - 状態図、アクティビティ図</p> <p>第12回：UML - コンポーネント図、配置図</p> <p>第13回：UMLからプログラムへの実装、デザインパターン</p> <p>第14回：UMLを用いた設計演習</p> <p>第15回：UMLを用いた設計演習のふりかえり</p>						
<b>定期試験</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
候補：						
『かんたんUML入門 [改訂2版]』竹政昭利、林田幸司、大西洋平、三村次朗、藤本陽啓、伊藤宏幸 技術評論社						
『ゼロからわかる UML超入門』 河合昭男 技術評論社						
『演習で身につくソフトウェア設計入門—構造化分析設計法とUML』 井上克郎 NTS						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 毎回の復習課題（20%）</p> <p>2. 設計演習（15%）</p> <p>3. 設計演習のふりかえりの報告（15%）</p> <p>4. 期末試験（50%）</p>						

授業科目名：データベース	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：大西 洋 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. データベースの理論的背景を踏まえて、情報システムのデータベースを適切に設計できる 2. データベースへの適切かつ効率的な問い合わせ方法を利用し、プログラムで活用できる 3. 情報システムで生じる現象を、システムと連動するデータベースの挙動を意識して分析できる						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、現代社会で稼働する情報システムでデータを管理する基盤となっているデータベースについて、問い合わせ言語と関係代数を中心に扱いながら、データベースの理論的背景と実践的な応用について学ぶ。問い合わせ言語は主にPCとSQLによる演習で学び、必要に応じてその他の問い合わせ方法も学ぶ。データベースの理論については主に実体-関連モデルと関係代数を講義や演習で学んだ上で、関係論理や圏論的データベースについても触れ、データベースに対する多面的な視座を獲得する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：データベースの基礎（基本概念・用途・歴史）・科目的概要						
第2回：データベースの定義・SQLによるデータベースの作成（CREATE文・DROP文）						
第3回：データベースの操作・SQLによるデータベースの操作（SELECT・INSERT・UPDATE・DELETE文）						
第4回：複雑な問い合わせ（サブクエリ・ビュー）・問い合わせの最適化						
第5回：関係データモデル・E-R図						
第6回：情報システムにおけるデータベースの設計と活用（グループ演習）						
第7回：プログラム言語（Python）とデータベースの連動						
第8回：関係代数の基礎（スキーマとインスタンス）						
第9回：関係代数の演算（集合演算・関係演算）						
第10回：関数従属性（キー・外部キー）						
第11回：正規化理論とその活用						
第12回：関係論理						
第13回：圏論的データベースの基礎						
第14回：トランザクション・排他制御						
第15回：関係データベース以外のデータベース（NoSQL系・データキューブなど）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『実学としてのデータベース——基礎から実践まで（新・数理/工学ライブラリ 情報工学3）』，2020年，ISBN 978-4864810890，宇田川佳久，藤原丈史，数理工学社						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<参考書等>						
『コンピュータに問い合わせる——データベースリテラシ入門（Computer and Web Sciences Library）』，2018年，ISBN 978-4781914350，増永良文，サイエンス社						
『データベース入門[第2版]（Computer Science Library 14）』，2021年，ISBN 978-4781915005，増永良文，サイエンス社						
『リレーションナルデータベース入門——データモデル・SQL・管理システム・NoSQL（Information & Computing）』，2017年，ISBN 978-4781913902，増永良文，サイエンス社						
『IT Text データベースの基礎』，2019年，ISBN 978-4274223730，吉川正俊，オーム社						
『みんなの圏論——演習中心アプローチ』，2021年，ISBN 978-4320114548，David I. Spivak（川辺訳），共立出版						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内での課題（30%） 2. 授業内での小テスト（30%） 3. レポート（40%）						

授業科目名： ソフト ウェア工学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 哲也 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. ソフトウェア開発の工程である要求の獲得から設計、実装、テスト、運用までの一連の流れを理解し、説明できる。</p> <p>2. ソフトウェアテストに対する基本的な理解をもとに、簡単なプログラムのテスト設計ができる。</p> <p>3. ソフトウェアの保守・品質について、評価指標をもとに議論することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>ソフトウェア工学とは、品質の高いソフトウェアを低コストで期限内に開発し、効率良く保守するための技術を扱う学問分野である。本授業では、「ソフトウェアデザイン」で扱ったソフトウェアの設計と実装の流れからさらに視野を広げ、要求の獲得から設計、実装、テスト、運用・保守に至るまでのソフトウェア開発の全工程について学習する。特に、テストと保守については演習を交えながら理解を深める。伝統的なウォーターフォール・モデルに沿って学習を進めたのち、アジャイル開発プロセスや最近のソフトウェア開発手法などの発展的議題にもふれる。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：ソフトウェア工学とは</p> <p>第2回：ソフトウェア開発プロセス</p> <p>第3回：ソフトウェア開発手法とモデリング</p> <p>第4回：要求獲得</p> <p>第5回：ソフトウェアテスト - 単体テスト</p> <p>第6回：ソフトウェアテスト - 結合テスト</p> <p>第7回：ソフトウェアテスト演習</p> <p>第8回：ソフトウェアの運用・保守</p> <p>第9回：ソフトウェア保守演習</p> <p>第10回：ソフトウェア品質管理</p> <p>第11回：プロジェクトの管理</p> <p>第12回：アジャイル開発プロセス</p> <p>第13回：アジャイル開発プロセス演習</p> <p>第14回：チームでのソフトウェア開発環境</p> <p>第15回：発展的議題</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>候補：</b>						
<p>『レクチャーソフトウェア工学』鶴林尚靖、数理工学社</p> <p>『ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの新人研修第3版』川添雄彦、飯村結香子、大森久美子、西原琢夫 翔泳社</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 授業内でのソフトウェアテスト演習、ソフトウェア保守演習（30%）</p> <p>2. 授業外演習課題（20%）</p> <p>3. 期末試験（50%）</p>						

授業科目名：教育支援システム論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名： 天野 憲樹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 教育支援システムの理論的支柱であるインストラクショナルデザインを理解する。</p> <p>2. 学習管理システム（LMS）の適切なコース設計・実装ができる。</p> <p>3. Canvas LMSの基本的な利用方法を習得する。</p> <p>4. ペアワーク、グループワークにより他者と協働しつつ、自己の主体性を維持できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、教育支援システムに関する理論としてインストラクショナルデザインについて学び、その手法と意義について深く理解するとともに、教育支援システムを用いたコースの設計・実装に関する技能の習得を目的とする。授業では、インストラクショナルデザインの5フェーズ（分析・設計・開発・実施・評価）について学び、次世代の世界標準と言われる学習管理システムCanvas LMSを用いてインストラクショナルデザインを踏まえたコース設計・実装をグループワークで実践的に学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：導入・なぜ教育支援システム論を学ぶのか？ ※グループの作成						
第2回：教育支援システムmanabaに関する調査・検討 ※グループによる発表						
第3回：OCW・MOOCsに関する調査・検討 ※グループによる発表						
第4回：インストラクショナルデザイン（ID）の概要						
第5回：IDの分析フェーズ ※グループワークを含む						
第6回：IDの設計フェーズ ※グループワークを含む						
第7回：IDの開発フェーズ ※グループワークを含む						
第8回：IDの実施フェーズ ※グループワークを含む						
第9回：IDの評価フェーズ ※グループワークを含む						
第10回：LMSの概要						
第11回：LMSのコンテンツ（SCORMの概要）						
第12回：Canvas LMSの概要と基本操作 ※実習						
第13回：最終課題：Canvas LMSによるコースの設計 ※グループによる実習						
第14回：最終課題：Canvas LMSによるコースの実装 ※グループによる実習						
第15回：最終課題の発表とまとめ ※グループによる発表						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
なし。必要な講義資料は事前にネットで配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度（質疑応答など授業への積極的な参加） 45%</p> <p>2. 最終課題（グループによるCanvas LMSによるコース設計・実装） 55%</p>						

授業科目名： ソフトウェア開発演習	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 哲也、魯 希琴 担当形態：複数			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. ソフトウェア工学の基本的知識を実践し、一つの成果物を作り上げることができる。 2. プロジェクト管理について理解し、複数人で協働でソフトウェア開発を実践できる。						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、「ソフトウェアデザイン」「ソフトウェア工学」で学んだソフトウェアシステムの仕様定義から開発、テストに至るまでの一連の工程をグループ演習の形式で模擬体験する。実際にシステムを作成する際は、すべての作業を一人で行うのではなく、チームで役割分担をし、また個々の作業の成果を統合するといった作業が必要になる。そこで、複数人でのソフトウェア開発において必要となる版管理システムなどのツールや、コミュニケーションの方法についても学ぶ。作成するシステムのテーマは提示するが、グループで相談してそれ以外のテーマに決めててもよい。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、アイスブレイク						
第2回：グループ開発の準備・版管理システムの利用						
第3回：グループ開発の準備・作業分担とレビュー						
第4回：演習課題の提示、要件定義						
第5回：要件定義・外部設計						
第6回：外部設計・内部設計						
第7回：実装と単体テスト1（システムの設計に基づいたモジュールの実装作業、単体テストの作成）						
第8回：実装と単体テスト2（モジュールの実装作業、単体テストの実行）						
第9回：中間報告会、グループ活動の見なおし						
第10回：実装と単体テスト3（中間報告を受けた設計の修正、修正を受けたモジュールの実装作業）						
第11回：実装と単体テスト4（モジュールの実装の完了、すべての単体テストを通過したことの確認）						
第12回：結合テスト、総合テスト1（モジュールを組み合わせたテスト、修正）						
第13回：結合テスト、総合テスト2（テストを通したシステムの最終確認、成果物の完成）						
第14回：発表会の準備						
第15回：成果発表会、活動のふりかえり						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
「ソフトウェアデザイン」「ソフトウェア工学」の教科書・参考書						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 最終レポート（20%） 2. 演習成果物（50%） 3. グループ活動の相互評価（30%）						

授業科目名：クラウドシステム	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：吉川 隆士 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. クラウドシステムの構成と主な技術の概要を説明できる      2. クラウドシステムを用いたサービスの実現方法を説明できる      3. パブリッククラウドを用いる場合に必要な設定項目を説明できる      4. クラウド上にWebサーバを構成して公開するフローを説明できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>計算機リソースを自前で持たずにクラウドを利用するケースが増えている。またスマートフォンなど手元のWebブラウザを用いてアクセスする様々なアプリケーションやサービスがクラウド上にシステム構築されている。</p> <p>本授業ではクラウドシステムならびにクラウドを活用して実施されているサービスがどのように作られているか、クラウドの構成と多様な機能を学ぶとともに、クラウド上でWebサービスを実施するケースを例に、必要なクラウド制御管理オペレーションの知識を身につける。それにより、将来自分で何かの課題を解決するコンピュータシステムを作成する際に、クラウドを開発やサービス実施の基盤として使えるようになることを目的とする。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：クラウドで動いているサービス クラウド上に構築されているサービスを通してクラウドの概念を習得する</p>						
第2回：データセンターと構成要素 クラウドを支えるデータセンターの構成						
第3回：サーバとサービス サーバで実現される主なサービス：Web、mail、File、DB、DNS、SSH						
第4回：Webサービス 数々のサービスが実行されているWebサービスの構成						
第5回：クラウドサービス クラウドが提供するインフラ、費用、主なベンダー、オンプレミスとの違い						
第6回：クラウドネイティブ、DevOps クラウドが可能にしたシステム開発手法						
第7回：パブリッククラウド パブリッククラウドの概要						
第8回：パブリッククラウド利用時のリソース関連の項目 リーション、ネットワーク、ストレージ、管理ツール						
第9回：パブリッククラウド利用時のユーザ関連設定 ユーザ管理、IAM、セキュリティ						
第10回：パブリッククラウド利用時のコンテンツ インスタンスの作成と公開						
第11回：IaaSとPaaSと費用管理 クラウドインフラ利用時の費用管理						
第12回：仮想マシンとコンテナ クラウドの計算機リソース活用方法						
第13回：Webサーバの構築1 コンテンツ動作のためのインスタンス						
第14回：Webサーバの構築2 公開のための設定						
第15回：体系的な整理 全体の体系的整理と自身でのシステム提案						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考：</b>						
『イラスト図解式 この一冊で全部わかるクラウドの基本 第2版』林 雅之、SBクリエイティブ株式会社 『Amazon Web Services定番業務システム14パターン設計ガイド』川上 明久、日経BP社						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度・課題（30%）      2. 課題発表（20%）      3. 期末試験（50%）</p>						

授業科目名：エンターテインメント・コンピューティング	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：天野 憲樹 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. エンターテインメント・コンピューティングとその要素技術に対する深い理解を得る。</p> <p>2. エンターテインメント・コンピューティングの重要な要素技術を習得する。</p> <p>3. エンターテインメント・コンピューティングにもとづくシステムを設計・実装することができる。</p> <p>4. ペアワーク、グループワークにより他者と協働しつつ、自己の主体性を維持できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、プログラム開発環境やソフトウェアツールを用いた演習を通じてエンターテインメント・コンピューティングについて深い理解を得ること、およびその実装技術の習得を目的とする。授業では、エンターテインメント・コンピューティングの要素技術として、プロジェクトマッピング・コンピュータアニメーション・サウンドプログラミング・バーチャルリアリティ（VR）・ゲームプログラミングを取り上げ、それらを総合的に用いる課題にグループで取り組む。						
<b>授業計画</b>						
第1回：導入・エンターテインメント・コンピューティングとは？						
第2回：映像表現1：プロジェクトマッピング						
第3回：演習1：プロジェクトマッピング						
第4回：映像表現2：コンピュータアニメーション						
第5回：演習2：コンピュータアニメーション						
第6回：映像表現3：VFX						
第7回：演習3：VFX						
第8回：サウンド：サウンドプログラミング						
第9回：サウンド演習：サウンドプログラミング						
第10回：造形：VR						
第11回：造形演習：VR						
第12回：ゲーム：ゲームプログラミング ※グループの作成						
第13回：最終課題：ゲームの設計 ※グループによる実習						
第14回：最終課題：ゲームの実装 ※グループによる実習						
第15回：最終課題の発表とまとめ ※グループによる発表						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
必要な講義資料は事前にネットで配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度（質疑応答など授業への積極的な参加）45%</p> <p>2. 最終課題（グループによるゲームの設計・実装）55%</p>						

授業科目名：情報と職業	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名： 中本 幸一、上林 篤幸、小松 文子、吉川 隆士、前川 浩基 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1. 情報システムやデータサイエンスが社会でどういう利用されているのか、それに関連してどういう企業や官公庁でビジネスや業務があるのかを説明できる。</p> <p>2. 上記の元に、自身のキャリアの判断基準を述べることができる。</p>						
授業の概要						
<p>情報システムやデータサイエンスが社会でどういう利用されているのか、それに関連してどういう企業や官公庁でビジネスや業務があるのか、もし学生がそうした企業や官公庁に入った場合に、どういう仕事を行い、結果としてキャリア形成されているのかを、実務経験者5名によりオムニバス講義として行う。内容はITシステム開発、情報セキュリティ、農業・環境政策でのデータ解析、企業でのデータ分析、ベンチャービジネスや海外ITビジネスである。</p> <p>なお、本講義は高校の情報教員免許に必要とされている科目であるがこの学科では一般学生にも将来を考える上でも役に立つよう講義とする。</p>						
授業計画						
<p>第1回：イントロダクション(中本幸一)</p> <p>第2回：ITの実社会での利用(中本幸一)</p> <p>第3回：ITビジネスとはどういうものか(中本幸一)</p> <p>第4回：IT企業での業務とキャリア(中本幸一)</p> <p>第5回：大学卒業まで（1960年代-80年代初頭）(上林篤幸)</p> <p>第6回：農林水産省の行政官及び国際機関職員として（80年代初頭-今世紀初頭（2000年代））(上林篤幸)</p> <p>第7回：世界のフードシステム（食料・農業の川上から川下までの経済社会システム）とそれに関連する望ましい政策の研究者として（今世紀初頭-現在）(上林篤幸)</p> <p>第8回：情報セキュリティの実際(公的機関から見た)(小松文子)</p> <p>第9回：情報セキュリティビジネス(小松文子)</p> <p>第10回：情報セキュリティ業務と実務(小松文子)</p> <p>第11回：企業活動とデータサイエンス(前川浩基)</p> <p>第12回：データの可視化とプレゼンテーション(前川浩基)</p> <p>第13回：社会に求められるデータ分析スキル(前川浩基)</p> <p>第14回：ビジネスの裏側：特許、アライアンス(吉川隆士)</p> <p>第15回：まとめ：今後の業務とキャリアを考える(中本幸一)</p>						
定期試験						
テキスト						
使用しない。プリントを配布する。						
参考書・参考資料等						
使用しない。プリントを配布する。						
学生に対する評価						
<p>1. 授業時間外レポート（60%）</p> <p>2. 期末試験（40%）</p>						

授業科目名：企業データ論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：前川 浩基 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 企業経営とデータとの関わりについて説明できる</p> <p>2. 企業におけるデータ活用について、実例をもとに説明できる</p> <p>3. 小売業・製造業など、業種に応じたデータ活用の目的と手法について、実例をもとに説明したり、新たな提案をおこなうことができる</p> <p>4. データベース、クラウドサービス、オープンデータなどの技術とそのトレンドについて説明できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
企業における情報戦略ではこれまで、「どのような情報システムを開発するか」に主眼が置かれていた。しかし近年は「どのようなデータを収集し、それをどのように活用するか」こそが戦略立案の中心へと移り変わっている。この授業では、製造業や小売業、サービス業といった企業を対象として、データがどのように活用されているか、また今後どのように活用されるべきかを学ぶ。さらには、データにまつわる基本的な知識や、近年の技術動向についても取り扱う。授業で扱ったテーマ、トピックに関するレポートの提出を複数回求める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：企業とデータとの関わり						
第2回：企業のしくみ						
第3回：企業経営戦略の基礎						
第4回：小売業でのデータ活用（P O S データ）						
第5回：小売業でのデータ活用（顧客データ）						
第6回：マーケティングでのデータ活用（W e b マーケティング）						
第7回：マーケティングでのデータ活用（市場分析、顧客分析）						
第8回：SNSの活用						
第9回：管理業務でのデータ活用						
第10回：製造業のデータ活用（需要予測・生産計画）						
第11回：製造業のデータ活用（センサーデータ）						
第12回：データベースのしくみ						
第13回：クラウドサービスのしくみ						
第14回：オープンデータの活用						
第15回：まとめ：企業におけるデータ活用の未来						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
参考文献・資料などは適宜紹介し、必要に応じて配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
<p>1. 受講態度、授業への参画（20%）</p> <p>2. 課題レポート／発表（30%）</p> <p>3. 最終課題レポート（50%）</p>						

授業科目名：情報科教育法I	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大西 洋、高橋信幸 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 情報科の構造を踏まえて各単元の授業を提案できる 2. 知識・技能だけでなく思考力・判断力・表現力や主体性を涵養する授業を提案できる 3. 身の回りの問題を情報科における問題解決の素材として扱う授業を提案できる						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、高等学校情報科の教員免許状を取得する上で必要な、情報科に関する基礎知識や教科の構造について学ぶ。本授業で扱う主な教科内容は、「情報社会の進展と情報技術」や「情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築」からなる、問題解決の分野である。情報科の内容を多面的な視座で捉えられるよう、ディスカッションを交えながら、情報科で扱う基礎概念の学術的な理解や、他教科や他校種との関連を含む広い視点を習得する。また、探究活動との関係性や授業における情報通信技術の活用を意識しながら、各単元の内容や要点を理解する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：情報教育と情報科の基礎(基礎事項・構造・歴史)・科目の概要（大西） 第2回：情報科の指導における情報通信技術の活用（大西） 第3回：情報科と他教科・他校種の関係（高橋） 第4回：情報科と大学入試・資格制度（大西） 第5回：共通教科「情報」と専門教科「情報」（大西） 第6回：情報教育の基礎概念(1): 情報・表現・内容（大西） 第7回：シラバス/年間計画/学習指導案の構造・指導と評価の一体化（大西） 第8回：情報教育の基礎概念(2): 問題と問題解決（大西） 第9回：「情報社会の問題解決」の指導(1): 「問題を発見・解決する方法」（大西） 第10回：「情報社会の問題解決」の指導(2): 「情報社会における個人の果たす役割と責任」（情報法）（大西） 第11回：「情報社会の問題解決」の指導(3): 「情報社会における個人の果たす役割と責任」（セキュリティ）（大西） 第12回：「情報社会の問題解決」の指導(4): 「情報社会における個人の果たす役割と責任」（情報モラル）（大西） 第13回：「情報社会の進展と情報技術」の指導（「情報技術が果たす役割と望ましい情報社会の構築」を含む）（大西） 第14回：情報教育の基礎概念(3): コミュニケーション（大西） 第15回：情報教育の基礎概念(4): メディア（大西）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『情報科教育法——これから的情報科教育』、2022年、ISBN 978-4407355215、鹿野利春、高橋参吉、西野和典、実教出版（類似の書籍があるので著者名・出版社名に注意）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、2018年、ISBN 978-4827815672、文部科学省、東山書房 ( <a href="https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf</a> )						
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』、2019年、ISBN 978-4304021633、文部科学省、開隆堂 ( <a href="https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf</a> )						
『高等学校情報科「情報I」教員研修用教材』、2020年、文部科学省 ( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html</a> )						
『高等学校情報科「情報II」教員研修用教材』、2020年、文部科学省 ( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00018.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00018.html</a> )						
各自が高校在学中に使用した情報科の教科書を保管していれば、授業に持参するとよい						
<b>学生に対する評価</b>						
1. 授業内での演習課題（30%） 2. レポート（70%）						

授業科目名：情報科教 育法II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大西 洋、高橋 信幸				
			担当形態：オムニバス				
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>							
1. それぞれの問題解決方法の特徴を踏まえて各単元の授業を提案できる 2. 知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や主体性を涵養する授業を提案できる 3. 身の回りの問題を情報科における問題解決の素材として扱う授業を提案できる							
<b>授業の概要</b>							
本授業では、高等学校情報科の教員免許状を取得する上で必要な、情報科に関する基礎知識や教科の構造について学ぶ。本授業で扱う主な教科内容は、情報デザイン・プログラミング・データの活用からなる、個別の問題解決方法である。情報科の内容を多面的な視座で捉えられるよう、ディスカッションを交えながら、情報科で扱う問題解決方法の学術的な理解や、個別の問題解決方法を扱う教育活動を専門的な視点で習得する。また、探究活動との関係性や授業における情報通信技術の活用を意識しながら、各単元の内容や要点を理解する。							
<b>授業計画</b>							
第1回：「情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」の指導(探究指導における情報通信技術の活用を含む)・科目の概要（大西）							
第2回：「コミュニケーションと情報デザイン」の指導(1): 「メディアの特性とコミュニケーション手段」（大西）							
第3回：「コミュニケーションと情報デザイン」の指導(2): 「情報デザイン」（大西）							
第4回：「コミュニケーションと情報デザイン」の指導(3): 「効果的なコミュニケーション」（大西）							
第5回：「コミュニケーションとコンテンツ」の指導（大西）							
第6回：情報教育の基礎概念(5): 論理・モデル（大西）							
第7回：「コンピュータとプログラミング」の指導(1): 「コンピュータの仕組み」（大西）							
第8回：「コンピュータとプログラミング」の指導(2): 「アルゴリズムとプログラミング」（大西）							
第9回：「コンピュータとプログラミング」の指導(3): 「モデル化とシミュレーション」（高橋）							
第10回：「情報システムとプログラミング」の指導(プロジェクト・マネジメントを含む)（大西）							
第11回：情報教育の基礎概念(6): 還元・システム・創発（大西）							
第12回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の指導(1): 「情報通信ネットワークの仕組みと役割」（大西）							
第13回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の指導(2): 「情報システムとデータの管理」（大西）							
第14回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の指導(3): 「データの収集・整理・分析」（大西）							
第15回：「情報とデータサイエンス」の指導（大西）							
<b>定期試験</b>							
<b>テキスト</b>							
『情報科教育法——これからの情報科教育』，2022年，ISBN 978-4407355215，鹿野利春，高橋参吉，西野和典，実教出版（類似の書籍があるので著者名・出版社名に注意）							
<b>参考書・参考資料等</b>							
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』，2018年，ISBN 978-4827815672，文部科学省，東山書房 ( <a href="https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf</a> )							
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』，2019年，ISBN 978-4304021633，文部科学省，開隆堂 ( <a href="https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf</a> )							
『高等学校情報科「情報I」教員研修用教材』，2020年，文部科学省 ( <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html</a> )							
『高等学校情報科「情報II」教員研修用教材』，2020年，文部科学省							

([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_00018.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00018.html))

各自が高校在学中に使用した情報科の教科書を保管していれば、授業に持参するとよい

学生に対する評価

1. 授業内での演習課題（30%）
2. レポート（70%）

授業科目名：情報科 指導法演習Ⅰ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大西 洋、高橋信幸 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 情報科の理論を踏まえた各単元の授業を設計できる</p> <p>2. 教科の構造と単元の目標を踏まえた各単元の授業を適切に実施できる</p> <p>3. 高校生の日常生活・社会生活との連続性を意識した素材を用いた授業を実施できる</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、高等学校情報科の教員免許状を取得する上で必要な、情報学の理論や教科の構造、単元の目標を意識した情報科の授業を行う実践的な能力を獲得する。本授業では特に、教員が日常業務として行う日々の授業を十分な品質で実施できるよう、個々の授業で扱うテーマの検討から、授業内容の振り返りや改善に至る一連の過程を経験する。情報通信技術の活用を含む模擬授業の実施と、模擬授業に関するディスカッションを中心とする活動により、教員としての授業力を身につける。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：情報科における授業準備の手順・科目の概要（大西）						
第2回：「情報社会の問題解決」の模擬授業(1)：テーマの検討・教材研究・理論の整理（大西）						
第3回：「情報社会の問題解決」の模擬授業(2)：教育方法の検討・授業展開の設計（大西）						
第4回：「情報社会の問題解決」の模擬授業(3)：模擬授業の実践と振り返り（大西）						
第5回：「コミュニケーションと情報デザイン」の模擬授業(1)：テーマの検討・教材研究・理論の整理（大西）						
第6回：「コミュニケーションと情報デザイン」の模擬授業(2)：教育方法の検討・授業展開の設計（大西）						
第7回：「コミュニケーションと情報デザイン」の模擬授業(3)：模擬授業の実践と振り返り（大西）						
第8回：学校現場における授業設計（高橋）						
第9回：「コンピューターとプログラミング」の模擬授業(1)：テーマの検討・教材研究・理論の整理（大西）						
第10回：「コンピューターとプログラミング」の模擬授業(2)：教育方法の検討・授業展開の設計（大西）						
第11回：「コンピューターとプログラミング」の模擬授業(3)：模擬授業の実践と振り返り（大西）						
第12回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の模擬授業(1)：テーマの検討・教材研究・理論の整理（大西）						
第13回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の模擬授業(2)：教育方法の検討・授業展開の設計（大西）						
第14回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の模擬授業(3)：模擬授業の実践と振り返り（大西）						

第15回：教育実習に向けた課題の整理（高橋）

定期試験は実施しない。

テキスト

『情報科教育法——これから的情報科教育』，2022年，ISBN 978-4407355215，鹿野利春，高橋参吉，西野和典，実教出版（類似の書籍があるので著者名・出版社名に注意）

参考書・参考資料等

<参考書等>

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』，2018年，ISBN 978-4827815672，文部科学省，東山書房 ([https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_6\\_1\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf))

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』，2019年，ISBN 978-4304021633，文部科学省，開隆堂 ([https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_11\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf))

『高等学校情報科「情報I」教員研修用教材』，2020年，文部科学省  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_00017.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html))

『高等学校情報科「情報II」教員研修用教材』，2020年，文部科学省  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_00018.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00018.html))

各自が高校在学中に使用した情報科の教科書を保管していれば、授業に持参するとよい

学生に対する評価

1. 授業内での模擬授業 (40%)
2. 学習指導案 (40%)
3. 模擬授業に関するディスカッション (20%)

授業科目名：情報科指導法演習Ⅱ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：大西 洋、高橋信幸 担当形態：オムニバス			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1. 情報科の理論を踏まえた各单元の授業を設計できる 2. 教科の構造と单元の目標を踏まえた各单元の授業を適切に実施できる 3. 高校生の日常生活・社会生活との連続性を意識した素材を用いた授業を実施できる						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、高等学校情報科の教員免許状を取得する上で必要な、情報学の理論や教科の構造、単元の目標を意識した情報科の教育研究を行う実践的な能力を獲得する。本授業では特に、教員が行う研究と修養としての教材研究や授業改善について、個々の授業で扱うテーマに対する先行する研究や教育実践の検討から、授業内容をまとめるまでの一連の過程を経験する。情報通信技術の活用を含む模擬授業の実施と、模擬授業に関する実践報告のとりまとめを中心として、教員としての研究力を身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：情報科における教育研究の手順・科目の概要（大西）						
第2回：「情報社会の問題解決」の授業研究(1)：教育実践・先行研究の調査（大西）						
第3回：「情報社会の問題解決」の授業研究(2)：学習指導案の検討と改善・教材準備（大西）						
第4回：「情報社会の問題解決」の授業研究(3)：授業研究の改善・実践報告の作成（大西）						
第5回：「コミュニケーションと情報デザイン」の授業研究(1)：教育実践・先行研究の調査（大西）						
第6回：「コミュニケーションと情報デザイン」の授業研究(2)：学習指導案の検討と改善・教材準備（大西）						
第7回：「コミュニケーションと情報デザイン」の授業研究(3)：授業研究の改善・実践報告の作成（大西）						
第8回：教科担当と校務分掌の両立（高橋）						
第9回：「コンピューターとプログラミング」の授業研究(1)：教育実践・先行研究の調査（大西）						
第10回：「コンピューターとプログラミング」の授業研究(2)：学習指導案の検討と改善・教材準備（大西）						
第11回：「コンピューターとプログラミング」の授業研究(3)：授業研究の改善・実践報告の作成（大西）						
第12回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の授業研究(1)：教育実践・先行研究の調査（大西）						
第13回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の授業研究(2)：学習指導案の検討と改善・教材準備（大西）						
第14回：「情報通信ネットワークとデータの活用」の授業研究(3)：授業研究の改善・実践報告の作成（大西）						
第15回：教員採用試験に向けた課題の整理（高橋）						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
『情報科教育法——これから的情報科教育』，2022年，ISBN 978-4407355215，鹿野利春，高橋参吉，西野和典，実教出版（類似の書籍があるので著者名・出版社名に注意）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<参考書等>						
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』，2018年，ISBN 978-4827815672，文部科学省，東山書房（ <a href="https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf</a> ）						
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 情報編』，2019年，ISBN 978-4304021633，文部科学省，開隆堂（ <a href="https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf">https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf</a> ）						
『高等学校情報科「情報I」教員研修用教材』，2020年，文部科学省（ <a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00017.html</a> ）						

『高等学校情報科「情報II」教員研修用教材』, 2020年, 文部科学省  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/detail/mext\\_00018.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00018.html))  
各自が高校在学中に使用した情報科の教科書を保管していれば、授業に持参するとよい

学生に対する評価

1. 授業内での模擬授業 (40%)
2. 学習指導案 (40%)
3. 実践報告 (20%)

授業科目名：発達心理 学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：湯澤美紀 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
授業を通して、心の発達のメカニズムを多面的に理解していくながら、学生は、自らの成長のプロセスと照らし合わせながらこれまでの人生を振り返るとともに、自らのこれから育ちを見通しつつ、明日への成長に繋がるための実際的な学びができる。						
<b>授業の概要</b>						
生命の誕生から高齢期に至るまでの人間の成長・発達の道筋を、各世代の発達課題をヒントに紐解いていく。まず、乳児の成長・発達の姿を最新の知見から示すとともに人生初期の親との応答的な関わりの重要性を示す。次に、幼児期・児童期の子どもの特徴を言語・社会性・自己意識・遊びの観点から明らかにする。後半、アイデンティティをテーマに、思春期から中年期までの自分探しの旅を追う。最終、英知の観点から高齢期の人々の姿をとらえ、人がより良く生きるために成長の姿を考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：人の発達と育ちについて考える						
第2回：生命の誕生						
第3回：赤ちゃんから見た世界						
第4回：親としての育ち						
第5回：コミュニケーションと人間関係の発達						
第6回：言語と遊びの発達						
第7回：自己の発見						
第8回：仲間の中での育ち						
第9回：発達と教育						
第10回：思春期を生きる						
第11回：職業選択						
第12回：関わりの中で成熟する						
第13回：中年期のアイデンティティ						
第14回：ライフストーリー（人生の振り返り）						
第15回：人の個性をどのように理解し、そして、ともに手と手をとりあうか						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
わらべうたと心理学の出会い（湯澤美紀編著、金子書房）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
教師教育講座 第3巻 子どもの発達と教育（湯澤正通編著、協同出版）						
問い合わせはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学（坂上裕子他著、有斐閣）						
<b>学生に対する評価</b>						
課題レポート 40%、最終レポート課題 60%						

授業科目名：青少年問題	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西隆太朗 担当形態：単独		
科 目	大学が独自に設定する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>					
青少年に関する基本的な文献を読み解く力を身につける。青少年について自分自身の理解を深め、考察をレポート・コメントにまとめることができる。					
<b>授業の概要</b>					
この授業では、これから世界を創っていく新しい世代の人達のことを扱います。教育学・保育学・臨床心理学など、幅広い観点から、人間の成長について理解を深め、とくに新しい世代とかかわる教育者・保育者のあり方を学びます。新しい世代のことを考える上では、その出発点である保育の世界も取り上げます。タイトルには「問題」とありますが、「問題だ！」という悪い意味ではなく、「青少年をテーマにしている」という意味だと思ってください。					
<b>授業計画</b>					
第1回：「青少年問題」—新しい世代と出会うこと					
第2回：ライフサイクル—人生の時季					
第3回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(1)—人間の発達を捉える視点					
第4回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(2)—子ども達とかかわる経験から					
第5回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(3)—青少年とカウンセリング					
第6回：幼児、児童及び生徒の心身の発達(4)—自立とアイデンティティ					
第7回：不登校—「内閉」の意味					
第8回：報道に見る青少年					
第9回：いじめと差別の問題					
第10回：幼児、児童及び生徒の学習の過程(1)—学びとコミュニティ					
第11回：幼児、児童及び生徒の学習の過程(2)—学びの意味とアイデンティティ					
第12回：教師のかかわりと省察の過程					
第13回：かかわりの事例を読み解く					
第14回：人間学的保育学・教育学からみる人間の成長					
第15回：人間の成長を研究するために					
定期試験は実施しない。					
<b>テキスト</b>					
特になし					
<b>参考書・参考資料等</b>					
ユースカルチャーの現在（渡部真著、医学書院）					
子どもの世界をどうみるか（津守眞著、NHK出版）					
少年期の心（中山康裕著、中央公論新社）					
状況に埋め込まれた学習（ジーン・レイヴ&エティエンヌ・ウェンガー著、産業図書）					
をはじめ、青少年を理解するための教育学・保育学・臨床心理学の基礎的文献を授業中に紹介し、ともに読み解いていきます。					
<b>学生に対する評価</b>					
各回のコメント 70%					
期末レポート 30%（必須）単位取得のためには、期末レポートを必ず提出してください。					

授業科目名：教育法規	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡村富広 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>我が国の教育の根拠となっている法規について、基礎的知識を身に付け、教育の社会的、制度的仕組みを理解することができる。</p> <p>教育に関する法的思考の重要性を理解し、教育の在り方について、法規を通して体系的に理解できる。</p> <p>現実の教育上の諸課題について、教育法規的な観点からも考察し、判断できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>我が国の教育行政、学校教育、学校運営、教職員の在り方等のほとんどが教育法規を根拠として成り立っていることを体系的に学び、具体的に条文の内容が実際の学校現場でどのように反映されているかを知ることで教育に関する法規の重要性を理解する。また、演習の時間を設け、意見交換や協議を通して、今日的な教育上の諸課題についての理解を深め、実践的な対応力の養成を図る。</p> <p>さらに、法と社会で起きる問題との関係性について学び、的確に判断・対処できるリーガルマインドを養う。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：オリエンテーション受講上の注意 教育法規を学ぶための基礎知識—</p> <p>第2回：日本国憲法における教育条項</p> <p>第3回：教育基本法Ⅰ—教育の理念及び目的・目標—</p> <p>第4回：教育基本法Ⅱ—教育及び教育行政—</p> <p>第5回：学校のしくみⅠ—学校の設置—</p> <p>第6回：学校のしくみⅡ—学校の管理運営—</p> <p>第7回：教職員Ⅰ—身分及び服務—</p> <p>第8回：教職員Ⅱ—分限と懲戒—</p> <p>第9回：教職員Ⅲ—教職員の研修—</p> <p>第10回：教育課程Ⅰ—教育課程の編成—</p> <p>第11回：教育課程Ⅱ—教科書及び学校教育と著作権—</p> <p>第12回：児童・生徒Ⅰ—就学及び指導要録—</p> <p>第13回：児童・生徒Ⅱ—生徒指導と懲戒—</p> <p>第14回：学校保健・学校安全、試験説明</p> <p>第15回：定期試験</p> <p>第16回：試験解説、その他</p>						
<b>テキスト</b>						
教育小六法 2022年版（勝野正章ほか編集、学陽書房）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
使用しません。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業や課題(基礎問題)への取り組み度 60%、筆記試験 40%						

授業科目名：介護等 体験の理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：山本幾子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>介護等体験の意義を理解し、主体的に体験に臨む姿勢を身に付ける。</p> <p>障害のある児童生徒や社会福祉施設の利用者等の特性を理解し、説明することができる。</p> <p>ノーマライゼーションやインクルージョンの理念に沿って、障害のある児童生徒や高齢者等のニーズに応じた関わり方を考えることができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>特別支援学校や社会福祉施設で行う介護等体験と教師に求められる力量や資質との関係、体験の留意事項について理解することを目的とする。</p> <p>障害等に関する基本的理解を深めるために、特別支援学校や社会福祉施設の現状や課題について考察する。</p> <p>グループワーク、ディスカッション、疑似体験、発表などを通して、体験開始までに解決すべき各自の課題を明確にするとともに、課題解決の具体的方策を様々な視点から検討する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：介護等体験の意義</p> <p>第2回：人権意識を高める</p> <p>第3回：共感的・受容的人間関係</p> <p>第4回：特別支援学校における体験と留意事項</p> <p>第5回：社会福祉施設における体験と留意事項</p> <p>第6回：車いす介助体験、交流活動企画体験</p> <p>第7回：体験報告から学ぶ</p> <p>第8回：筆記試験、まとめ、諸連絡</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版（現代教師養成研究会編、大修館書店）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業時に必要な資料を配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
課題レポート 80%、筆記試験 20%						

授業科目名：介護等 体験の実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：立石麻美子 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>特別支援学校及び社会福祉施設において合計7日間の体験活動をする。</p> <p>体験を通して個人の尊厳及び社会連帯の理念の認識を深め説明することができる。</p> <p>体験で関わる相手に配慮したコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>体験後の成果と課題を明らかにして述べることができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業を通して、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めるとともに、ノーマライゼーションの視点から一人一人のありのままの姿を正しく見るという教職としての基本的な姿勢を身に付けることを目的とする。体験後は、グループディスカッションを通して体験を省察し、自己の成長と課題を明らかにする。</p> <p>特別支援学校及び社会福祉施設において、障害者や高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験を合計7日間行うとともに、必要な事前指導及び事後指導を行う。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：介護等体験の実践に向けて</p> <p>第2回：介護等体験に向けた手続きの確認</p> <p>第3回：特別支援学校での介護等体験に向けた準備</p> <p>第4回：社会福祉施設での介護等体験に向けた準備</p> <p>第5回：介護等体験に向けた健康管理</p> <p>第6回：特別支援学校における介護等体験（2日間）</p> <p>第7回：社会福祉施設における介護等体験（5日間）</p> <p>第8回：介護等体験の省察</p> <p>定期試験は実施しない。</p>						
<b>テキスト</b>						
<p>本学作成『介護等の体験記録』（初回授業時に配付）</p> <p>「介護等体験の理論」で使用したものを継続使用</p> <p>教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版（現代教師養成研究会編、大修館書店）</p>						
<b>授業時に別途資料配付</b>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特になし						
<b>学生に対する評価</b>						
介護等の体験記録 50%、課題レポート 50%						

授業科目名：学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2 単位	担当教員名：赤木雅宣 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>学校図書館全般についての事柄を理解するとともに、学校教育の中で、学校図書館や司書教諭の果たすべき役割について考察する。</p> <p>理想の学校図書館像を描いて、学校図書館運営計画等を作成する。</p> <p>学んだことをポートフォリオ等にまとめ、振り返ることで、学校図書館司書教諭の役割を自覚する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>学校教育における学校図書館の意義や役割、経営のあり方、司書教諭の任務と役割等、学校図書館全般についての基本的な事柄について講義する。そのうえで、「どんな学校図書館を目指すのか」をテーマに、グループワーク等を通して考察し発表し合う。その際、実際に司書教諭や司書に話を聞く機会をつくり、現在の学校図書館の現状を捉えやすくする。最終的には、「学校図書館基本計画」を作成し、それぞれがよりよい学校図書館運営について考えをもつ。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：学校図書館の理念と教育的役割</p> <p>第2回：学校教育の中における学校図書館の重要性</p> <p>第3回：学校図書館の意義と役割（学習）</p> <p>第4回：学校図書館の意義と役割（読書）</p> <p>第5回：学校図書館の意義と役割（情報）</p> <p>第6回：学校図書館の機能性と快適性</p> <p>第7回：学校図書館の成立と制度化</p> <p>第8回：学校図書館を支える人々（司書教諭、司書に聞く）</p> <p>第9回：司書教諭の任務と役割（グループワークと発表）</p> <p>第10回：司書教諭の仕事の実際（小学校）（グループワークと発表）</p> <p>第11回：司書教諭の仕事の実際（中学・高校・特別支援学校）（グループワークと発表）</p> <p>第12回：学校図書館の校外連携（グループワークと発表）</p> <p>第13回：学校図書館の校内連携（グループワークと発表）</p> <p>第14回：学校図書館の実践・評価・改善（「学校図書館基本計画の作成」）</p> <p>第15回：まとめ</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
学校経営と学校図書館 探究 学校図書館学 第1巻（「探求 学校図書館学」編集委員会編著、全国学校図書館協議会）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
毎回授業で資料を配付する予定。						
<b>学生に対する評価</b>						
授業中の取り組み（討論への参加ほか） 30%、小レポート（課題） 30%						
最終レポート 40%						

授業科目名：学習指導 と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊木洋 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等						
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
各教科・領域の学習における学校図書館の機能を理解し、教育活動の様々な場面で学校図書館を効果的に活用するための司書教諭の役割を記述することができる。						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、これから時代に求められる資質・能力の育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が緊要な課題となっている現在の学習指導において、重要な学びの場となる学校図書館の読書センターとしての機能、学習センターとしての機能、情報センターとしての機能を理解し、情報活用能力等の育成を目指して、各教科・領域の学習指導の様々な場面で学校図書館を効果的に活用するための司書教諭としての役割を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：現代の学校教育と学校図書館						
第2回：教育課程の編成と学校図書館						
第3回：学習指導要領と学校図書館						
第4回：学校図書館における情報活用能力の育成						
第5回：情報活用能力等の育成と評価（課題の設定）						
第6回：情報活用能力等の育成と評価（情報の収集）						
第7回：情報活用能力等の育成と評価（整理・分析）						
第8回：情報活用能力等の育成と評価（まとめと表現）						
第9回：情報サービスと学校図書館						
第10回：発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択						
第11回：学習指導を支える学校図書館メディアと環境の整備						
第12回：教科等の学習指導の実際と学校図書館						
第13回：総合的な学習・探究の時間と学校図書館						
第14回：特別な教育的ニーズと学校図書館						
第15回：司書教諭の役割と学習指導と学校図書館						
定期試験は実施しない						
<b>テキスト</b>						
学習指導と学校図書館 探究 学校図書館学 第3巻（「探究 学校図書館学」編集委員会編著、全国学校図書館協議会）						
中学校国語科学習指導の創造 学校図書館と学習者を結んで（伊木洋著、溪水社）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）						
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）						
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）						
学生に対する評価						
授業への主体的な参加姿勢 40%、課題レポート 60%						

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 選択必修（大学独自 高(英) 必修科目（基礎的 中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：植田和也 担当形態：単独			
科 目	大学が独自に設定する科目（高等学校 英語） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、中学校の道徳科に関する教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。      ②中学校における学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導法を理解する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>授業全体を理論編と実践編に分ける。理論編では、道徳教育の変遷や歴史を踏まえて、現代社会と道徳教育に係る問題について概説し、道徳教育の意義や及び道徳教育の本質について講義する。実践編では、中学校や高等学校における学習指導要領に基づいた道徳教育のあり方や道徳科の授業における実践的方法について具体例や模擬授業等の演習を通して考えていく。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：I 理論編：オリエンテーション「道徳とは？倫理とは？」</p> <p>第2回：道徳教育の歴史と展開、現代社会における多様な問題と道徳教育の役割Ⅰ (道徳教育の歴史から道徳教育の役割を考える)</p> <p>第3回：道徳教育の歴史と展開、現代社会における多様な問題と道徳教育の役割Ⅱ (現代社会の問題『情報モラル、いじめ問題等』から道徳教育の役割を考える)</p> <p>第4回：道徳の意義と本質</p> <p>第5回：道徳性の発達理論と道徳教育における子どもの成長</p> <p>第6回：学校における道徳教育及び道徳科の目標と内容</p> <p>第7回：II 実践編：学校における道徳教育の指導計画（高等学校の道徳教育についてもふれる）</p> <p>第8回：道徳科の多様な指導方法と実践事例</p> <p>第9回：道徳科の多様な教材と分析</p> <p>第10回：道徳科の教材と授業設計（グループ演習）</p> <p>第11回：道徳科における授業のねらいと学習指導案</p> <p>第12回：道徳科の学習指導案の作成（グループ演習）</p> <p>第13回：道徳科の学習評価と授業評価、指導と評価の一体化</p> <p>第14回：道徳科における模擬授業（グループ演習）</p> <p>第15回：模擬授業とまとめ、中学校、高等学校における道徳科の授業の実際</p> <p>定期試験は、レポート、模擬授業、教材分析シート並びに指導案作成をもって代える</p>						
<b>テキスト</b>						
<p>『中学校学習指導要領解説 道徳編』（平成29年告示、文部科学省）（事前購入を）</p> <p>「特別の教科道徳～授業力向上への一歩～」（七條正典監修、植田和也他編、美巧社2020）</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業内でその都度紹介をする。加えて授業時に随時提示する。またはプリントを配布する。						
<b>学生に対する評価</b>						
最終レポート（30%）、指導案作成・模擬授業（40%）、小レポート・ワークシート（30%）						

授業科目名： 日本国憲法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：浅沼友恵 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の理念をその原点から正しく把握することができる。</li> <li>・基本的人権や平和主義、国民主権を理解するとともに統治機構とその構造、関係性について理解できる。</li> <li>・憲法の理念を正しく理解したうえで平和や人権を希求することができる。</li> <li>・個人としてあるいは教職に就く人間として憲法を学ぶことは、よりよい社会の実現につながることを理解し、実践できるようになる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>テーマ「平和と人権」。近代憲法と呼ばれるためには、何よりも人権の保障がなければならぬ。また、日本国憲法が世界に誇るのは平和主義である。日本国憲法を学ぶ意義は、自由で公正な社会を築くためには人はみなかげがえのない大切な存在だという人間社会の根本にあるもの学ぶことであり、国民主権の理念が統治機構にどのように反映されているか知ることである。日本国内の憲法改正論、世界を取り巻く環境の変化に対して真の情報を得て自ら考えることが必要となってくる近年、「平和」の構築をはじめとする社会問題を考える基盤となるような最低限度の知識を身につけることを目的とする。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：日本国憲法の沿革 イントロダクション 第2回：日本国憲法の沿革 日本国憲法誕生の背景 第3回：日本国憲法の三大理念と幸福追求権 基本的人権・国民主権 第4回：日本国憲法の三大理念と幸福追求権 人権の始期・憲法の私人間効力 第5回：日本国憲法の三大理念と幸福追求権 幸福追求権・自己決定権 第6回：自由権 思想・信条の自由・信教の自由・目的効果論・表現の自由 第7回：自由権 知る権利・教育の自由・人身の自由 第8回：自由権 経済的自由権・自由権に対する規制論 第9回：法の下の平等 平等権 第10回：社会権と憲法における女性の項目 生存権・憲法における家族 第11回：平和主義（前文・9条の解釈） 第12回：平和主義（自衛隊・PKO） 第13回：日本の統治機構 三権分立・三審制 第14回：日本の統治機構 両議院制・間接民主制 第15回：日本の統治機構 国民投票						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
平和と人権の憲法学（葛生栄二郎他著、法律文化社）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特になし						
<b>学生に対する評価</b>						
毎回の授業を視聴して、レポートを提出していただきます。提出されたレポートの内容と期末テストを合わせて、総合的に理解度を判定します。						
①全体の3分の2以上の出席ならびにその授業の課題レポートの提出（毎回manaba folioからの提出）30% ②期末前の総合課題提出（Google Classroomからの提出）20% ③期末テスト（筆記試験）50%						

授業科目名： 日本国憲法II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：俟野英二 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
憲法の基本原理及び基礎知識を理解し、それらを活用して実社会の中で主体的かつ論理的に主権者として考え、行動することができる。						
<b>授業の概要</b>						
身近な憲法問題からそれに関する憲法の基本原理及び基礎知識を学ぶ。さらに、その基本原理等に関する現代的な社会問題についてグループで取り組み、各回のテーマごとに全体で討議する。グループワーク・全体討議及び自ら調査した情報を基に学生各自がレポートを作成する。これ等の活動により、身近な問題を憲法やルールを使って問題の全体像の把握、多面的な分析及び体系的論理的な思考による自らの意見の形成の仕方を修得する。また、異なる価値観に基づく意見を尊重する態度及び価値観の多様化した社会における議論の仕方を修得する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、憲法とは何か						
第2回：グループワーク（1）（課題選択、課題分析、リサーチ）						
第3回：グループワーク（2）（情報整理、報告書作成）						
第4回：国家としての天皇制						
第5回：平和主義（1）（非武装平和主義採用の背景とその後）						
第6回：平和主義（2）（近年の安全保障をめぐる状況）						
統治機構（1）（政治と国民、国会議員）						
第7回：統治機構（2）（選挙、選挙制度、政党、国会、内閣）						
第8回：統治機構（3）（地方自治、裁判所）						
第9回：良心をもつ自由、貫く権利						
第10回：表現の自由と書かれない権利、知る権利とマス・メディアの自由						
第11回：営業の自由と消費者の権利						
第12回：働く人の権利						
第13回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮						
第14回：家庭と女性の権利						
第15回：子どもの権利と学校における生徒の人権						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
憲法のちから——身近な問題から憲法の役割を考える（中富公一編著、法律文化社）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
基本判例1 憲法（第4版）（右崎正博・浦田一郎編、法学書院）						
授業の中で、法律情報の調査方法を説明する。						
<b>学生に対する評価</b>						
各章ごとの小テスト（13回）30%、グループワーク15%、中間レポート15%、定期試験 40%						

授業科目名： 心と体の健康論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安江美保、日下 紀子、小林謙一 担当形態：オムニバス			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神的、身体的、社会的側面から「心と体の健康」についての知識を身につけ、自身が求めたい姿を考察することができる。</li> <li>・考察したことを元に現在の自分の生活を振り返り、生活の質を高めるための自己の課題と解決のための方法を適切に捉えることができる。</li> <li>・自己の課題解決のために取り組んできたことを振り返り、その成果と課題をまとめることにより、自身の心と体の健康のために大切なことを実践的に理解することができる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>生きていくことそのものが身体活動であった時代に比べて、私たちが生きる現代社会は、運動不足や栄養過多、睡眠不足、人間関係の希薄化、ストレス増大などの様々な原因により、生活習慣病や心の病に罹りやすい社会である。体を動かし、栄養バランスを考えた食事を整え、質の良い睡眠をとるなど、身体的にアクティブで健康的なライフスタイルを確立していくことは、充実した豊かな人生を送るうえでの最重要課題である。こうした考えに立ち、精神的、身体的、社会的側面から健康について考察するとともに、自己の生活を見直し、具体的な課題を捉え、その解決に向けて実践的な理解を図る。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション（安江 美保）						
第2回：健康のとらえ方（安江 美保）						
第3回：健康な生活（1）運動（安江 美保）						
第4回：健康な生活（2）食事（小林 謙一）						
第5回：健康な生活（3）休養・睡眠（特別講義）						
第6回：女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルス～月経・妊娠出産・更年期と病気～（特別講義）						
第7回：生涯を通じた女性の健康を考える～こころとからだ、そして性の健康～（特別講義）						
第8回：メンタルヘルス（1）評価してみよう、心の健康と性格（日下 紀子）						
第9回：メンタルヘルス（2）心が病むとき（日下 紀子）						
第10回：感染症の予防と対策（安江 美保）						
第11回：飲酒・喫煙の害（安江 美保）						
第12回：薬物乱用の害（安江 美保）						
第13回：貧血と健康（安江 美保）						
第14回：ワークライフバランスと健康（安江 美保）						
第15回：免疫機能と健康 まとめ（安江 美保）						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
使用しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
講義の中で参考文献等を紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
毎回の講義における「自分のことに引き寄せて考えたこと」の小レポート 70%						
自身の取り組みの成果と課題についての最終レポート 30%						

授業科目名： 体育実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：安江美保 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全に楽しく運動を実践する行い方を知り、積極的に運動を楽しむことができる。</li> <li>・ 体力テストの結果や運動実践を通して、「今の自分の体力の課題」を捉えて解決方法を探り、解決していこうと試みることができる。</li> <li>・ 「授業で学んだことや身に付いた力」について振り返り、まとめることができる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>生涯に渡って運動や身体活動に親しみ、明るく豊かな生活を送ることのできる実践力を身に付けることに向けて、本授業は「ニュースポーツ編」として誰もが取り組み易い内容の実技を行う。具体的には、ワンバウンドふらば～るバレーボール、ドッジビー、キンボールなどを取り上げる。そして、体を動かす心地よさや楽しさを実感し、自身の体力や身体諸機能の向上をはかりながら、仲間と共に運動を楽しむ楽しみ方を学び、生活の中での実践につなげていくことができるようとする。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション（講義のねらいと進め方）、簡単なレクリエーション						
第2回：体力を取り戻そう（簡単な運動遊び、いろいろな鬼遊びなど）						
第3回：自分の体力を知ろう（筋力、柔軟性、持久力など）						
第4回：ラダーゲッター（ルールの理解と試しのゲーム）						
第5回：ラダーゲッター（投げ方を工夫して）						
第6回：ラダーゲッター（対抗戦を楽しもう）						
第7回：ふらばーるバレーボール（ルールの理解と試しのゲーム）						
第8回：ふらばーるバレーボール・リーグ戦（ラリーをつないで）						
第9回：ふらばーるバレーボール・リーグ戦（作戦を工夫して）						
第10回：ドッジビー（ルールの理解と試しのゲーム）						
第11回：ドッジビー（パス回しを工夫して）						
第12回：ドッジビー（ルールを工夫して）						
第13回：キンボール（ルールの理解と試しのゲーム）						
第14回：キンボール（対抗戦を楽しもう）						
第15回：キンボール（作戦を工夫して）						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						
使用しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
健康運動指導のための健康管理概論（中村榮太郎編著、杏林書院）						
健康・スポーツ科学の基礎（出村慎一監修、島田茂・池本幸雄編著、杏林書院）						
運動と健康（臼井永男著、放送大学教育振興会）						
<b>学生に対する評価</b>						
毎回の授業後に提出する「授業での取り組みを振り返って」 70%						
「授業の中で学んだことや身に付いた力について」をまとめた最終レポート 30%						

授業科目名： 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：間野和美 担当形態：単独		
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目			
施工規則に定める 科目区分又は事項等		・体育			
授業のテーマ及び到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に楽しく運動を実践する行い方を知り、積極的に運動を楽しむことができる。</li> <li>・体力テストの結果と運動実践を通して、「今の自分の体力の課題」を捉えて解決方法を探り、解決していくことと試みることができる。</li> <li>・「授業で学んだことや身につけた力」についてまとめることができる。</li> </ul>					
授業の概要					
<p>生涯に渡って運動や身体活動に親しみ、明るく豊かな生活を送ることのできる実践力を身に付けることに向けて、本授業は「美容と健康編」として自身の身体のより良い美容と健康を求めていける内容の実技を行う。具体的には、ヨガ、易しいエアロビクス、ティラピスなどを取り上げる。そして、ゆったりとした音楽の中で体を動かしたり、リズミカルな音楽に合わせて易しい動きで律動的に動いたり、必要なところに筋力をつけたりしていくことを通して、より良い美容と健康の向上の仕方を学び、生活の中での実践につなげていくことができるようとする。</p>					
授業計画					
第1回：オリエンテーション（講義の狙いと進め方）、セルフマッサージ					
第2回：自分の体力を知ろう（筋力、柔軟性、持久力など）					
第3回：ストレッチ、リズム遊び、簡単エアロビクス入門編、ピラティス (簡単なルーティンと呼吸法など)					
第4回：ストレッチ、リズム遊び、簡単エアロビクス入門編、ピラティス (ルーティンの応用と簡単な筋力トレーニング)					
第5回：ストレッチ、リズム遊び、簡単エアロビクス入門編、ピラティス (ルーティンの応用と簡単な筋力トレーニングの反復でエクササイズを習得する)					
第6回：ストレッチ、リズム遊び、簡単エアロビクス入門編、ピラティス (ルーティンの複雑化と簡単な筋力トレーニングでエクササイズを楽しもう)					
第7回：ストレッチ、簡単エアロビクス初級編、ピラティス (新たなルーティンと簡単な筋力トレーニング)					
第8回：ストレッチ、簡単エアロビクス初級編、ピラティス (新たなルーティンの応用と簡単な筋肉とトレーニング)					
第9回：ストレッチ、簡単エアロビクス初級編、ピラティス (ルーティンの応用と簡単な筋力トレーニングの反復でエクササイズを習得する)					
第10回：ストレッチ、簡単エアロビクス初級編、ピラティス (新たなルーティンの複雑化と簡単な筋力トレーニングでエクササイズを楽しもう)					
第11回：ストレッチ、ヨガ、リズムダンス、ピラティス (ヨガの基本的なポーズの体験、簡単な振付①で踊ろう)					
第12回：ストレッチ、ヨガ、リズムダンス、ピラティス (ヨガの基本的なポーズや連続した動き（初級）の体験、簡単な振付②で踊ろう)					
第13回：ストレッチ、ヨガ、リズムダンス、ピラティス (ヨガの基本的なポーズや連続した動き（初級）の練習、簡単な振付③で踊ろう)					
第14回：ストレッチ、ヨガ、リズムダンス、ピラティス (ヨガの基本的なポーズや連続した動き（中級）の練習、簡単な振付④で踊ろう)					
第15回：ストレッチ、今の体力を知って成果を確かめよう（筋力、柔軟性、持久力など） 定期試験は実施しない。					
テキスト					
使用しない					
参考書・参考資料等 講義の中で適宜紹介する。					
学生に対する評価					
毎回の授業後に提出する「授業での取り組みを振り返って」 70%					
「授業の中で学んだことや身に付いた力について」をまとめた最終レポート 30%					

授業科目名： 体育実技III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：枝松三佳 担当形態：単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テニス及びバドミントンの特性に触れるために必要な基本的な知識や技能を、身に付けることができる。</li> <li>・自分たちの能力に適したルールや作戦を工夫したり、互いに教えあい技能を高めあいながら仲間とスポーツを楽しむことができる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>生涯に渡って運動や身体活動に親しみ、明るく豊かな生活を送ることのできる実践力を身に付けることに向けて、本授業は「チャレンジ・スポーツ編」として様々なスポーツを楽しむ内容の実技を行う。具体的には、硬式テニス、バレー、バドミントン、卓球などを取り上げる。そして、仲間とともに基本的な知識や技能を習得し向上させることと、自分たちに合ったルールを工夫し一緒にプレイすることを通して、スポーツの楽しさや楽しみ方を学び、生活の中での実践につなげていくことができるようとする。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：硬式テニス（ラケット・ボールに慣れる、フォアハンド・バックハンド）						
第3回：硬式テニス（フォアハンド・バックハンド・サーブ・ペア練習）						
第4回：硬式テニス（ペア練習）						
第5回：硬式テニス（ダブルス：ルール説明・ゲーム①）						
第6回：硬式テニス（フォアハンド中心とした基本練習、ダブルスゲーム②）						
第7回：硬式テニス（バックハンド中心の基本練習、ダブルスゲーム③）						
第8回：硬式テニス（ボレー・スマッシュ中心の基本練習、ダブルスゲーム④）						
第9回：硬式テニス（サーブ中心の基本練習、ダブルスゲーム⑤）まとめ						
第10回：バドミントン（打ち方：フォアハンド・バックハンド）						
第11回：バドミントン（サーブ・スマッシュ・シングルスルール説明）						
第12回：バドミントン（サーブ中心の基本練習、シングルスゲーム①）						
第13回：バドミントン（スマッシュ中心の基本練習、シングルスゲーム②）						
第14回：バドミントン（ダブルスルール説明：ゲーム①）						
第15回：バドミントン（ネット際プレー中心の基本練習、ダブルスゲーム②）						
第16回：バドミントン（ポジショニングについての確認、ダブルスゲーム③）まとめ 各種目の最後に実技テストを行う。						
<b>テキスト</b>						
使用しない						
<b>参考書・参考資料等</b>						
講義の中で適宜紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
毎回の授業後に小レポート提出（授業での取り組みを振り返って） 40%						
授業態度（実技の様子、準備・片付け・仲間との協力など） 40%						
種目ごとの実技テスト 20%						

授業科目名：英語 IA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： J.Williams, C. Creighton,S,Shrader, R.Hawkins			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>学生は、シラバスのトピックに基づいてタスクベースの個人、ペア、グループ活動やプレゼンテーションを通して、効果的にコミュニケーションをとることができるようになる。</p> <p>学生は、シラバスのトピックに関する質問を作って、それに答えることができるようになる。</p> <p>学生は、特定の語彙、表現、コミュニケーションストラテジーを会話でのやりとりに活用することができるようになる。</p> <p>学生は、シラバスのトピックに関連する特定の語彙や表現の理解を示すことができるようになる。</p> <p>学生は、様々な形態の話し言葉や、様々なジャンルの書き言葉から、必要な情報を認識することができるようになる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>このコースは、様々なトピックにおいて学生の英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。このコースでは、語彙、表現、コミュニケーションスキルに焦点を当てたタスクベースの活動を通して、学生のスピーチング、リスニング、リーディング、ライティングを伸ばすことで達成される。学生は、クラス内外で個人、ペア、小グループでアクティビティに取り組み、定期的な課題をこなす。授業での学習を補強・補完するために、多読にも取り組む。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：コース紹介・多読オリエンテーション・オンラインオリエンテーション						
第2回：ユニット 1・自分について・インプットタスク：セクション A						
第3回：ユニット 1・自分について・アウトプットタスク：セクション B & C						
第4回：ユニット 2・他人について・インプットタスク：セクション A						
第5回：ユニット 2・他人について・アウトプットタスク：セクション B & C						
第6回：ユニット 3・自分の能力について・インプットタスク：セクション A						
第7回：ユニット 3・自分の能力について・アウトプットタスク：セクション B & C						
第8回：ユニット 1～3 の復習						
第9回：ユニット 4・自分のルーティンについて・インプットタスク：セクション A						
第10回：ユニット 4・自分のルーティンについて・アウトプットタスク：セクション B & C						
第11回：ユニット 5・簡単なストーリー・テリング・インプットタスク：セクション A						
第12回：ユニット 5・簡単なストーリー・テリング・アウトプットタスク：セクション B & C						
第13回：ユニット 6・物事を説明と比較・インプットタスク：セクション A						
第14回：ユニット 6・物事を説明と比較・アウトプットタスク：セクション B & C						
第15回：ユニット 4～6 の復習						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
On Task 1 (Justin Harris他著、ABAX)						
参考書・参考資料等						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への積極的な参加貢献 20%、課題の準備と宿題 20%、多読 30%、期末試験 30%						

授業科目名：英語 I B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 調子和紀，高橋昌子，伊藤豊 美，今井真樹子，中田昌子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標	<p>英語の音声・語彙・表現・文法・言語の働きなどを理解するとともに、それらの知識を活用することができる。</p> <p>英語で情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。</p> <p>自分の考えを形成し整理することができる。</p>		
授業の概要	<p>4技能を総合的に育成するための活動を通して、CEFR A2-B1【NDSU Can-do リスト A2.2.2-B1.1.2】レベルを到達目標とする。TOEICの出題形式に慣れ、各自が設定する目標スコアを達成するための問題演習を必要に応じて解説を加えながら行う。また、コミュニケーションの基礎をなす文法事項を理解するとともに、さまざまなテキストタイプの英文を扱いながら言語活動を通して思考力を育成する。なお、TOEICや英検等は英語力を測定するための外部指標として位置づけ、TOEICスコア（500～550）・英検（2級）を目安とする。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Unit 1 Entertainment -Listening （エンターテインメント -リスニング）</p> <p>第3回：Unit 1 Entertainment -Reading （エンターテインメント -リーディング）</p> <p>第4回：Unit 2 Personnel -Listening （人事 -リスニング）</p> <p>第5回：Unit 2 Personnel -Reading （人事 -リーディング）</p> <p>第6回：Unit 3 Office Work &amp; Supplies -Listening （事務職と事務用品 -リスニング）</p> <p>第7回：Unit 3 Office Work &amp; Supplies -Reading （事務職と事務用品 -リーディング）</p> <p>第8回：Unit 4 Office Messages -Listening （オフィスマール -リスニング）</p> <p>第9回：Unit 4 Office Messages -Reading （オフィスマール -リーディング）</p> <p>第10回：Unit 5 Eating Out -Listening （外食 -リスニング）</p> <p>第11回：Unit 5 Eating Out -Reading （外食 -リーディング）</p> <p>第12回：Unit 6 Technology -Listening （テクノロジー -リスニング）</p> <p>第13回：Unit 6 Technology -Reading （テクノロジー -リーディング）</p> <p>第14回：Unit 7 Research and Merchandise Development -Listening （研究と商品開発 -リスニング）</p> <p>第15回：Unit 7 Research and Merchandise Development -Reading （研究と商品開発 -リーディング）</p>		
定期試験			
テキスト	SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-, 2018年, ISBN978-4-791-93421-8, 塚野壽一 / 山本厚子 / 大須賀直子 / Robert Van Benthuyzen, 成美堂		
参考書・参考資料等	※授業で使用する教材およびeラーニングの教材については、第1回目の授業（オリエンテーション）で指示する。		
学生に対する評価	言語活動への主体的な取組 10%、eラーニングへの取組 20%、小テスト, Google Formsによる課題の提出 20%、定期テスト 50%		

授業科目名：英語ⅡA	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： J.Williams, C.Creighton,S.Shrader, R.Hawkins 担当形態：クラス分け・単独			
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>学生は、シラバスのトピックに基づいてタスクベースの個人、ペア、グループ活動やプレゼンテーションを通して、効果的にコミュニケーションをとることができるようになる。</p> <p>学生は、シラバスのトピックに関する質問を作つて、それに答えることができるようになる。</p> <p>学生は、特定の語彙、表現、コミュニケーションストラテジーを会話でのやりとりに活用することができるようになる。</p> <p>学生は、シラバスのトピックに関連する特定の語彙や表現の理解を示すことができるようになる。</p> <p>学生は、様々な形態の話し言葉や、様々なジャンルの書き言葉から、必要な情報を認識することができるようになる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>このコースは、様々なトピックにおいて学生の英語コミュニケーション能力を養うことを目的としている。このコースでは、語彙、表現、コミュニケーションスキルに焦点を当てたタスクベースの活動を通して、学生のスピーチング、リスニング、リーディング、ライティングを伸ばすことで達成される。学生は、クラス内外で個人、ペア、小グループでアクティビティに取り組み、定期的な課題をこなす。授業での学習を補強・補完するために、多読にも取り組む。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：前期の復習・後期のオンラインオリエンテーション</p> <p>第2回：ユニット 7- 食べ物について・インプットタスク：セクション A</p> <p>第3回：ユニット 7- 食べ物について・ウトプットタスク：セクション B &amp; C</p> <p>第4回：ユニット 8- 人の外見について・インプットタスク：セクション A</p> <p>第5回：ユニット 8- 人の外見について・ウトプットタスク：セクション B &amp; C</p> <p>第6回：ユニット 9- 自分の趣味について・インプットタスク：セクション A</p> <p>第7回：ユニット 9- 自分の趣味について・ウトプットタスク：セクション B &amp; C</p> <p>第8回：ユニット 6~9 の復習</p> <p>第9回：ユニット 10- おすすめのアクティビティズについて・インプットタスク：セクション A</p> <p>第10回：ユニット 10- おすすめのアクティビティズについて・ウトプットタスク：セクション B &amp; C</p> <p>第11回：ユニット 11- 仕事について・インプットタスク：セクション A</p> <p>第12回：ユニット 11- 仕事について・ウトプットタスク：セクション B &amp; C</p> <p>第13回：ユニット 12- 自分の未来の計画について・インプットタスク：セクション A</p> <p>第14回：ユニット 12- 自分の未来の計画について・ウトプットタスク：セクション B &amp; C</p> <p>第15回：ユニット 10~12 の復習</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
On Task 1 (Justin Harris他著、ABAX)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への積極的な参加貢献 20%、課題の準備と宿題 20%、多読 30%、期末試験 30%						

授業科目名：英語ⅡB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 調子和紀，高橋昌子，伊藤豊 美，今井真樹子，中田昌子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標	<p>英語の音声・語彙・表現・文法・言語の働きなどを理解するとともに、それらの知識を活用することができる。</p> <p>英語で情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。</p> <p>自分の考えを形成し整理することができる。</p>		
授業の概要	<p>4技能を総合的に育成するための活動を通して、CEFR A2-B1【NDSU Can-do リスト A2.2.2-B1.1.2】レベルを到達目標とする。TOEICの出題形式に慣れ、各自が設定する目標スコアを達成するための問題演習を必要に応じて解説を加えながら行う。また、コミュニケーションの基礎をなす文法事項を理解するとともに、さまざまなテキストタイプの英文を扱いながら言語活動を通して思考力を育成する。なお、TOEICや英検等は英語力を測定するための外部指標として位置づけ、TOEICスコア（500～550）・英検（2級）を目安とする。</p>		
授業計画	<p>第1回：Unit 8 Finance and Budgets -Listening （金融と予算 -リスニング）</p> <p>第2回：Unit 8 Finance and Budgets -Reading （金融と予算 -リーディング）</p> <p>第3回：Unit 9 Purchases -Listening （購買 -リスニング）</p> <p>第4回：Unit 9 Purchases -Reading （購買 -リーディング）</p> <p>第5回：Unit 10 Manufacturing -Listening （製造 -リスニング）</p> <p>第6回：Unit 10 Manufacturing -Reading （製造 -リーディング）</p> <p>第7回：Unit 11 Marketing &amp; Sales -Listening （マーケティングと販売 -リスニング）</p> <p>第8回：Unit 11 Marketing &amp; Sales -Reading （マーケティングと販売 -リーディング）</p> <p>第9回：Unit 12 Travel -Listening （旅行 -リスニング）</p> <p>第10回：Unit 12 Travel -Reading （旅行 -リーディング）</p> <p>第11回：Unit 13 Contracts &amp; Negotiations -Listening （契約と交渉 -リスニング）</p> <p>第12回：Unit 13 Contracts &amp; Negotiations -Reading （契約と交渉 -リーディング）</p> <p>第13回：Unit 14 Housing &amp; Properties -Listening （住宅と不動産 -リスニング）</p> <p>第14回：Unit 14 Housing &amp; Properties -Reading （住宅と不動産 -リーディング）</p> <p>第15回：Unit 15 Health （健康）</p>		
定期試験			
テキスト	SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-, 2018年, ISBN978-4-791-93421-8, 塚野壽一 / 山本厚子 / 大須賀直子 / Robert Van Benthuyzen, 成美堂		
参考書・参考資料等	<p>※教科書およびeラーニング教材については、1期で購入済みの者は改めて購入する必要はない。</p> <p>ただし、2期のみを再履修する者については、eラーニング教材を購入する必要があるので、別途指示をする。</p>		
学生に対する評価	言語活動への主体的な取組 10%、eラーニングへの取組 20%、小テスト, Google Formsによる課題の提出 20%、定期テスト 50%		

授業科目名： 英語III A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： J.Williams, C.Creighton,S.Shrader, R.Hawkins			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>学生は、シラバスのトピックについて、ペアワークやグループワークを通じて効果的にコミュニケーションをとることができるようになる</p> <p>学生は、会話でのやり取りで特定の表現や語彙を活用することができるようになる。</p> <p>学生は、文章資料で内容の理解度を示すことができるようになる。</p> <p>学生は、職業上の様々な場面で、適切な言葉、表現、語彙を選択できるようになる。</p> <p>学生は、シラバスのトピックに関連する語彙、文法、考え方を理解し、必要な情報を様々なジャンルの文章で報告できるようになる。</p>						
授業の概要						
<p>本コースは、学生の専攻科目や将来のキャリア、職場環境に関連したトピックや状況において、学生の英語コミュニケーション能力を向上させることを目的としている。本コースは、文法、語彙、コミュニケーション戦略に焦点を当て、学生のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの能力を開発することによって達成される。学生はクラス内外で個人、ペア、小グループでアクティビティに取り組み、定期的な課題をこなす。授業での学習を補強・補完するため、多読にも取り組む。</p>						
授業計画						
<p>第1回：ユニット 1: IT業界：自己紹介、個人的な質問、仕事の内容</p> <p>第2回：ユニット 1: IT業界：ワークルーチンやスケジュールを説明する</p> <p>第3回：ユニット 1: IT業界：ITの略語と専門用語の説明</p> <p>第4回：ユニット 2: コンピュータ・ハードウェアを説明する</p> <p>第5回：ユニット 2: コンピュータ・ソフトウェアを説明する</p> <p>第6回：ユニット 2: コンピュータを利用する・コンピュータの作業を説明する</p> <p>第7回：ユニット 2: コンピュータの利用方法・ルールや規則を説明する</p> <p>第8回：ユニット 3: ウェブサイトの目的・目標を説明する</p> <p>第9回：ユニット 3: ウェブサイト分析・解析ツール・大きな数字</p> <p>第10回：ユニット 3ウェブサイト制作・工程の説明</p> <p>第11回：ユニット 3: ウェブサイトプロモーション・詳細の説明</p> <p>第12回：ユニット 4: データベース製品・支援を請求する</p> <p>第13回：ユニット 4: データ処理の手順を説明する・理解度チェック問題</p> <p>第14回：ユニット 4: データの保存とバックアップのソリューション・アドバイスを請求・提供する</p> <p>第15回：ユニット 4: データベースシステムのメリットを説明する・社内の部署・長所と短所を説明する</p>						
定期試験						
テキスト						
English for Information Technology 1 (Maja Olejczak, Pearson Longman)						
参考書・参考資料等						
なし						
学生に対する評価						
授業への積極的な参加貢献 20%、課題の準備と宿題 20%、多読 30%、期末試験 30%						

授業科目名：英語III B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 調子和紀，高橋昌子，伊藤豊 美，今井真樹子，中田昌子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標	<p>英語の音声・語彙・表現・文法・言語の働きなどを理解するとともに、それらの知識を活用することができる。</p> <p>英語で情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。</p> <p>自分の考えを形成し整理することができる。</p>		
授業の概要	<p>4技能を総合的に育成するための活動を通して、CEFR B1【NDSU Can-doリスト B1.2.2-B2.1.2】レベルを到達目標とする。TOEICの出題形式に慣れ、各自が設定する目標スコアを達成するための問題演習を必要に応じて解説を加えながら行う。また、コミュニケーションの基礎をなす文法事項を理解するとともに、さまざまなテキストタイプの英文を扱いながら言語活動を通して思考力を育成する。なお、TOEICや英検等は英語力を測定するための外部指標として位置づけ、TOEICスコア（600）・英検（2級～準1級）を目安とする。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：Unit 1 Arts &amp; Amusement -Listening （芸術と娯楽 -リスニング）</p> <p>第3回：Unit 1 Arts &amp; Amusement -Reading （芸術と娯楽 -リーディング）</p> <p>第4回：Unit 2 Lunch &amp; Parties -Listening （ランチとパーティー -リスニング）</p> <p>第5回：Unit 2 Lunch &amp; Parties -Reading （ランチとパーティー -リーディング）</p> <p>第6回：Unit 3 Medicine &amp; Health -Listening （医学と健康 -リスニング）</p> <p>第7回：Unit 3 Medicine &amp; Health -Reading （医学と健康 -リーディング）</p> <p>第8回：Unit 4 Traffic &amp; Travel -Listening （交通と旅行 -リスニング）</p> <p>第9回：Unit 4 Traffic &amp; Travel -Reading （交通と旅行 -リーディング）</p> <p>第10回：Unit 5 Ordering &amp; Shipping -Listening （注文と配送 -リスニング）</p> <p>第11回：Unit 5 Ordering &amp; Shipping -Reading （注文と配送 -リーディング）</p> <p>第12回：Unit 6 Factories &amp; Production -Listening （工場と生産 -リスニング）</p> <p>第13回：Unit 6 Factories &amp; Production -Reading （工場と生産 -リーディング）</p> <p>第14回：Unit 7 Research &amp; Development -Listening （研究と開発 -リスニング）</p> <p>第15回：Unit 7 Research &amp; Development -Reading （研究と開発 -リーディング）</p>		
定期試験			
テキスト	<p>ESSENTIAL APPROACH FOR THE TOEIC L&amp;R TEST -Revised Edition-, 2019年, ISBN978-4-791-97189-3, 大須賀直子 / 塚野壽一 / 山本厚子 / Robert Van Benthuyzen, 成 美堂</p>		
参考書・参考資料等	<p>※授業で使用する教材およびeラーニングの教材については、第1回目の授業（オリエンテーシ ョン）で指示する。</p>		
学生に対する評価	<p>言語活動への主体的な取組 10%、eラーニングへの取組 20%、小テスト, Google Formsに よる課題の提出 20%、定期テスト 50%</p>		

授業科目名： 英語IVA	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： J.Williams, C.Creighton,S.Shrader, R.Hawkins			
担当形態：クラス分け・単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
学生は、シラバスのトピックについて、ペアワークやグループワークを通じて効果的にコミュニケーションをとることができるようになる						
学生は、会話でのやり取りで特定の表現や語彙を活用することができるようになる。						
学生は、文章資料で内容の理解度を示すことができるようになる。						
学生は、職業上の様々な場面で、適切な言葉、表現、語彙を選択できるようになる。						
学生は、シラバスのトピックに関連する語彙、文法、考え方を理解し、必要な情報を様々なジャンルの文章で報告できるようになる。						
<b>授業の概要</b>						
本コースは、学生の専攻科目や将来のキャリア、職場環境に関連したトピックや状況において、学生の英語コミュニケーション能力を向上させることを目的としている。本コースは、文法、語彙、コミュニケーション戦略に焦点を当て、学生のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの能力を開発することによって達成される。学生はクラス内外で個人、ペア、小グループでアクティビティに取り組み、定期的な課題をこなす。授業での学習を補強・補完するため、多読にも取り組む。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ユニット 5: e-コマース企業の種類を説明する						
第2回：ユニット 5: e-コマースウェブサイトの特徴を説明する						
第3回：ユニット 5: オンライン取引のプロセス・セキュリティを説明する						
第4回：ユニット 6: ネットワークシステムの解説と説明						
第5回：ユニット 6: ネットワークハードウェアの問題と理由を説明する						
第6回：ユニット 6: ネットワーキングサイト・ネットワーキング・スケジュールの計画を立てる						
第7回：ユニット 6: ネットワーク機能・ネットワーク範囲とスピードを説明する						
第8回：ユニット 7: 故障診断の解説を説明する						
第9回：ユニット 7: ソフトウェア修復・サービスレポートを書く・対処方法を説明する						
第10回：ユニット 7: ハードウェア修復・ツールキットの用語・修復手順を説明する						
第11回：ユニット 7: カスタマーサービス問題を解決する						
第12回：ユニット 8: セキュリティシステム・セキュリティ上の威嚇と対処方法を説明する						
第13回：ユニット 8: ワークステーションの安全と衛生・安全な職場環境の確認、職場のルールの説明する						
第14回：ユニット 8: セキュリティの手順・ネットワークとシステムセキュリティを説明する						
第15回：ユニット 8: Incidents・セキュリティ関連のインシデントを報告・説明する						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
English for Information Technology 1 (Maja Olejiczak, Pearson Longman)						
<b>参考書・参考資料等</b>						
なし						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への積極的な参加貢献 20%、課題の準備と宿題 20%、多読 30%、期末試験 30%						

授業科目名：英語IVB	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 調子和紀，高橋昌子，伊藤豊 美，今井真樹子，中田昌子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標	<p>英語の音声・語彙・表現・文法・言語の働きなどを理解するとともに、それらの知識を活用することができる。</p> <p>英語で情報や考えなどを表現し伝え合うことができる。</p> <p>自分の考えを形成し整理することができる。</p>		
授業の概要	<p>4技能を総合的に育成するための活動を通して、CEFR B1【NDSU Can-doリスト B1.2.2-B2.1.2】レベルを到達目標とする。TOEICの出題形式に慣れ、各自が設定する目標スコアを達成するための問題演習を必要に応じて解説を加えながら行う。また、コミュニケーションの基礎をなす文法事項を理解するとともに、さまざまなテキストタイプの英文を扱いながら言語活動を通して思考力を育成する。なお、TOEICや英検等は英語力を測定するための外部指標として位置づけ、TOEICスコア（600）・英検（2級～準1級）を目安とする。</p>		
授業計画	<p>第1回：Unit 8 Computers &amp; Technology -Listening（コンピューターとテクノロジー -リスニング）</p> <p>第2回：Unit 8 Computers &amp; Technology -Reading（コンピューターとテクノロジー -リーディング）</p> <p>第3回：Unit 9 Employment &amp; Promotions -Listening（雇用と昇進 -リスニング）</p> <p>第4回：Unit 9 Employment &amp; Promotions -Reading（雇用と昇進 -リーディング）</p> <p>第5回：Unit 10 Advertisements &amp; Personnel -Listening（広告と人事 -リスニング）</p> <p>第6回：Unit 10 Advertisements &amp; Personnel -Reading（広告と人事 -リーディング）</p> <p>第7回：Unit 11 Telephone &amp; Messages -Listening（電話とメッセージ -リスニング）</p> <p>第8回：Unit 11 Telephone &amp; Messages -Reading（電話とメッセージ -リーディング）</p> <p>第9回：Unit 12 Banking &amp; Finance -Listening（銀行と金融 -リスニング）</p> <p>第10回：Unit 12 Banking &amp; Finance -Reading（銀行と金融 -リーディング）</p> <p>第11回：Unit 13 Office Work &amp; Equipment -Listening（事務職と事務機器 -リスニング）</p> <p>第12回：Unit 13 Office Work &amp; Equipment -Reading（事務職と事務機器 -リーディング）</p> <p>第13回：Unit 14 Housing &amp; Properties -Listening（住宅と不動産 -リスニング）</p> <p>第14回：Unit 14 Housing &amp; Properties -Reading（住宅と不動産 -リーディング）</p> <p>第15回：Unit 15 Business &amp; Management（ビジネスと経営）</p>		
定期試験			
テキスト			
SUCCESSFUL STEPS FOR THE TOEIC L&R TEST -New Edition-, 2018年, ISBN978-4-791-93421-8, 塚野壽一 / 山本厚子 / 大須賀直子 / Robert Van Benthuyzen, 成美堂			
参考書・参考資料等			
※教科書およびeラーニング教材については、1期で購入済みの者は改めて購入する必要はない。 ただし、2期のみを再履修する者については、eラーニング教材を購入する必要があるので、別途指示をする。			
学生に対する評価			
言語活動への主体的な取組 10%、eラーニングへの取組 20%、小テスト、Google Formsによる課題の提出 20%、定期テスト 50%			

授業科目名：教育原理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林修典 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
授業のテーマ及び到達目標	教育に関する理念や、教育の歴史および思想についての理解を深めることにより、さまざまな教育の問題を考えることができる力を養う。					
<b>授業の概要</b>  人間生活の向上・発展を目指した教育の本質と目的とを考察する。青少年を取り巻く環境の変化の激しい今日、青少年の各発達段階での課題を正しく把握したうえで、教育の普遍的な価値観とは何かを問うことは重要である。と同時に、教育の営みを歴史的観点から振りかえり、それによって得た知見を今日の教育の諸問題の分析に役立てることも求められている。さらに、教育の場としての家庭、学校、社会のそれぞれの役割と相互関連について理解し、望ましい教育環境とは何かを考察する。そして、グローバリゼーションの時代に求められる教育の特質を吟味し、現代の日本の青少年の教育には何が求められているかを考察する。						
<b>授業計画</b>  第1回：オリエンテーション 第2回：青少年の成長と教育 第3回：青年期の課題 第4回：変容の時代の教育 第5回：教育の理念一本質と目的 第6回：教育の歴史的展開 西洋（1）古典古代～近代 第7回：教育の歴史的展開 西洋（2）子どもの世紀・アジア 第8回：教育の歴史的展開 日本（1）近世・明治 第9回：教育の歴史的展開 日本（2）大正・昭和 第10回：現代の教育問題 第11回：家庭での社会化と教育 第12回：学校教育（1）学校という社会 第13回：学校教育（2）学習観 第14回：グローバル社会の教育 第15回：まとめ 教育の課題 定期試験						
<b>テキスト</b>  教育史入門（森山輝紀・小玉重夫著、NHK出版） よくわかる教育原理（汐見稔幸ほか、ミネルヴァ書房）						
<b>参考書・参考資料等</b>  特になし						
<b>学生に対する評価</b>  小レポート（2回） 30%、期末レポート 20%、試験 50%						

授業科目名：教職基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：小橋雅彦 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>将来ぜひ教師になりたいという使命感を養う。</p> <p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容についての知識を身に付け、さらに教職に対する適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>教育職員免許法施行規則に定められた教職専門科目「教職の意義等に関する科目」である当該科目は、入学後の早い時期に「職業として教職を選択することはどういうことか」を理解し、人生設計の最初の段階の意思決定を行うことを目的としている。従って、教師としての在り方・生き方を学ぶための教職への志向と一体感の形成に資する科目として位置づけ、教職の基礎に関する講義を中心とするが、優れた実践例を通した主体的な学びも重視する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育基礎ガイダンス（今後3年半にわたる教職履修の流れと履修内容を包括的に理解する）</p> <p>第2回：教職の意義</p> <p>第3回：「小学校教師 菊池省三の仕事」視聴、レポート①作成・提出</p> <p>第4回：教員養成と教員採用</p> <p>第5回：チームとしての学校</p> <p>第6回：「中学教師 鹿嶋真弓の仕事」視聴、レポート②作成・提出</p> <p>第7回：教師に必要な資質・能力</p> <p>第8回：教師の服務内容</p> <p>第9回：「高校教師 大瀧雅良の仕事」視聴、レポート③作成・提出</p> <p>第10回：教師の仕事：授業－教えるということ</p> <p>第11回：教師の仕事：生徒指導・学級経営・危機管理</p> <p>第12回：「管理栄養士 佐々木十美の仕事」視聴、レポート④作成・提出</p> <p>第13回：教師の仕事：校務分掌とマネジメント</p> <p>第14回：教師はどのように育っていくか</p> <p>第15回：『校長 荒瀬克己の仕事』視聴、レポート⑤作成・提出</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
<p>テキスト</p> <p>プリント等を配付する。</p>						
<p>参考書・参考資料等</p> <p>新・ティーチング・プロフェッショナル（曾余田浩史・岡東壽隆編著、明治図書）</p>						
<p>学生に対する評価</p> <p>講義への取り組み度 20%、レポート 80%</p>						

授業科目名：学校経営論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊藤豊美 担当形態：単独		
	科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）				
授業のテーマ及び到達目標		<p>学校を組織として機能させるための基本的な法令の知識並びに学校を取り巻く地域及び児童・生徒・教師の実態等を理解し、実践力を身につけることができる。</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>新しい時代の学校経営の基本について研究するとともに、その現代的意義や課題について考える。講義だけにとどまらず、討論や特別講義等も取り入れながら、学校経営を取り巻く諸問題について多角的に捉えて解決への道筋を探る。</p> <p>教職課程コアカリキュラムに示された「教育に関する社会的・制度的又は経営的事項」に関する事項を、その全体目標及び下位項目として設定されている五つに区分された項目のそれぞれの一般目標を達成する授業とする。</p>					
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：日本の教育制度の現状並びに諸外国の教育事情と教育改革の動向</p> <p>第2回：教育行政の組織と教育委員会</p> <p>第3回：学校の活性化を目指す教育目標とPDCAの意義</p> <p>第4回：PDCAと教育課程編成の実際</p> <p>第5回：個性の伸長を図る教科指導と特別活動</p> <p>第6回：生徒指導の諸問題</p> <p>第7回：体罰の禁止と事故防止</p> <p>第8回：教員の任用・服務・研修</p> <p>第9回：学校経営の組織構成と運営（地域に開かれた学校づくりを目指して）</p> <p>第10回：社会教育と関係諸団体・機関との連携・地域社会との協働</p> <p>第11回：学校における安全管理と安全教育</p> <p>第12回：討論：いじめ問題と学校経営（チーム学校としていじめ問題に取り組む）</p> <p>第13回：討論：各教科の指導上の課題と今後の展望</p> <p>第14回：「学校運営と人権教育」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）</p> <p>第15回：「人権教育の実際」（岡山市人権啓発センター職員・元小学校長による特別講義）</p> <p>定期試験</p>					
<p><b>テキスト</b></p> <p>プリント等を配付する。</p>					
<p><b>参考書・参考資料等</b></p> <p>学校経営論 重要用語300の基礎知識（岡東壽隆、明治図書）</p>					
<p><b>学生に対する評価</b></p> <p>講義への取り組み度 20% レポート 10% 期末試験 70%</p>					

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：西 隆太朗 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理 解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
教育とは、人と人とのかかわりによって成り立つ営みである。かかわりの中での学びは、児童生徒の側だけに生じるものではなく、教師の側でも深められている。本授業ではこうした相互的な関係性の視点から、児童生徒の心身の発達を理解し、児童生徒の学びとその過程を捉え、そしてそれを支える教師のかかわりを具体的に考えていく。こうした教師のかかわりを考えるために、発達と学習に関する理論と、その教育の場における具体的実践についての理解を深める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：発達と教育をどう見るか						
第2回：児童生徒の心身の発達に関する理論：ライフサイクルの視点						
第3回：児童生徒の心身の発達(1) 乳幼児期の発達と小学校への接続						
第4回：児童生徒の心身の発達(2) 児童期の発達						
第5回：児童生徒の心身の発達(3) 思春期の発達						
第6回：児童生徒の心身の発達(4) 青年期と生涯発達						
第7回：児童生徒の学習に関する理論：個人の学びと社会的実践						
第8回：主体的学習を支える動機づけ						
第9回：主体的学習を支える集団づくり						
第10回：主体的学習を支える学習評価とアセスメント						
第11回：主体的な学習活動を支えるために：教育実践を心理学的に読み解く視点						
第12回：児童生徒の発達と学びを支える(1) 授業分析						
第13回：児童生徒の発達と学びを支える(2) 発達の多様性						
第14回：児童生徒の発達と学びを支える(3) 個と集団の関係						
第15回：教育における学びと相互的な関係性						
定期試験（レポートによる）						
テキスト なし						
<b>参考書・参考資料等</b>						
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）						
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b>						
毎授業時の課題 30% 期末レポート 70%						

授業科目名： 特別支援教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：青山新吾 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、そのための指導・支援を行うための基礎的知識を扱う。主たる障害についての特性を理解すると共に、それらを踏まえての実際的な指導についての基礎的事項を理解することを目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
2007年に学校教育法の一部改正により実施された特別支援教育にかかる基礎的事項は、すべての教員にとって不可欠なものである。本授業では、特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の有する困難性、障害特性やその対応について、及び特別支援の視点を取り入れた保育、教育の現状や基礎的事項からインクルーシブ教育の今後についての解説を行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：「障害」とは何か：「障害」の捉え方						
第2回：特別支援教育とは何か：特別支援教育コーディネーターを軸とする支援体制の構築						
第3回：特別な支援を必要とする子どもとは（1）自閉症スペクトラムのある子どもと教育						
第4回：特別な支援を必要とする子どもとは（2）LD, ADHDのある子どもと教育						
第5回：特別な支援を必要とする子どもとは（3）言語障害、場面緘默のある子どもと教育						
第6回：特別な支援を必要とする子どもとは（4）知的障害のある子どもと教育						
第7回：特別な支援を必要とする子どもとは（5）視覚障害、聴覚障害のある子どもと教育						
第8回：特別な支援を必要とする子どもとは（6）病弱・身体虚弱、肢体不自由のある子どもと教育						
第9回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（1）幼稚園等における取組						
第10回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（2）小学校における取組						
第11回：特別支援の視点を取り入れた保育・教育（3）中学校、高等学校等における取組						
第12回：障害以外から生じる特別な支援：貧困や日本語以外を母国語とする子ども等と教育						
第13回：キャリア教育と特別支援教育：関係機関との連携による将来につなげるための指導の実際						
第14回：特別支援教育における家族との協働：保護者の語りから学ぶ						
第15回：インクルーシブ教育と共生社会の構築：障害の有無にとらわれない多様な実態の生徒を前提とした教育						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特別支援教育（廣瀬由美子・石塚謙二編著、ミネルヴァ書房）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
特別支援教育を創る（青山新吾著、明治図書）						
インクルーシブ教育ってどんな教育？（青山新吾他編著、学事出版）						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験	60%	レポート（学期中に2回提出）	40%			

授業科目名：教育課程論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：小橋雅彦 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>学習指導要領を基にして編成する教育課程のもつ意義が理解できる。</p> <p>理論的・実践的な資質を培うことで、学校種、地域や生徒の実態に応じた教育課程を編成することができる。</p> <p>教科や学年を横断するカリキュラムの在り方を理解し、カリキュラム・マネジメントの手法が獲得できる。</p> <p>I C T の活用方法と利用上の課題を理解した上で、生徒に指導することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>教育基本法に定める教育の目的と目標の達成を目指すために必要な教育の在り方を具体化する教育課程の基礎的な内容を理解することを目的とする。授業では、学習指導要領・総則編を基に、小学校・中学校・高等学校における教育課程の意義及び編成の方法を理解し、教育課程を理論的・実践的な面から検討、考察する。また、カリキュラム・マネジメントの意義と評価の在り方、教育技術としてのICT活用法と留意事項、及び効果的な教育活動の展開について理解する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：オリエンテーション、教育課程の意義</p> <p>第2回：教育課程に関する関係法規</p> <p>第3回：学習指導要領改訂の歴史（戦後の試案から経済成長期まで）</p> <p>第4回：学習指導要領改訂の歴史（ゆとり教育から平成20年まで）</p> <p>第5回：新学習指導要領の特徴（小学校・中学校）</p> <p>第6回：新学習指導要領の特徴（高等学校）</p> <p>第7回：教育課程の役割と機能</p> <p>第8回：教育課程編成の基本原理</p> <p>第9回：教育課程編成の実際（小学校・中学校）</p> <p>第10回：教育課程編成の実際（高等学校）</p> <p>第11回：教育課程編成上の諸問題と指導計画の検討</p> <p>第12回：カリキュラム・マネジメントの意義と評価</p> <p>第13回：I C T 教育の実際と課題</p> <p>第14回：教育課程の評価と改善、及び主体的、対話的で深い学びの在り方</p> <p>第15回：教育課題の解決と教育課程</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
<p>中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）</p> <p>※文部科学省ホームページからPDF形式でダウンロードできるが、付録がないなど学習上不都合があるので、冊子を購入したい。</p>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>※以上は、文部科学省ホームページからPDF形式でダウンロードできる。</p> <p>※毎回の授業でプリントを配付する。その他は、授業時に提示する。</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への取り組み度（各時間の振り返り） 20%， 課題レポート 20%， 定期試験 60%						

授業科目名： 総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：森 泰三、 家入博徳 担当形態：オムニバス			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の指導法</li> <li>・特別活動の指導法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>総合的な学習の時間の意義と原理を理解し、各学校における全体指導計画、年間計画、指導案作成の基本的な考え方を理解するとともに、評価・改善の在り方を身に付け表現できる。</p> <p>特別活動の意義や目標及び内容を理解し、指導の際に必要な知識や実践的指導力を身に付け表現できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>総合的な学習（探究）の時間及び特別活動について、それぞれの意義や目標、課題、内容、指導方法、指導計画、評価方法などを理解し、教科横断的な学習であることを念頭に置いて指導計画を作成する。また、実践方法を考えるための、基礎的な知識や技能を身につけることをめざす。そのために、学習指導要領の内容や関連する実践事例を踏まえて議論、検討する。さらに、中学校・高等学校における実践事例を研究し、改善の方向を議論、検討する。</p> <p>総合的な学習（探究）の時間については、各教科等で育成される見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多種多様な視点から探究する学びができるように、指導、実践、評価の各方法を修得する。</p> <p>特別活動については、学校における多種多様な集団での活動、課題の発見や解決などから、よりよい集団づくりや学校生活をめざすことができるよう、指導、実践、評価の各方法を修得する。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：総合的な学習（探究）の時間及び特別活動の意義（担当：森）</p> <p>第2回：学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間の目標と内容（担当：森）</p> <p>第3回：教科横断型学習に基づく指導計画の作成（担当：森）</p> <p>第4回：総合的な学習の時間の全体計画（担当：森）</p> <p>第5回：年間指導計画と単元計画の作成（担当：森）</p> <p>第6回：総合的な学習（探究）の時間の実際、評価と体制（担当：森）</p> <p>第7回：総合的な学習の時間プラン発表①（担当：森）</p> <p>第8回：総合的な学習の時間プラン発表②（担当：森）</p> <p>第9回：学習指導要領における特別活動の目標と内容（担当：家入）</p> <p>第10回：教育課程と特別活動（担当：家入）</p> <p>第11回：学級活動、ホームルームの指導の在り方（担当：家入）</p> <p>第12回：生徒会活動、学校行事の特質と指導の在り方（担当：家入）</p> <p>第13回：特別活動と家庭・地域・関係機関との連携（担当：家入）</p> <p>第14回：特別活動の実践事例（担当：家入）</p> <p>第15回：特別活動の評価と改善の在り方（担当：家入）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>						
<b>テキスト</b>						
<p>中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月 文部科学省）</p> <p>特別活動指導法 改訂2版（渡部邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編著、日本文教出版）</p>						

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年7月 文部科学省）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）

小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

授業への取り組み度、授業課題 60%、課題レポート 40%

授業科目名：教育方法論 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高旗 浩志 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>中等教育教員に求められる「教育の方法及び技術」ならびに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の基本を習得する。学習指導をめぐる理論・実践史等を学ぶことで見識を深めるとともに、授業づくりにおける「読解力（学習指導案から授業をイメージし、その良さと課題を言語化する力）」、「構想力（教科学習に係る生徒の実態を踏まえた教材研究と単元構想ができる力）」、「展開力（自らの構想した学習指導案に基づいて授業を実践する力）」、「評価力（生徒の学習活動を評価するととともに、自他の授業の良さや課題を言語化できる力）」を高めることを目指す。具体的には次の3点を重視する。</p> <p>①確かな学力（生きる力）を育成する学習指導の基礎基本を理解する。</p> <p>②学習指導やICT利活用をめぐる様々な理論・実践を理解して見識を深め、基本的な指導技術を身につける。</p> <p>③現代的教育課題を踏まえた学習指導の必要を理解する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>授業は次代を担う子どもたちに必要な資質能力を育む重要な場である。この講義では、学習指導場面における教育の方法と技術ならびにICTを活用した教育の方法について、その理論的な背景も含めて理解する。欧米の教授学の歴史や日本の授業実践史を学ぶとともに、現代的教育課題も視野に収めつつ理論と実践を架橋する。具体的には、学習指導の技法とその背後にある思想、我が国の教育課程を支える学習指導要領の変遷と内容、学習指導案作成や授業づくりの基礎基本（教材研究、指示・発問・評価言、指導方略、学習形態、教育評価）、教育方法の今日的課題（「主体的・対話的で深い学び」、「特別なニーズへの対応」、「個別最適な学びと協働的な学び」等）、授業とICT活用及び情報活用能力の育成といった内容に取り組む。講義形式を中心とするが、実践事例の検討やケーススタディ等に関しては、協同学習の手法を取り入れ、演習的に行う場合もある。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：「教育方法論」の目的と概要</p> <p>第2回：教育方法学の歴史（1）：近代以前～国民国家の教育</p> <p>第3回：教育方法学の歴史（2）：経験主義と系統主義</p> <p>第4回：学習指導要領の変遷と今日的課題（1）：学習指導要領とはなにか？</p>						

第5回：学習指導要領の変遷と今日的課題（2）：「主体的・対話的で深い学び」と「資質能力」論  
第6回：学習指導案と授業づくりを理解する（1）：教材研究と「単元観・指導観・生徒観」  
第7回：学習指導案と授業づくりを理解する（2）：単元構成と評価規準・評価基準と学習評価  
第8回：ICT活用による授業構成の教育工学的アプローチ  
第9回：ICT活用の必要とその社会的背景（1）：「個別最適な学び」と「協働的な学び」  
第10回：ICT活用の必要とその社会的背景（2）：学校におけるICT環境の整備と校務支援  
第11回：授業に生かすICT（1）：デジタル教材の利用と活用  
第12回：授業に生かすICT（2）：LMS（Learning Management System）の利用と活用  
第13回：授業に生かすICT（3）：遠隔・オンライン授業の方法と演習  
第14回：ICTを活用した教材づくり  
第15回：情報活用能力と情報モラルの育成  
定期試験は実施しない。

#### テキスト

- ・取得を希望する免許校種の『学習指導要領解説 総則編』（文部科学省）
- ・取得を希望する免許教科・校種の『学習指導要領解説 ○○科編』（文部科学省）
- ・講義用資料を別途作成し配布します。また参考文献やURL等は講義中に適宜指示します。

#### 参考書・参考資料等

はじめての授業のデジタルトランスフォーメーション（高橋純編著、東洋館出版社）

#### 学生に対する評価

毎回の講義終了後に作成する400字以上～600字以内のレポートの平均点で評価します（100%）。

授業科目名： 生徒指導及び進路指導・キャリア教育の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：伊木 洋 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>学校教育活動全体を通して行われる生徒指導、進路指導及びキャリア教育の実践課題について考察を深めるとともに、他の教職員や関係機関と連携を図りながら組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、社会的な存在として現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう指導する生徒指導と、社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身に付け、主体的に進路を選択することができるよう指導する進路指導及びキャリア教育の実践課題について、生徒指導実践理論を踏まえ、学校教育における具体的な指導事例を取り上げて考察し、組織的に生徒指導、進路指導及びキャリア教育を実践していくための指導原理と方法を学ぶ。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置づけ						
第2回：生徒指導、進路指導及びキャリア教育の定義及び意義						
第3回：生徒指導における集団指導・個別指導の方法原理、進路指導及びキャリア教育の視点						
第4回：チーム学校による生徒指導体制、進路指導及びキャリア教育の指導体制の確立						
第5回：生徒指導の実践を支える基底(中学校教諭による特別講義)						
第6回：共感的理解に基づく生徒指導の重要性、テスト(1)						
第7回：生徒指導、キャリア教育の視点を生かした組織的な学校経営、カリキュラム・マネジメント						
第8回：生徒指導を生かした学級経営による基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成						
第9回：特別活動（体育祭）を通して行う自己存在感を育む生徒指導						
第10回：特別活動（卒業合唱）を通して行う自己存在感を育む生徒指導						
第11回：生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方と違いの理解						
第12回：生徒指導に関する法令の理解を踏まえた個別の課題を抱える生徒への指導の原則						
第13回：いじめ、暴力行為、虐待、自殺、不登校、中途退学、インターネット、性に関する問題等今日的な課題に対する指導と専門家や関係機関との連携						
第14回：進路指導及びキャリア教育におけるガイダンスとカウンセリング、自己評価、テスト(2)						
第15回：各教科・道徳教育・総合的な学習（探究）の時間における生徒指導と進路指導及びキャリア教育						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
生徒指導提要（令和4年8月 文部科学省）						
中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）						
高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
キャリア教育のススメ（文部科学省国立教育政策研究所編、東京書籍）						
中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月 文部科学省）						
高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月 文部科学省）						
<b>学生に対する評価</b>						
授業への参加姿勢（30%），提出課題・レポート（30%），テスト（40%）						

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：日下紀子 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>教育相談の意義と課題を理解し、説明できる。</p> <p>学校現場に生じる問題の背景にある心理メカニズムを理解し、これを活用した働きかけができる。</p> <p>全ての生徒を対象とした進路指導・キャリア教育上の課題に向き合うための教育相談の在り方を理解し説明できる。</p> <p>個別の課題に向き合うための教育相談の方法とその際に必要な組織的な取り組みや、家庭、地域、専門機関との連携を考え、説明できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>問題行動・逸脱行動、あるいは大きな悩みや苦痛を抱えた児童生徒を前にしたとき、教師は、彼らがどのような気持ちを抱きながら困っているのかという心理的メカニズムを理解することが重要である。またそのようなときには保護者が抱える困難感についての心理的理解も同時に必要である。学校現場にて教育相談を進める際には、子どもの個々の心理的特質や教育課題を適切に捉え、カウンセリングマインドに基づいた受容・傾聴、共感的理解等の姿勢と技法が必要になる。その基本について学び、理解する。さらには、教育相談における組織的な取り組みや連携の必要性を理解し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの多職種を有効に活用しながら、教師が児童生徒と保護者の支援を行っていく道筋を具体例を通して学んでいく。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業ガイダンス、学校教育相談の変遷 第2回：教育相談の意義と目的、課題 第3回：子どもたち（幼児・児童・思春期・青年期）の発達課題と心の問題 第4回：校内ニーズの把握（子ども・保護者・教師）・心の問題と進路指導・キャリア教育の視点 第5回：心の問題とそのシグナルに気づき、発達課題、関係性を理解する 第6回：学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性 第7回：受容・傾聴・共感的理解 第8回：不登校現象の今日的意味と個々の発達課題の理解－教育相談の目標 第9回：保護者とともに子どもとの関係性を理解する－保護者との連携・教育相談の進め方 第10回：問題行動（いじめ、虐待、非行等）の心理と意義の理解－教育相談の計画と進め方 第11回：心の病と心の傷（トラウマ）への対応－教育相談の展開 第12回：さまざまなトピックス：性的マイノリティ（LGBT）・メンタルヘルス 第13回：教育相談におけるアセスメント 第14回：学校内外の組織的指導体制と取り組み 第15回：家庭や地域、専門機関との連携 定期試験						

**テキスト**

教育相談—よくわかる！教職エクササイズ③（森田健宏・吉田佐治子編著、ミネルヴァ書房）

**参考書・参考資料等**

中学校生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

子どものこころ、大人のこころ—先生や保護者が判断を誤らないための手引書一（原田眞理著、ナカニシヤ出版）

教育相談の理論と方法（原田眞理著、玉川大学出版部）

学校臨床に役立つ精神分析（平井正三・上田順一編著、誠信書房）

学校現場に生かす精神分析—学ぶことと教えることの情緒的体験（Iザルツバーガー・ウィックテンバーグ他著 平井正三他監訳、岩崎学術出版社）

学校現場に生かす精神分析【実践編】（ビディ・ヨーエル著 平井正三監訳・鈴木誠訳、岩崎学術出版社）

**学生に対する評価**

授業への取り組み態度・リアクションシート 30%、小テスト 10%

期末課題レポート 60%

## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2単位	担当教員名 小橋雅彦・伊木洋・家入博徳・森泰三・立石麻美子		
科 目	教育実践に関する科目			
履修時期	4年次後期			
受講者数	20人(5クラスで実施)			
教員の連携・協力体制				
<p>以下の授業計画に示すとおり、5名全員で指導する場合と、各免許状取得科目別に個別に指導する場合と、それぞれの専門領域を活かしながら連携・協力して実施する。</p> <p>全員で指導する内容：現地調査・役割演技・演習（中心となる担当者を残り4名で補佐する）</p> <p>個別に指導する内容：事例研究・模擬授業</p> <p>より良い連携・協力体制を構築するために、事前に5名による連絡会議を複数回実施する。</p>				
授業のテーマ及び到達目標				
<p>教職課程における学びをふりかえり、教員として必要な知識・技能の習得について自己を見つめ、学びの成果と今後の課題を記述することができる。</p>				
授業の概要				
<p>教職課程履修の総括として4年間の学びをふまえ、教員免許取得までにさらに習得すべき知識や技能等を明確にし、教育者としての愛情と使命感を深め、学校教育において必要とされる教育実践及び教育実践研究の基礎的な能力を身に付ける。のために、学校現場での学びを含む幅広い内容で授業を構成し、現地調査、事例研究、グループ討議等、演習形式で授業を行う。</p>				
授業計画				
第1回：演習①「青年教師としての在り方・生き方」(グループ討議) (担当：全教員)				
第2回：演習②「教育課程の実際とICTの活用」(グループ討議) (担当：全教員)				
第3回：演習③「生徒指導の理論と実践」(グループ討議) (担当：全教員)				
第4回：演習④「学校運営と地域連携の在り方」(グループ討議) (担当：全教員)				
第5回：現地調査①「授業参観」(中学校) (担当：全教員)				
第6回：現地調査②「授業参観」(高等学校) (担当：全教員)				
第7回：現地調査③「教育の心」(訪問学校の校長による講話) (担当：全教員)				
第8回：現地調査④「学校現場の実際」(訪問学校の教員とのグループ討論) (担当：全教員)				
第9回：演習⑤「これからの方に期待すること」(グループ討議) (元校長会会長) (担当：全教員)				
第10回：演習⑥「女性教師としての生き方」(グループ討議) (元中学校長) (担当：全教員)				
第11回：事例研究①「より良い授業を目指して」(現職教諭) (担当：クラス分け)				
第12回：事例研究②「心の教育をいかに実践するか」(現職教諭) (担当：クラス分け)				
第13回：模擬授業①(中学校<ロールプレイを含む>) (担当：クラス分け)				
第14回：模擬授業②(高等学校<ロールプレイを含む>) (担当：クラス分け)				
第15回：4年間の総括 (担当：全教員)				
定期試験				

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編、（平成29年告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総則編、（平成30年告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

担当者から別途指示する。

学生に対する評価

授業時の活動状況：40%，課題レポート：30%，定期試験：30%

- ※ 1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※ 2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。